

大豆のべと病・紫斑病の発生に注意しましょう！

本年作の大豆は、播種以降、低温・日照不足・多雨傾向で経過しており、今後、べと病や紫斑病が多発する可能性があります。また、降雨等の影響により、播種時期がほ場によりバラツキがあるため、前述の病害の防除適期を見誤りやすいと考えられます。ほ場ごとに開花期などの生育状況を良く確認し、適期を逃すことのないよう注意しながら、防除対策を徹底しましょう。

1 べと病の特徴

- (1) 病原菌は糸状菌で、比較的冷涼で降雨が多いときに多発する。病徴は主に葉に発生するが、子実も侵される。病原菌は子実や被害茎葉で越冬するので、残渣が翌年の伝染源となる。
- (2) 葉が侵されると、初め淡黄白・円形の小斑点を生じ、しだいに融合して不整形の褐色病斑になり早期落葉する。
- (3) 子実が侵されると、表皮が乳白色から黄褐色のカサブタ状になり、粒の大きさが健全粒に比べ小さくなる。



写真左：べと病（葉表）



写真中：べと病（葉裏）



写真右：べと病（子実）

2 べと病の防除対策

- (1) **開花10日前～子実肥大期**に薬剤防除する。
 - ①開花前にべと病が発生した場合は、茎葉に薬剤を散布する。
 - ②開花後の早い時期に薬剤を散布する。
 - ③発生が拡大する場合は、開花40日後までに追加防除する。
- (2) 調製は丁寧に行い、べと病粒を除去する。
- (3) 多発した場合、次作の同ほ場への大豆の作付を避ける。

表1 大豆のべと病に登録のある主な防除薬剤(令和元(2019)年7月10日現在)

薬剤名	希釈倍数 使用量	使用時期	使用回数	有効成分名(グループ名)	FRAC コード
ランマンフロアブル	1000～2000倍	収穫7日前まで	3回以内	シアゾファミド(QiI殺菌剤)	21
アミスター20フロアブル	2000倍	収穫7日前まで	2回以内	アゾキシストロビン(QoI殺菌剤)	11
ベトファイター顆粒水和剤	2000～3000倍	収穫7日前まで	2回以内	シモキサニル(シアノアセトアミド-オキシム)、ベンチアバリカルブイソプロピル(CAA殺菌剤)	27 40
フェスティバルC水和剤	600倍	収穫7日前まで	3回以内	ジメトルフ(CAA殺菌剤)、銅(無機化合物)	40 M01
プロポーズ顆粒水和剤	1000倍	収穫21日前まで	2回以内	TPN(クロロニトリル)、ベンチアバリカルブイソプロピル(CAA殺菌剤)	M05 40
リドミルゴールドMZ	500倍	収穫45日前まで	3回以内	マンゼブ(ジチオカーバメート)、メタラキシル及びメタラキシルM(PA殺菌剤)	M03 4
撒粉ボルドー粉剤DL	4kg/10a	-	-	銅(無機化合物)	M01

※QoI殺菌剤は、耐性菌が発生しやすいので隔年使用とし、同一年における使用回数は1回とする。

※FRACコードが同一のものは作用点が同じなので、連用を避ける。

3 紫斑病の特徴

- (1) 病原菌は糸状菌で、結実期頃の気温が18℃前後で降雨が多いときに多発する。
- (2) 病徴は種子や葉に発生し、種子では臍（へそ）を中心に表面に紫色の斑点を生ずる。ひどい場合は種皮の大部分が紫色に変じて品質を大幅に低下させる。
- (3) 病原菌は種子の内部で越冬し、翌年、大豆の発芽・成長にともない、子葉、葉、さや、種子へと感染を広げる。病原菌に侵された種子や被害茎葉は次年作の伝染源となる。



写真：紫斑病（子実）

4 紫斑病の防除対策

- (1) 散布時期は**開花 15～35 日後**とし、1回目散布はこの期間の早い時期に行う。
 - 銅剤、ビスグアニジン：予防効果
 - QoI 殺菌剤、DMI 殺菌剤：予防効果と治療効果
- (2) 防除効果が高い QoI 殺菌剤（FRAC コード：1 1）を基軸にした防除体系とする。ただし、QoI 殺菌剤は耐性菌が出現しやすいので、隔年使用とし、同一年における使用回数は1回とする。
- (3) FRAC コードが同一の薬剤は作用点が同じなので、連用を避ける。
- (4) 薬剤散布は茎葉にまんべんなく付着するように丁寧に行う。
- (5) チオファネート系、ベンゾイミダゾール系の薬剤（トップジン M、ベンレート等）は、耐性菌発生率が高いので使用しない。
- (6) 収穫後乾燥せずに放置すると、紫斑粒率が増加するので、収穫後は速やかに乾燥する。
- (7) 多発した場合、次作の同ほ場への大豆の作付を避ける。

表2 大豆の紫斑病に登録のある主な防除薬剤(令和元(2019)年7月10日現在)

薬剤名	希釈倍数	使用時期	使用回数	有効成分名(グループ名)	FRAC コード
アミスター20フロアブル	2000～3000倍	収穫7日前まで	2回以内	アゾキシストロビン(QoI殺菌剤)	11
ファンタジスタ顆粒水和剤	2000～4000倍	収穫7日前まで	3回以内	ピリベンカルブ(QoI殺菌剤)	11
ファンタジスタフロアブル	1000～2000倍	収穫7日前まで	3回以内	ピリベンカルブ(QoI殺菌剤)	11
サンリット水和剤	1000～2000倍	収穫14日前まで	2回以内	シメコナゾール(DMI殺菌剤)	3
ベルコートフロアブル	1000倍	収穫7日前まで	4回以内	イミノクタジンアルベシル酸塩(ビスグアニジン)	M07
Zボルドー	500倍	-	-	銅(無機化合物)	M01

※QoI殺菌剤は、耐性菌が発生しやすいので隔年使用とし、同一年における使用回数は1回とする。

※FRACコードが同一のものは作用点が同じなので、連用を避ける。

詳細は、農業環境指導センター（TEL 028-626-3086）までお問合せ下さい。

病害虫情報発表のお知らせはツイッター「栃木県農政部 (@tochigi_nousei)」、[農業環境指導センターホームページ \(http://www.jpnp.ne.jp/tochigi/index.html\)](http://www.jpnp.ne.jp/tochigi/index.html) でもご覧になれます。

イチゴ炭疽病、萎黄病の発生に注意しましょう

イチゴ炭疽病と萎黄病は、高温・多湿の条件で発生が多くなります。気象予報では、8月から10月にかけて平均気温は平年並または高くなる見込みですので、これらの病害の発生に注意し、防除対策を徹底しましょう。定植前に苗を厳選し、罹病株を本ばに持ち込まないことが重要です。

1 炭疽病

植物体の濡れ時間が長いと感染・発病が助長されます。かん水は午前中に行い、夕方には地上部が乾いた状態になるよう、かん水の時間や量を調節しましょう。濡れ時間を短縮でき、発病を抑制することができます。

(1) 炭疽病の症状



写真1 葉柄の病斑（左）、苗の萎凋（中）、定植後の萎凋（右）

(2) 炭疽病の防除対策

- ・ 胞子が雨やかん水のしぶきに混じって飛散し、伝染するので、頭上かん水は避け、できるだけ水の跳ね返りのないようなかん水を行う。
- ・ 発病してからの防除は困難なので、予防を主体に薬剤をローテーション散布する。
- ・ 発病株や感染が疑われる株は見つけしだい取り除き、嫌氣的発酵処理（抜き取った株を肥料袋等に詰め、空気を排出し口をしっかりと閉じて、日当たりのよい野外に放置する）後に処分する。

表1 イチゴ炭疽病に登録がある主な薬剤

(令和元(2019)年7月26日現在)

農薬の名称	希釈倍数	使用方法	使用時期	本剤の使用回数	有効成分の名称	有効成分を含む農薬の総使用回数	RACコード
キノドーフロアブル	500～800倍	散布	育苗期	3回以内	有機銅	3回以内	F:M1
ジマンダイセン水和剤	600倍	散布	仮植栽培期但し 収穫76日前まで	6回以内	マンゼブ	6回以内	F:M3
アントラコール顆粒水和剤	500倍	散布	仮植栽培期	6回以内	プロピネブ	6回以内	F:M3
ベルコートフロアブル	1000倍	散布	育苗期(定植前)	5回以内	イミノクタジナルベシル酸塩	【*1】	F:M7
オーソサイド水和剤80	800倍	散布	収穫30日前まで	3回以内	キャプタン	3回以内	F:M4
ゲッター水和剤	1000倍	散布	収穫開始21日 前まで	3回以内	ジエトフェンカルブ チオファネートメチル	6回以内 【*2】	F:10 F:1
サンリット水和剤	2000倍	散布	収穫前日まで	3回以内	シメコナゾール	3回以内	F:3
セイビアフロアブル20	1000倍	散布	収穫前日まで	3回以内	フルジオキシニル	3回以内	F:12
ファンベル顆粒水和剤	1000倍	散布	収穫前日まで	3回以内	イミノクタジナルベシル酸塩 ピリベンカルブ	【*1】 3回以内【*3】	F:M7 F:11
タフパール	2000～4000倍	散布	育苗期～ 収穫前日まで	-	タラロマイセス フラパス	-	F:-
ファンタジスタ顆粒水和剤	2000倍	散布	収穫前日まで	3回以内	ピリベンカルブ	3回以内【*3】	F:11

*1 10回以内(育苗期は5回以内、本圃では5回以内)。ベルコートフロアブルとファンベル顆粒水和剤はイミノクタジナルベシル酸塩を含むため、両剤の使用回数は合わせて前述の回数となる。

*2 4回以内(種子への処理は1回以内、は種後は3回以内)。ゲッター水和剤とトップジンM水和剤(萎黄病防除)はチオファネートメチルを含むため、両剤の使用回数は合わせて前述の回数となる。

*3 ファンベル顆粒水和剤とファンタジスタ顆粒水和剤はピリベンカルブを含むため、両剤の使用回数は合わせて3回以内となる。

※ RACコードが同一のものは作用点が同じなので連用を避ける。

2 萎黄病

病原菌は、根から侵入します。気温25℃以上で発病し、30℃以上になると多発します。

(1) 萎黄病の症状



写真2 葉の奇形（左）、クラウン部維管束の褐変（中）、収穫期の萎凋

(2) 萎黄病の防除対策

- ・発病してからの防除は困難なので、予防を主体に防除対策を実施する。厚壁胞子は耐久力が強く、土壤中で4～5年以上生存するので、前作に発生したほ場では、土壤消毒をしっかりと行う。また、土壤消毒を行った後、未消毒の土を混入しないよう注意する。
- ・発病株や感染が疑われる株は見つけしだい取り除き、嫌氣的発酵処理（抜き取った株を肥料袋等に詰め、空気を排出し口をしっかりと閉じて、日当たりのよい野外に放置する）後に処分する。

表2 イチゴ萎黄病に登録がある主な薬剤

(令和元(2019)年7月26日現在)

農薬の名称	希釈倍数 または使用量	使用方法	使用時期	本剤の 使用回数	有効成分の名称	有効成分を含む 農薬の 総使用回数	RAC コード
トップジンM水和剤	300～500倍	灌注	仮植時及び 仮植栽培期	3回以内	チオファネートメチル	【*1】	F:1
ベンレート水和剤	500倍	灌注	育苗期	3回以内	ベンゾミル	【*2】	F:1
クロルピクリン錠剤	1穴当り1錠	【*3】		2回以内 (床土1回 以内、圃場 1回以内)	クロルピクリン	3回以内(床土1回以 内、圃場2回以内)	I:8B
クロピクフロー	20～30L/10a	【*4】		1回	クロルピクリン	3回以内(床土1回以 内、圃場2回以内)	I:8B
ソイリン	20～30L/10a (1穴当り2～ 3mL)	【*5】	作付の10～15 日前まで	1回	D-D クロルピクリン	1回 3回以内(床土1回以 内、圃場2回以内)	I:8A I:8B
バスアミド微粒剤	20～30kg/10a	【*6】	仮植又は定植 21日前まで	1回	ダゾメット	1回	F:M3 I:8F,H,Z

*1 4回以内(種子への処理は1回以内、は種後は3回以内)。トップジンM水和剤とゲッター水和剤(炭疽病防除)はチオファネートメチルを含むため、両剤の使用回数は合わせて前述の回数となる。

*2 9回以内(種子粉衣は1回以内、苗根部浸漬は1回以内、育苗期の灌注は3回以内、本圃定植後の灌注は1回以内、散布は3回以内)

*3 土壌くん蒸(床土・堆肥)床土・堆肥を30cmの高さに積み30×30cm毎に1穴当り1錠処理する。〈圃場〉「1穴当り1錠処理」30×30cm毎に1錠処理する。

*4 耕起整地後、灌水チューブを設置し、その上からポリエチレン等で被覆する。その後、液肥混合器等を使用し、本剤を処理用の水に混入させ処理する。

*5 耕起整地後、30cm間隔のチドリ状に深さ約15cmに所定量を注入し、直ちに覆土し、ポリエチレン、ビニール等で被覆する。

*6 本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する。

※ RACコードが同一のものは作用点が同じなので連用を避ける。

詳細は、農業環境指導センター（TEL 028-626-3086）までお問合せ下さい。

病害虫情報発表のお知らせは「農政部ツイッター(@tochigi_nousei)」、農業環境指導センターホームページ（<http://www.jppn.ne.jp/tochigi/index.html>）でもご覧になれます。



6月～8月は「栃木県農薬危害防止運動」の実施期間です。
いつものチェック！ 農薬を使用する際は、ラベルをよく読み正しく使いましょう！

リンゴ褐斑病の発生が例年より早く、多発しています

8月上旬に宇都宮市、矢板市の7ほ場を調査した結果、リンゴ褐斑病が発生ほ場率、発生葉率共に高くなっています（表1、図）。本年は、5～7月に多雨や寡照が続いたため例年より早く発生したと考えられます。また、近年9月上旬の発生葉率が高くなっています。多発した場合、収穫期間中に早期落葉し収量に影響を及ぼすので、既に発生しているほ場や昨年度多発したほ場では特に注意を要します。

表1 発生状況の経年変化（％）

年度	8月上旬		9月上旬	
	ほ場率	葉率	ほ場率	葉率
R1 (2019)	100.0	1.4	—	—
H30 (2018)	0.0	0.0	50.0	1.5
H29 (2017)	0.0	0.0	75.0	1.9
H28 (2016)	0.0	0.0	50.0	0.0
H27 (2015)	0.0	0.0	33.3	0.0
H26 (2014)	16.7	0.0	33.3	0.0
H25 (2013)	0.0	0.0	0.0	0.0
H24 (2012)	33.3	0.7	—	—
H23 (2011)	0.0	0.0	—	—
H22 (2010)	0.0	0.0	—	—
H21 (2009)	0.0	0.0	—	—
平年値	5.0	0.1	40.3	0.6

※9月調査はH25(2013)年度～、平年値は6年間の平均

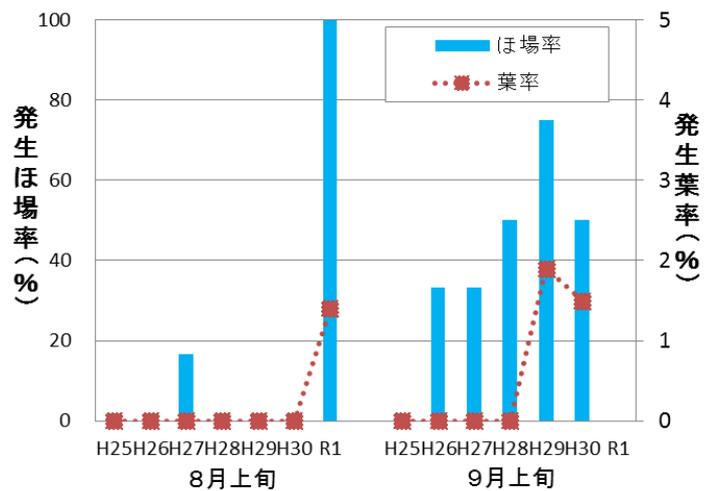


図 リンゴ褐斑病発生ほ場率・発生葉率の推移

1 褐斑病について

一次伝染源は前年の被害葉です。落葉上の子のう殻が晩秋から形成します。開花前頃に成熟した子のう胞子が形成され、開花期から落花30日後頃まで子のう胞子が飛散します。感染部分の病斑内に形成された分生胞子が二次伝染源となり、生育期間中の降雨のたびに胞子が伝搬され発生を繰り返します。



写真 不定形褐斑、胞子が虫糞状(黒点小粒)に着き、葉の黄化がみられる（左）
 樹冠内部に罹病葉の拡大がみられる（右）

2 防除対策

- ・定期的に園内を良く観察し、罹病葉が確認されたらトップジンM水和剤、ベンレート水和剤等、治療効果の高い剤を使用する。複数回使用している場合は耐性菌発生防止のため剤を変更し、連用を避ける。

<次年度に向けた対策>

- ・一次伝染源の密度を減らすため、落葉は集めて土中に埋めるなど適正に処理する。
- ・密植園や過繁茂による通風不良園では、樹冠内部の枝葉に薬剤がかかりにくく、葉も軟弱で感染・発病しやすくなるので樹形の改善を行うとともに園内環境整備を徹底する。

表2 リンゴ褐斑病に登録のある主な薬剤

令和元年8月14日現在

農薬の名称	希釈倍数	使用方法	使用時期	本剤使用回数	有効成分の名称	有効成分の総使用回数	RACコード
トップジンM水和剤	1500~2000倍	散布	収穫前日まで	6回以内	チオファネートメチル	10回以内(塗布は3回以内、灌注は1回以内、散布は6回以内)	F:1
ベンレート水和剤	2000~3000倍	散布	収穫前日まで	4回以内	ベノミル	4回以内	F:1
パレード15フロアブル	2000~3000倍	散布	収穫前日まで	2回以内	ピラジフルミド	2回以内	F:7
ストロビードライフロアブル	2000~3000倍	散布	収穫前日まで	3回以内	クレソキシムメチル	3回以内	F:11
ポリオキシシリンAL水和剤	1000倍	散布	収穫3日前まで	3回以内	ポリオキシシリン複合体	5回以内(散布は3回以内)	F:19
オーソサイド水和剤80	600~800倍	散布	収穫前日まで	6回以内	キャプタン	6回以内	F:M4
アリエッティC水和剤	800倍	散布	収穫前日まで	3回以内	1. キャプタン 2. ホセチル	1. 6回以内 2. 3回以内	F:M4・33
オキシラン水和剤	500~600倍	散布	収穫14日前まで	4回以内	1. キャプタン 2. 有機銅	1. 6回以内 2. 7回以内(塗布は3回以内、散布は4回以内)	F:M4・M1
ベルコートフロアブル	1000~1500倍	散布	収穫前日まで	6回以内(但し、開花期以降散布は3回以内)	イミノクタジナルベシル酸塩	8回以内(液剤及び水和剤は合計6回以内(開花期以降は3回以内)、塗布剤は2回以内)	F:M7
デュアルサイド水和剤	2000倍	散布	収穫3日前まで	3回以内	1. プロピレングリコールモノ脂肪酸エステル 2. ポリオキシシリン複合体	1. - 2. 5回以内(散布は3回以内)	I:-, F:19
ダイパワー水和剤	800~1000倍	散布	収穫前日まで	6回以内(但し、開花期以降散布は3回以内)	1. イミノクタジナルベシル酸塩 2. キャプタン	1. 8回以内(液剤及び水和剤は合計6回以内(開花期以降は3回以内)、塗布剤は2回以内) 2. 6回以内	M07, M04

※RACコードが同じものは作用点と同じなので連用を避ける
例) トップジンM水和剤、ベンレート水和剤は共にF:1

詳細は、農業環境指導センター (TEL 028-626-3086) までお問合せ下さい。

病虫害情報発表のお知らせは「農政部ツイッター(@tochigi_nousei)」、農業環境指導センターホームページ (<http://www.jppn.ne.jp/tochigi/index.html>) でもご覧になれます。



6月~8月は「栃木県農薬危害防止運動」の実施期間です。
いつものチェック! 農薬を使用する際は、ラベルをよく読み正しく使しましょう!

イネ縞葉枯ウイルス保毒虫率の高い地点が確認されています

令和元(2019)年11～12月に実施した調査では、イネ縞葉枯病の媒介虫であるヒメトビウンカの越冬世代幼虫のイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率は県平均で6.7%と平年並でした(図1・表1、県平均の平年値:6.8%)。保毒虫率を地域別に見ると、県中南部では依然として高い(防除が必要とされる保毒虫率10%を超える)地点が複数確認されたほか、県北部においてもやや上昇傾向にありました。

越冬世代幼虫の生息密度は34.4頭/10㎡と、平年よりやや少ない(平年比52%)状況でしたが、今後の気象条件によっては、来春のヒメトビウンカ第一世代幼虫の発生量が多くなる可能性もあり、注意が必要です。ヒメトビウンカは、再生稲やイネ科雑草に寄生し越冬します。そのため、畦畔の雑草管理や再生稲発生ほ場の耕起を確実にを行い、ヒメトビウンカの越冬場所を無くすことが、次年度のイネ縞葉枯病に対する有効な防除対策となります。これらの対策を実施し、次年度の発病を抑えましょう。

(イネ縞葉枯病の防除対策の詳細については、[病害虫防除対策のポイントNo.17](#)を当センターホームページ(HP)に掲載中)

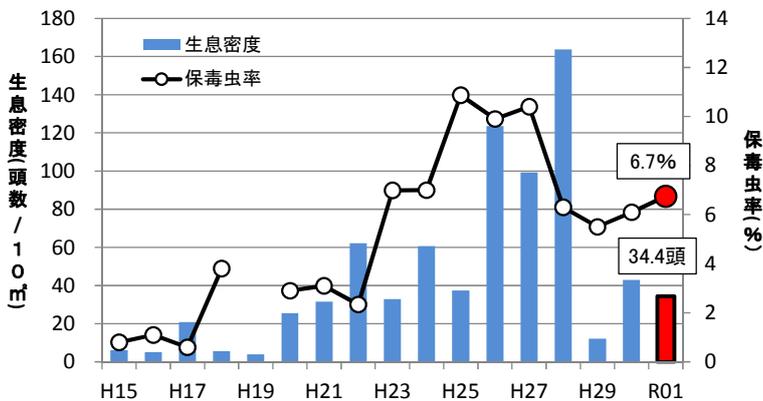


図1 ヒメトビウンカ越冬世代幼虫のイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率及び生息密度の推移



写真1 イネ科雑草に寄生するヒメトビウンカ



写真2 再生稲で発病した縞葉枯病

表1 ヒメトビウンカ越冬世代幼虫の地点別イネ縞葉枯ウイルス保毒虫率 (単位:%)

年		H29 2017	H30 2018	R01 2019
県北部	大田原市戸野内	1.0	1.0	5.3
	大田原市蛭畑	3.1	1.0	3.9
	大田原市親園	5.2	4.2	3.3
	那須烏山市滝田	5.2	3.1	4.3
	さくら市蒲須坂	4.2	3.1	8.7
	高根沢町花岡	5.2	6.3	4.3
県中部	真岡市青田	8.3	6.3	16.7
	宇都宮市横山	3.1	9.4	7.1
	宇都宮市雀宮	7.3	9.8	6.3
	上三川町上三川	7.3	13.5	6.5
	鹿沼市酒野谷	6.3	4.2	0.0
県南部	下野市絹板	13.5	13.5	13.3
	下野市小金井	11.5	5.2	9.4
	小山市小葉	1.0	8.3	4.2
	小山市石ノ上	8.3	10.4	13.8
	壬生町助谷	3.1	4.2	5.4
	栃木市惣社	4.2	5.2	4.2
	栃木市大平町真弓	0.0	1.0	9.4
	栃木市藤岡町富吉	9.4	5.4	0.0
	佐野市堀米	6.3	10.4	12.5
	足利市上洪垂	2.1	3.1	3.1
県北部	4.0	3.1	5.0	
県中部	6.5	8.6	7.3	
県南部	5.9	6.7	7.5	
平均値	5.5	6.1	6.7	

注:検定サンプルは、令和元(2019)年11月中旬～12月上旬に、水田畦畔や休耕田のイネ科雑草等から採取したヒメトビウンカ越冬世代幼虫を用いた。

検定方法: DAS-ELISA法 検定数: 27～96頭/1地点

詳細は、農業環境指導センター (TEL 028-626-3086) までお問合せ下さい。

病害虫情報発表のお知らせは当センターHP (<http://www.jppn.ne.jp/tochigi/index.html>)、ツイッター「栃木県農政部 (@tochigi_nousei)」でもご覧になれます。

3 主要農作物病害虫の発生状況と原因解析（平成30(2018)年確定）

1) 普通作物 (1) 水稲

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
葉いもち	平年：－ 前年：－	平年：やや少 前年：並	6月以降、全般的に高温多照少雨傾向で経過し、発生はやや少なかった。	夏季の高温多照少雨の影響により、発生が抑えられた。
穂いもち	平年：－ 前年：－	平年：やや少 前年：やや少	葉いもち同様、発生はやや少なかった。	夏季の高温多照少雨の影響により、上位葉の葉いもちの発生が比較的少なく、その後の穂いもちの発生も抑えられた。
紋枯病	平年：－ 前年：－	平年：並 前年：並	7月の発生は少なかったが、8月以降発生が広く見られるようになった。全体としては平年並の発生であったが、一部で発生程度の高いほ場が見られた。	毎年発生し、菌密度が高まっていると思われるほ場は本年も発生が見られたほ場が多かった。稲の生育が過繁茂であったため、発生が助長されたほ場も見られた。
ばか苗病	平年：－ 前年：－	平年：少 前年：並	定点調査での発生は少なかった。	概ね適切な種子消毒や育苗管理が行われた。
もみ枯細菌病	平年：－ 前年：－	平年：少 前年：並	定点調査での発生は見られなかった。	適切な防除が実施された。
縞葉枯病	平年：－ 前年：－	平年：やや多 前年：並	県全域で発生が見られ、平年よりやや多かった。特に県北部が平年より発生が多かった。県中南部では発病程度の高いほ場も確認された。抵抗性品種においても一部発生が見られた。	ヒメトビウンカの越冬世代幼虫、第一世代幼虫の虫密度及び保毒虫率は平年より低かったが、夏季の高温多照の影響により、虫が増加したことが考えられ、黄色粘着板の総誘殺数は平年よりやや多かった。8月上旬の本田でのヒメトビウンカの発生量は、幼虫、成虫ともにやや多であった。
稲こうじ病	平年：－ 前年：－	平年：並 前年：やや少	県全域で平年並に発生が見られた。一部で発生程度の高いほ場がみられた。	発生程度が高いところは、ほ場の菌密度が高まっていると考えられた。
ニカメイガ	平年：－ 前年：－	平年：やや少 前年：やや多	フェロモントラップによるニカメイガの誘殺数は、地点によりばらつきはあったが、全般にはやや少なくなった。7月中旬の心枯茎の発生は平年並、8月下旬の白穂の発生も平年並みであった。	適切な防除が行われたため、心枯れや白穂の発生が抑制された。
セジロウンカ	平年：－ 前年：－	平年：少 前年：少	5月から9月までの予察灯における総誘殺数は少なかった。	本県への飛来は少なかった。
トビロウンカ	平年：－ 前年：－	平年：－ 前年：－	予察灯における誘殺は見られなかった。	本県への飛来は少なかった。
ヒメトビウンカ	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	5月から9月までの総誘殺数は、予察灯は平年よりやや少なく、黄色粘着板はやや多かった。水田におけるすくい取り調査では、7月中旬の成虫発生量は平年並み、8月上旬の成虫発生量はやや多であった。	越冬世代成虫の越冬密度が低かったため、春先の密度は平年よりも少なかったが、栽培期間を通じて気温が高く推移し、8月上旬の本田でのヒメトビウンカの発生量は、幼虫、成虫ともにやや多であった。
ツマグロヨコバイ	平年：－ 前年：－	平年：並 前年：並	5月から9月までの予察灯における総誘殺数は少なかった。本田におけるすくい取り調査の発生量は、7月中旬はやや少、8月上旬は平年並であった。	箱施用剤施用や本田防除による適切な防除対策により発生が抑えられた。
斑点米カメムシ類（ホソヘリカメムシ、クモヘリカメムシ、アカヒゲホソミドリカスミカメ、アカスジカスミカメ）	平年：や早 前年：並	平年：やや多 前年：並	7月中旬のイネ科雑草・牧草地での発生はやや多かった。8月上旬の本田におけるすくい取り調査での発生もやや多く、クモヘリカメムシは平年より多く、ホソヘリカメムシは少なく、アカヒゲホソミドリカスミカメはやや多く、アカスジカスミカメは平年並の発生であった。	7月の気温が高く推移し、イネ科雑草・牧草地での発生が多くなった。
コブノメイガ	平年：－ 前年：－	平年：少 前年：少	予察灯における誘殺は見られなかった。8月上旬の本田におけるすくい取り調査では、発生量は少なかった。	本県への飛来は少なかった。
イネミズゾウムシ	平年：並 前年：並	平年：やや少 前年：多	30年2月の越冬密度調査では、成虫密度は平年に比べやや多かった。5月から9月までの予察灯調査期間中の総誘殺数は地点によりややばらつきはあったが、全般にはやや多であった。5月末の本田における調査では、やや少の発生であった。	越冬世代成虫の越冬密度はやや多かったが、箱施用剤の利用により本田での発生は平年よりやや少なくなった。
イネツトムシ（イチモンジセセリ）	平年：－ 前年：－	平年：やや少 前年：やや多	水田におけるすくい取り調査では、7月中旬の発生量は少なく、8月上旬の発生量は平年並みであった。	適切な防除が行われたため、本県での発生は少なかった。

(2) 麦

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
うどんこ病	平年：－ 前年：－	平年：やや多 前年：多	小麦において発生が見られ、発生程度は平年よりやや多かった。	4月はほとんど確認されなかったが、生育後半になり、一部過繁茂のほ場で発生が見られた。
赤かび病	平年：－ 前年：－	平年：やや多 前年：並	5月上旬までは発生は少なかったが、5月下旬は六条大麦や小麦において、軽微な発生が各地でやや多く見られた。	登熟期間の5月は適度な降雨があり、かつ気温が発生にやや適した条件であったため、程度は軽微だが全体的に発生が見られた。

(3) 大豆

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
アブラムシ類	平年：－ 前年：－	平年：並 前年：並	ほ場における発生は、8月中旬はやや少なく、9月上旬は平年並であった。	
ハスモンヨトウ	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	フェロモントラップによるハスモンヨトウの誘殺数は、地点によりばらつきはあったが、全般にはやや多くなった。ほ場における発生は平年並みであった。	6～9月の誘殺数はやや多かったが、夏期の多雨や適切な防除により、農作物被害はや平年並みであった。
吸実性カメムシ類	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	フェロモントラップによるホソヘリカメムシの総誘殺数はやや多かった。ほ場における発生は、平年並みであった。	ほ場では主にホソヘリカメムシ、アオクサカメムシ、イチモンジカメムシ、クサギカメムシが観察された。

2) 野菜

(1) いちご (親株・育苗床：平成29(2017)年6~9月)

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
炭疽病	平年：並 前年：並	平年：やや少 前年：並	育苗期前半の発生は少なかったが、後半で少し発生があった。	親株床で感染株の除去や薬剤処理等を行ったことで、育苗床への潜在感染株の持ち込みが抑制された。また、全般気温は高めに推移したが、発病は抑えられていた。
萎黄病	平年：並 前年：並	平年：少 前年：並	全般に少ない発生であった。	無病苗を利用することにより、育苗期での発生は抑えられていた。
灰色かび病	平年：一 前年：一	平年：少 前年：並	親株から育苗期の全般で発生が少なかった。	適切な防除やほ場管理により発生が抑えられた。
うどんこ病	平年：並 前年：並	平年：やや少 前年：並	育苗期間中を通して、少ない～やや少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。また、ハダニ類の防除に使用される気門封鎖剤により発生が抑制された。
アブラムシ類	平年：並 前年：並	平年：やや多 前年：やや多	4、6月にやや多い発生であった。	一部のほ場で春期の発生が多く、防除が不十分であった。
ハダニ類	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	全般に平年並の発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。
コナジラミ類	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	親株、育苗期間を通してやや少～平年並の発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。

いちご (本ぼ：平成29(2017)年10月~平成30(2018)年5月)

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
炭疽病	平年：並 前年：並	平年：並 前年：やや多	平年に比べやや少ない発生であった。定植後に発生が見られたが、植え替え等により次第に発生が見られなくなった。	定植前の感染株の除去により、発生が拡大しなかった。
萎黄病	平年：並 前年：並	平年：少 前年：やや少	平年に比べ少ない発生であった。	親株床や育苗床で発生が見られた生産者の圃場で発生がみられたことから、苗からの持ち込みが考えられた。
灰色かび病	平年：並 前年：並	平年：少 前年：やや少	平年に比べ少ない発生であった。	ハウスサイドの低温多湿になりやすい場所で発生が多く見られた。
うどんこ病	平年： 前年：	平年：少 前年：やや少	平年に比べ少ない発生であった。	定植後の葉が柔らかく育ったほ場で発生が多く見られたが、適切な防除により発生が抑えられた。
アブラムシ類	平年：並 前年：並	平年：並 前年：やや多	1月から増加し始め、2月以降多い発生で推移した。	アブラムシ類は防除の優先順位が低く、後手に回りやすい傾向にある。また、ハダニ類の天敵の普及により薬剤散布の機会が減ったことにより、近年、増加傾向にある。
ハダニ類	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	全般にやや少～平年並の発生であった。	薬剤感受性の低下が著しく、薬剤防除だけでは発生が抑制できない。一方、天敵を導入している施設では、年明け以降には発生が落ち着く傾向にあった。
コナジラミ類	平年：並 前年：並	平年：やや少 前年：やや少	一部の地域で発生が見られたが、全般にやや少の発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。
アザミウマ類	平年：並 前年：並	平年：並 前年：やや多	全般に平年並の発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。

(2) 夏秋トマト (平成30(2018)年6~9月)

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
疫病	平年：一 前年：一	平年：少 前年：並	全般に少ない発生であった。	気温が平年に比べて高温で経過したため発生が抑えられた。
灰色かび病	平年：一 前年：一	平年：少 前年：並	全般に少ない発生であった。	気温が平年に比べて高温で経過したため発生が抑制された。また、適切な防除やほ場管理により発生が抑えられた。
葉かび病	平年：並 前年：並	平年：少 前年：並	全般に少ない発生であった。	気温が平年に比べて高温で経過したため発生が抑えられた。また、適切な防除やほ場管理により発生が抑えられた。
モザイク病	平年：一 前年：一	平年：少 前年：並	全般に少ない発生であった。	発病が疑われる苗の早期除去や媒介虫の防除により、ほ場内での発生が抑えられた。
黄化葉巻病	平年：一 前年：一	平年：少 前年：並	全般に少ない発生であった。	育苗期からコナジラミ類の適切な防除が行われた。冬春トマトの作終了時にコナジラミ類の発生が少なかったことから、夏秋トマトへの保毒虫の侵入も抑えられた。
すすかび病	平年：並 前年：早い	平年：並 前年：やや多	平年並みの発生であった。	気温が平年に比べて高温で経過したため発生が抑えられた。また、適切な防除やほ場管理により発生が抑えられた。
アブラムシ類	平年：並 前年：並	平年：やや多 前年：やや少	全般に少ない発生であったが、6月にやや多い発生であった。	一部のほ場で春期の発生が多く、防除が不十分であった。
コナジラミ類	平年：並 前年：並	平年：やや多 前年：やや多	全般に平年並みの発生であったが、7月にやや多い発生であった。	7~8月は高温が続き発生が多くなった。
ハモグリバエ類	平年：並 前年：並	平年：やや多 前年：並	全般に平年並みの発生であったが、6月にやや多い発生であった。	実質的な被害はほとんど生じていない。

(3) 冬春トマト (平成29(2017)年10月~平成30(2018)年5月)

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
疫病	平年：並 前年：並	平年：やや少 前年：並	全般に少ない発生であった。	秋から冬にかけて、安定した天候が続き、発生が抑えられた。
灰色かび病	平年：並 前年：並	平年：やや少 前年：並	8月定植の長期どり作型では、11月から発生が見られたが、全般にやや少ない発生であった。	冬期に晴れの日が多く、湿度が低かったため、発生が抑えられた。
葉かび病	平年：並 前年：並	平年：少 前年：少	全般に少ない発生であった。	下葉かきの徹底や、ハウス内湿度を低く保つことによって発生が抑えられた。
モザイク病	平年：並 前年：並	平年：少 前年：並	全般に少ない発生であった。	アブラムシ類(媒介虫)の発生が少なかつたため、発生が抑えられた。
黄化葉巻病	平年：並 前年：並	平年：やや多 前年：やや多	秋に気温が高めに推移し、外から施設内へ媒介虫が侵入できる期間が長く、例年よりも発生が長く続いた。	主に、育苗期の感染や感染苗の持ち込み、外部からの媒介虫タバココナジラムの侵入による発生が考えられた。
すすかび病	平年：並 前年：並	平年：やや少 前年：やや多	全般に少ない発生であった。葉かび病との混発圃場は少なく、すすかび病が単独で発生した。	下葉かきの徹底や、ハウス内湿度を低く保つことによって発生が抑えられた。
アブラムシ類	平年：並 前年：並	平年：少 前年：並	全般に少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。
コナジラム類	平年：並 前年：並	平年：やや少 前年：並	一部ほ場で発生が見受けられたが、全般にはやや少ない発生であった。	発生ほ場では、施設周辺からの飛び込みがあったと考えられる。
ハモグリバエ類	平年：並 前年：並	平年：やや少 前年：やや多	一部ほ場で発生が見受けられたが、全般にはやや少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。

(4) 夏秋なす (平成29(2017)年6~9月)

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
うどんこ病	平年：やや早 い 前年：やや早 い	平年：並 前年：やや多	全般に平年並の発生量であったが、7、8月は高温が続き一時的にうどんこの発生は収束しているように見えたが、9月に発生が増加した。	7、8月は高温により発生が抑えられていたが、9月になり温度の低下とともに、県北から県南まで発生がみられるようになった。
灰色かび病	平年：- 前年：-	平年：少 前年：-	一般的に少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。
半身萎凋病	平年：- 前年：-	平年：少 前年：やや少	一般的に少ない発生であった。	水田との輪作、耐病性台木が普及しているため発生は少なくなっている。期間中、気温が高かったことから、発生には不適であったと思われる。
青枯病	平年：並 前年：並	平年：少 前年：並	一般的に少ない発生であった。	水田との輪作、抵抗性・耐病性台木が普及しているため発生は少なくなっている。
ハダニ類	平年：並 前年：並	平年：やや多 前年：やや多	全般にやや少ない~平年並みの発生であったが、6月にやや多発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。
アブラムシ類	平年：並 前年：並	平年：やや多 前年：やや多	全般にやや多い発生であった。	台風が多発により、有翅虫の飛来が多かつた。
アザミウマ類	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	全般に平年並みの発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。

(5) 夏秋きゅうり (平成30(2018)年6~9月)

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
灰色かび病	平年：- 前年：-	平年：少 前年：並	一般的に少ない発生であった。	気温が平年に比べて高温で経過したため発生が抑制された。また、適切な防除やほ場管理により発生が抑えられた。
べと病	平年：並 前年：並	平年：並 前年：やや多	全般にやや少ない発生であった。	作の後半に発生するほ場が見られたが、適切な薬剤散布やほ場管理により、発生が抑えられた。
うどんこ病	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	圃場内での発生株数は少ないが、多くのほ場で発生が見られた。	夏季は高温が続いたため、発生が抑制されたが、9月には発生が拡大した。
褐斑病	平年：並 前年：並	平年：やや少 前年：並	全般にやや少ない発生であった。	罹病性品種で発生した。気温が平年に比べて高温で経過したため発生が抑制されたが、9月に発生が認められた。
疫病	平年：- 前年：-	平年：少 前年：並	ほとんど発生は見られなかった。	適切な防除やほ場管理により発生が抑えられた。
黄化えそ病	平年：並 前年：並	平年：やや少 前年：少	全般にやや少ない発生であった。生育中期から発生が確認された。	育苗期からアザミウマ類の適切な防除が行われたが、本ぼでの隣接ほ場からの保毒虫の侵入があったと考えられた。
ハモグリバエ類	平年：並 前年：並	平年：少 前年：やや少	全般に少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。
アザミウマ類	平年：並 前年：やや遅	平年：やや少 前年：やや少	一般的にやや少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。
コナジラム類	平年：やや遅 前年：やや遅	平年：並 前年：並	全般に少ない発生であったが、7月に平年並の発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。
アブラムシ類	平年：並 前年：並	平年：多い 前年：やや多	4、5、9月に一部のほ場で多く発生が見られた。	適切な防除により発生が抑えられた。

(6) 冬春きゅうり (平成30(2018)年10月～令和元(2019)年5月)

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
灰色かび病	平年：一 前年：一	平年：少 前年：並	全般的に少ない発生であった。	晴れの日が多く、湿度が低かったため、発生が抑えられた。予防散布により発生が抑えられた。
べと病	平年：並 前年：並	平年：やや少 前年：並	10～11月に発生が見られたが、その後はほとんど発生が見られず、全般にはやや少ない発生であった。	晴れの日が多く、湿度が低かったため、発生が抑えられた。薬剤の効果が高く、多発する圃場が少ない。
うどんこ病	平年：並 前年：並	平年：やや少 前年：やや少	平年並からやや少ない発生であった。秋と春の発生が多くみられた。	施設内の湿度が抜けにくいところを中心に発生が見られた。発生後の薬剤散布では、完全に発生を食い止めることはできなかった。
褐斑病	平年：並 前年：並	平年：少 前年：やや少	10、11月に発生が見られたが、その後はほとんど発生がみられなかった。	周年栽培施設では、夏期の発生が少なかつたため、冬期にも発生は少なく推移した。
疫病	平年：一 前年：一	平年：少 前年：並	ほとんど発生は見られなかった。	適切な防除やほ場管理により発生が抑えられた。
黄化えそ病	平年：並 前年：並	平年：少 前年：少ない	10、11月に発生が見られたが、その後はほとんど発生がみられなかった。	主に、育苗期の感染や感染苗の持ち込み、外部からの媒介虫アザミウマ類の侵入による発生が考えられた。
ハモグリバエ類	平年：並 前年：並	平年：少 前年：やや少	全般に少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。
アザミウマ類	平年：並 前年：並	平年：やや少 前年：やや少	2、3月に平年並の発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。
コナジラミ類	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	11、12月に平年並の発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。
アブラムシ類	平年：並 前年：並	平年：やや少 前年：並	特定のほ場で発生が目立っていた。	適切な防除により発生が抑えられた。

(7) なら

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
乾腐病	平年：並 前年：並	平年：少 前年：並	全般に少ない発生であった。	窒素過多の圃場や連作圃場で発生が見られた。
白斑葉枯病	平年：並 前年：並	平年：少 前年：並	全般に少ない発生であった。	冬期は晴れの日が多く、適切な換気ができたことや、ハウス内温度を以前より低めに管理する方法が普及しはじめたことから、発生が減少した。
さび病	平年：並 前年：並	平年：少 前年：並	全般に少ない発生であった。	株養成期の防除がきちんとは行われた。
株腐細菌病	平年：並 前年：並	平年：少 前年：少	全般に少ない発生であった。	冬期は晴れの日が多かったため、発生が抑えられた。
ネダニ	平年：並 前年：並	平年：並 前年：やや少	1月までは少ない発生であったが、2月に発生ほ場率が高まった。	同一ほ場で長年にわたり作付されており、発生しやすい環境となっている。

(8) 秋冬ねぎ

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
さび病	平年：並 前年：並	平年：やや少 前年：並	7月に発生が見られたが、8月以降の発生が減少した。	7～8月に高温が続いたことから発生が抑制された。
べと病	平年：一 前年：一	平年：少 前年：やや少	全般に少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。
黒斑病	平年：やや多 前年：並	平年：並 前年：並	全般に平年並の発生であった。黒斑病と葉枯病が混発したほ場が多く見られた。	県内の全域で発生の程度は低いものの、発生した。
萎縮病	平年：一 前年：一	平年：少 前年：並	全般に少ない発生であった。	アブラムシ類(媒介虫)の発生が少なかつたため、発生が抑制された。
アブラムシ類	平年：並 前年：一	平年：少 前年：一	全般に少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。
アザミウマ類	平年：並 前年：並	平年：並 前年：やや多	生育初期に平年並の発生であったが、その後やや少なくなった。	生育期には寄生が多いものの、収穫前の適切な防除により被害は抑えられた。
ハモグリバエ類	平年：並 前年：一	平年：多 前年：やや多	9月に多い発生となった。	9月に一部のほ場で防除の遅れが見られた。
ネギコガ	平年：並 前年：並	平年：少 前年：並	全般に少ない発生であった。	全般に少ない発生であった。

(9) たまねぎ

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
さび病	平年：一 前年：一	平年：少 前年：並	全般に少ない発生であった。	4～5月の気温が高く推移したため、発生が少なかった。
べと病	平年：並 前年：並	平年：やや多 前年：やや多	4月から5月にかけて発生が見られた。	全般に気温は高めで生育が進んでいる傾向にあった。3月上旬に降雨が続いたことも発生を助長したと考えられる。
白色疫病	平年：一 前年：一	平年：一 前年：一	全般的に少ない発生であった。	4～5月の気温が高く推移したため、発生が少なかった。
黒斑病	平年：一 前年：一	平年：少 前年：少	全般的に少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。
アザミウマ類	平年：やや遅い 前年：並	平年：並 前年：やや少	4月から5月にかけて発生が見られた。	適切な防除により発生が抑えられた。

(10) 冬キャベツ

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
黒腐病	平年：－ 前年：－	平年：少 前年：並	全般に少ない発生であった。	連続降雨が少なかったため、発生が抑えられた。
菌核病	平年：－ 前年：－	平年：少 前年：並	全般に少ない発生であった。	連続降雨が少なかったため、発生が抑えられた。

(11) あぶらな科野菜

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
アブラムシ類	平年：並 前年：並	平年：少 前年：並	全般に少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。
コナガ	平年：並 前年：並	平年：少 前年：並	全般に少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。

(12) 冬レタス

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
灰色かび病	平年：並 前年：並	平年：少 前年：並	全般に少ない発生であった。	連続降雨が少なかったため、発生が抑えられた。
菌核病	平年：並 前年：並	平年：少 前年：並	全般に少ない発生であった。	連続降雨が少なかったため、発生が抑えられた。
軟腐病	平年：並 前年：並	平年：少 前年：並	全般に少ない発生であった。	連続降雨が少なかったため、発生が抑えられた。
アブラムシ類	平年：並 前年：並	平年：少 前年：並	全般に少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。

(13) 野菜共通

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
ハスモンヨトウ	平年：並 前年：並	平年：やや多 前年：やや多	地点により誘殺数にばらつきはあったが、全般にはやや多くなった。	7～11月の誘殺数はやや多かったが、発生程度に応じた薬剤散布が行われ、農作物被害はやや少なかった。
オオタバコガ	平年：早い 前年：早い	平年：やや多 前年：やや多	地点により誘殺数にばらつきはあったが、全般にはやや多くなった。	誘殺数は7～9月ではやや多く、10月では多かったが、発生程度に応じた薬剤散布が行われ、農作物被害はやや少なかった。

3) 果樹
(1) なし

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
黒斑病	平年：－ 前年：－	平年：－ 前年：－	ほとんど発生していない。	県内の主力品種は、耐病性のある幸水、豊水が作付けされている。
黒星病	平年：遅い 前年：やや遅い	平年：やや少ない 前年：やや少ない	5月～7月は発生が少なかったが、8月以降発生が増加しやや少ない発生となった。	5月～7月は、降雨が少なく気温が高く推移したため、発生が少なかった。8月以降気温が平年並となり曇雨天が多かったことから発生が増加した。
赤星病	平年：並 前年：やや遅い	平年：やや少ない 前年：少	6月から発生が認められたが、その後は少ない発生であった。	4月～5月は、気温が高かったが降水量は少なかったため発生が遅れた。その後も降水量が少なかったため感染・発病が抑制された。
アブラムシ類	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	5～7月の発生は平年並で推移した。	8月には適切な防除により発生が抑えられた。
ハダニ類	平年：並 前年：並	平年：多 前年：多	気温が平年より高く、降水量が少なかったため、発生量が多かった。	せん定作業が終わらず、休眠期防除が遅れたほ場において一部発生した。
シンクイムシ類	平年：早い 前年：早い	平年：少 前年：並	気温が平年より高く推移したため、フェロモントラップの誘殺数ピークが平年より早く見られ、発生量はやや多かった。ほ場においては被害は少なかった。	適切な防除により発生が抑えられた。
ハマキムシ類	平年：早い 前年：早い	平年：やや多 前年：多	7～8月に発生がやや多く見られた。	気温が平年より高く推移したため、一部のほ場では6月から発生が見られ始め、その後発生増えていった。

(2) ぶどう

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
晩腐病	平年：並 前年：並	平年：多 前年：並	8月に多く発生した。	平年に比べ8月の降水量が多く、露地栽培で発生が多くなった。
べと病	平年：遅 前年：並	平年：やや少 前年：少	6、7月は発生が見られなかったが、8月に発生した。	7月まで気温が高く、降水量が少なく経過したが、8月は降水量が多く気温が平年並となったため発生が増加した。
灰色かび病	平年：－ 前年：－	平年：－ 前年：－	全般的に少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。
黒とう病	平年：－ 前年：－	平年：少 前年：少	全般的に少ない発生であった。	5月～7月の降水量が平年に比べ少なく、発生が抑制された。
ハマキムシ類	平年：並 前年：並	平年：やや少 前年：並	全般的にやや少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。
アザミウマ類	平年：並 前年：並	平年：少 前年：並	全般的に少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。

(3) りんご

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
斑点落葉病	平年：－ 前年：－	平年：やや多 前年：多	7月までは少なかったが、8月から9月にかけて発生が増加した。	7月前半まで小雨だったが、7月後半以降降水量が平年並以上となったため発生が増加した。
黒星病	平年：－ 前年：－	平年：－ 前年：－	全般に少ない発生であった。	5月から6月にかけて降水量が少なかった。
赤星病	平年：－ 前年：－	平年：少 前年：少	全般に少ない発生であった。	産地周囲には、ビャクシン類が少なく、飛散胞子量が少なかった。
輪紋病	平年：－ 前年：－	平年：少 前年：少	全般に少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。
褐斑病	平年：やや遅 前年：並	平年：やや多 前年：やや少	8月に発生が認められ、9月にかけて増加した。	7月前半まで小雨だったが、7月後半以降降水量が平年並以上となったため発生が増加した。
ハダニ類	平年：やや遅 前年：並	平年：やや少 前年：やや少	9月に発生が見られた。	適切な防除が行われ、やや少ない発生となった。
アブラムシ類	平年：並 前年：並	平年：並 前年：少	9月に発生が見られた。	適切な防除により発生が抑えられた。
シンクイムシ類	平年：並 前年：並	平年：少 前年：並	全般的に少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。
ハマキムシ類	平年：並 前年：－	平年：多 前年：－	8、9月に発生が見られた。	気温が平年に比べて高温で経過したため、8月から9月にかけて発生が多く見られた。

(4) 果樹共通

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
カメムシ類	平年：早い 前年：並	平年：並 前年：並	フェロモントラップによる誘殺数は、4月に越冬世代が多く誘殺されたが、その後の誘殺は少なかった。ほ場への飛来は少なく、被害は認められなかった。	今年度のヒノキ花粉量は多かったことから、山林から果樹園へのカメムシ類の飛来が少なかった。

4) 花き
(1) きく

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
白さび病	平年：並 前年：並	平年：平年並 前年：やや少	4月～7月に発生が見られた。	適切に防除が行われたため発生が抑制された。
アブラムシ類	平年：並 前年：並	平年：多 前年：並	特定のほ場で発生が目立っていた。	発見の遅れにより、適切に防除ができなかった。
アザミウマ類	平年：やや遅 前年：やや遅	平年：並 前年：並	特定のほ場で発生が目立っていた。	適切な防除により発生が抑えられた。
ハダニ類	平年：並 前年：並	平年：やや多 前年：並	11～12、3月はやや多い発生となったが、それ以外の月は平年並の発生となった。	適切な防除により発生が抑えられた。
ハスモンヨトウ	平年：並 前年：並	平年：やや少 前年：並	10月にやや多い発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。

4 主要農作物病害虫の発生状況と原因解析（令和元(2019)年速報）

1) 普通作物

(1) 水稲

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
葉いもち	平年：－ 前年：－	平年：並 前年：多	下位葉の発生は平年よりやや多かったが、上位葉の発生は平年並であった。	6月中旬～7月下旬に曇雨天が続いたことにより、初期の発生は平年よりやや多かったが、8月以降は高温多照で経過し、上位葉の発生は平年並であった。
穂いもち	平年：－ 前年：－	平年：並 前年：やや多	全般に発生は平年並であった。	8月以降は高温多照で経過し、葉いもちの上位葉の発生は平年並、その後の穂いもちの発生も比較的抑えられた。
紋枯病	平年：－ 前年：－	平年：やや多 前年：並	7月～8月上旬の発生は平年並であったが、8月下旬は平年よりやや多かった。一部で発生程度の高いほ場が見られた。	毎年発生し、菌密度が高まっていると思われるほ場は本年も発生が見られたほ場が多かった。稲の生育が過繁茂であったため、発生が助長されたほ場も見られた。
ばか苗病	平年：－ 前年：－	平年：少 前年：並	定点調査のごく一部で発生が見られた。	概ね適切な種子消毒や育苗管理が行われた。
もみ枯細菌病	平年：－ 前年：－	平年：少 前年：並	定点調査での発生は見られなかった。	適切な防除が実施された。
縞葉枯病	平年：－ 前年：－	平年：並 前年：並	県全域で発生が見られ、平年並であった。地域別には特に県北部が平年より発生が多かった。	ヒメトビウンカの越冬世代成虫密度は平年並であった。7月の低温により発生時期は遅くなった。8月上旬の本田でのヒメトビウンカの幼成虫発生量は平年並であった。
稲こうじ病	平年：－ 前年：－	平年：やや少 前年：並	全般に発生はやや少なかった。一部で発生程度の高いや高いほ場がみられた。	8月以降、高温多照で経過したため、全般に発生がやや少なかったと推察される。発生程度が高いところは、ほ場の菌密度が高まっていると考えられた。
ニカメイガ	平年：－ 前年：－	平年：並 前年：並	フェロモントラップによるニカメイガの誘殺数は、地点によりばらつきはあったが、平年並みの地点が多かった。7月中旬の心枯茎の発生は少なく、8月下旬の白穂の発生は平年並みであった。	適切な防除が行われたため、心枯れや白穂の発生が抑制された。
セジロウンカ	平年：－ 前年：－	平年：少 前年：やや多	5月から9月までの予察灯における総誘殺数は少なかった。水田すくいとり調査においてわずかに発生が見られた。	本県への飛来は少なかった。
トビロウンカ	平年：－ 前年：－	平年：－ 前年：－	予察灯における誘殺は見られなかった。	本県への飛来は少なかった。
ヒメトビウンカ	平年：遅い 前年：遅い	平年：並 前年：並	5月から9月までの総誘殺数は、予察灯は平年よりやや少なく、黄色粘着板はやや多かった。水田におけるすくいとり調査では、7月中旬・8月上旬の成虫発生量は平年並みであった。	越冬世代成虫密度は平年並みであった。7月の低温により発生時期は遅くなった。8月上旬の本田でのヒメトビウンカの発生量は、幼虫、成虫ともに平年並みであった。
ツマグロヨコバイ	平年：－ 前年：－	平年：並 前年：並	5月から9月までの予察灯における総誘殺数は少なかった。本田におけるすくいとり調査の発生量は、7月中旬はやや多、8月上旬は平年並であった。	箱施用剤施用や本田防除による適切な防除対策により発生が抑えられた。
斑点米カメムシ類（ホソヘリカメムシ、クモヘリカメムシ、アカヒゲホソミドリカスミカメ、アカスジカスミカメ）	平年：遅い 前年：遅い	平年：やや多 前年：並	水田におけるすくいとり調査では7月上旬発生量はやや少なく、8月上旬はやや多かった。フェロモントラップによるクモヘリカメムシの誘殺数は平年並みであった。	7月の気温が低く推移し、発生がやや遅くなった。
コブノメイガ	平年：－ 前年：－	平年：少 前年：少	予察灯における誘殺は見られなかった。8月上旬の本田におけるすくいとり調査では、発生量は少なかった。	本県への飛来は少なかった。

イネミズゾウムシ	平年：並 前年：並	平年：やや少 前年：並	31年2月の越冬密度調査では、成虫密度は平年に比べやや多かった。5月から9月までの予察灯調査期間中の総誘殺数は地点によりややばらつきはあったが、全般には少なかった。5月末の本田における調査では、やや少の発生であった。	越冬世代成虫の越冬密度はやや多かったが、箱施用剤の利用により本田での発生は平年よりやや少なくなった。
イネツトムシ (イチモンジセセリ)	平年：－ 前年：－	平年：やや少 前年：やや少	水田におけるすくいとり調査では、7月は平年並み、8月は少なかった。定点における巡回調査では、7月中旬の発生量はやや少なく、8月上旬の発生量は少なかった。	適切な防除が行われたため、本県での発生は少なかった。
イナゴ類	平年：－ 前年：－	平年：並 前年：並	水田におけるすくいとり調査では、7月はやや多く、8月は平年並であった。	

(2) 麦

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
うどんこ病	平年：－ 前年：－	平年：少 前年：少	定点調査での発生は見られなかった。	適切な防除により発生が抑えられた。
赤かび病	平年：－ 前年：－	平年：少 前年：少	定点調査での発生は、5月下旬に六条大麦でわずかに見られたのみであった。	適切な防除により発生が抑えられた。

(3) 大豆

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
アブラムシ類	平年：－ 前年：－	平年：やや少 前年：やや少	ほ場における発生は、8月中旬は少なく、9月上旬はやや少なかった。	
ハスモンヨトウ	平年：並 前年：並	平年：やや少 前年：並	フェロモントラップによるハスモンヨトウの誘殺数は、地点によりばらつきはあるが、平年並みの地点が多かった。	適切な防除により、農作物被害はやや少なかった。
吸実性カメムシ類	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	フェロモントラップによるホソヘリカメムシの総誘殺数はやや多かった。ほ場における発生は、平年並みであった。	ほ場では主にホソヘリカメムシ、イチモンジカメムシ、クサギカメムシが観察された。
フタスジヒメハムシ	平年：－ 前年：－	平年：やや少 前年：やや多	ほ場における発生は、8月中旬はやや多く、9月上旬はやや少なかった。	適正なほ場ローテーションや、種子消毒剤の利用により、農作物被害はやや少なかった。

2) 野菜

(1) いちご (親株・育苗床: 令和元(2019)年6~9月)

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
炭疽病	平年: 並 前年: 並	平年: やや少 前年: 並	育苗期前半の発生は少なかったが、後半で発生が見られた。	親株床で感染株の除去や薬剤処理等を行ったことで、育苗床への潜在感染株の持ち込みが抑制された。また、生育前半の気温が平年並に推移した。
萎黄病	平年: 並 前年: 並	平年: 少 前年: 並	全般に少ない発生であった。	無病害を利用することにより、育苗期での発生は抑えられていた。
灰色かび病	平年: - 前年: -	平年: 少 前年: 並	親株から育苗期の全般で発生が少なかった。	適切な防除やほ場管理により発生が抑えられた。
うどんこ病	平年: 並 前年: 並	平年: 並 前年: 並	仮植前に平年並の発生となったが、仮植後は少ない~やや少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。
アブラムシ類	平年: 並 前年: 並	平年: 並 前年: 並	全般にやや少~平年並の発生であった。	一部のほ場で発生が多く、防除が不十分であった。
ハダニ類	平年: 並 前年: 並	平年: 並 前年: 並	全般にやや少~平年並の発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。
コナジラミ類	平年: 並 前年: 並	平年: 並 前年: 並	親株・育苗期間を通してやや少~平年並の発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。

(2) トマト (夏秋: 令和元(2019)年6~9月)

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
疫病	平年: - 前年: -	平年: 少 前年: 並	全般に少ない発生であった。	7~8月は平年に比べて降水量が少なく経過したため発生が抑えられた。
灰色かび病	平年: - 前年: -	平年: やや少 前年: 並	全般にやや少ない発生であった。	7~8月は平年に比べて降水量が少なく経過したため発生が抑えられた。また、適切な防除やほ場管理により発生が抑えられた。
葉かび病	平年: 並 前年: 並	平年: やや少 前年: 多	全般にやや少ない発生であった。	7~8月の気温が平年に比べて高温で経過したため発生が抑えられた。また、適切な防除やほ場管理により発生が抑えられた。
モザイク病	平年: - 前年: -	平年: 少 前年: 並	全般に少ない発生であった。	疫病が疑われる苗の早期除去や媒介虫の防除により、ほ場内での発生が抑えられた。
黄化葉巻病	平年: - 前年: -	平年: 多 前年: 多	平年に比べ発生は多かった。	育苗期からコナジラミ類の適切な防除が行われた。冬春トマトの作終了時にコナジラミ類の発生が平年よりやや多かったことから、夏秋トマトでの発生が増加した。
すすかび病	平年: 並 前年: 早い	平年: 並 前年: 並	平年に比べ、全般に少ない発生であった。	気温が平年に比べて高温で経過したため発生が抑えられた。また、適切な防除やほ場管理により発生が抑えられた。
アブラムシ類	平年: 並 前年: 並	平年: 平年並 前年: やや少	全般に少ない発生であったが、6月に平年並の発生であった。	一部のほ場で発生が見られた。
コナジラミ類	平年: 並 前年: 並	平年: 平年並 前年: やや少	7~8月に平年並の発生であった。	6月の高温・小雨の時期にコナジラミの発生が増え、7~8月にかけてほ場での発生が見られた。
ハモグリバエ類	平年: 並 前年: -	平年: 少 前年: -	全般に少ない発生であった。	実質的な被害はほとんど生じていない。

(3) なす (夏秋: 令和元(2019)年6~9月)

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
うどんこ病	平年: やや早い 前年: やや早い	平年: 並 前年: やや多	全般に平年並の発生量であったが、7、8月は高温が続き一時的にうどんこの発生は収束しているように見えたが、9月に発生が増加した。	7、8月は高温により発生が抑えられていたが、9月になり温度の低下とともに、県北から県南まで発生がみられるようになった。
灰色かび病	平年: - 前年: -	平年: 少 前年: -	全般的に少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。
半身萎凋病	平年: - 前年: -	平年: 多 前年: 多	一部のほ場で発生が見られ、平年に比べ多い発生であった。	水田との輪作、耐病性台木が普及しているため発生は少なくなっているが、発生ほ場では生育前半の気温が高かったことから、感染に適していたと思われる。
青枯病	平年: 並 前年: 並	平年: 少 前年: 少	全般的に少ない発生であった。	水田との輪作、抵抗性・耐病性台木が普及しているため発生は少なくなっている。

ハダニ類	平年：並 前年：並	平年：並 前年：やや少	全般にやや少ない～平年並みの発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。
アブラムシ類	平年：並 前年：並	平年：並 前年：やや少	全般にやや少ない発生であったが、7月に平年並の発生となった。	適切な防除により発生が抑えられた。
アザミウマ類	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	全般にやや少ない～平年並みの発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。

(4) きゅうり (夏秋：令和元(2019)年6～9月)

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
灰色かび病	平年：－ 前年：－	平年：少 前年：並	全般的に少ない発生であった。	8～9月は気温が平年に比べて高く経過したため発生が抑制された。また、適切な防除やほ場管理により発生が抑えられた。
べと病	平年：並 前年：並	平年：多 前年：やや多	全般に多い発生であった。	7月に降水量が多く、発生が増加した。
うどんこ病	平年：並 前年：並	平年：並 前年：やや多	圃場内での発生株数は少ないが、多くのほ場で発生が見られた。	7月に日照時間が少なく発生が増加し、8月の高温で発生が抑制されたが、9月には発生が拡大した。
褐斑病	平年：並 前年：並	平年：多 前年：多	全般に多い発生であった。	罹病性品種で発生した。7月に降水量が多く経過したため発生が増加した。
疫病	平年：－ 前年：－	平年：少 前年：並	ほとんど発生は見られなかった。	適切な防除やほ場管理により発生が抑えられた。
黄化えそ病	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	全般に平年並の発生であった。生育中期から発生が見られた。	隣接ほ場からの保毒虫の侵入により発生した。
ハモグリバエ類	平年：並 前年：並	平年：少 前年：並	全般に少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。
アザミウマ類	平年：並 前年：並	平年：やや多 前年：やや多	全般的にやや少ない発生であったが、8月にやや多い発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。
コナジラミ類	平年：並 前年：並	平年：やや多 前年：やや多	9月にやや多い発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。
アブラムシ類	平年：並 前年：－	平年：少 前年：－	全般に少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。

(5) ねぎ

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
さび病	平年：並 前年：並	平年：平年並 前年：平年並	7月に平年並の発生であったが、7～8月に発生が減少した。	7～8月に高温が続いたことから発生が抑制された。
べと病	平年：－ 前年：－	平年：多 前年：多	7月に多い発生であったが、7～8月に発生が減少した。	適切な防除により発生が抑えられた。
黒斑病	平年：並 前年：並	平年：やや多 前年：やや多	8～9月に発生が増加し、やや多の発生であった。	8月後半～9月の降水により発生が増加した。
萎縮病	平年：－ 前年：－	平年：少 前年：並	全般に少ない発生であった。	アブラムシ類(媒介虫)の発生が少なかったため、発生が抑制された。
アブラムシ類	平年：並 前年：－	平年：少 前年：－	全般に少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。
アザミウマ類	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	全般に平年並の発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。
ハモグリバエ類	平年：並 前年：－	平年：多 前年：やや多	9月に多い発生となった。	9月に一部のほ場で防除の遅れが見られた。
ネギコガ	平年：並 前年：並	平年：少 前年：並	全般に少ない発生であった。	全般に少ない発生であった。

(6) たまねぎ

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
さび病	平年：－ 前年：－	平年：少 前年：並	全般に少ない発生であった。	5月の気温が高く推移したため、発生が少なかった。
べと病	平年：並 前年：並	平年：多 前年：多	4月から5月にかけて発生が見られた。	3月上旬、4月下旬の降雨が発生を助長した。
白色疫病	平年：－ 前年：－	平年：－ 前年：－	全般的に少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。
黒斑病	平年：－ 前年：－	平年：やや少 前年：やや少	全般的にやや少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。
アザミウマ類	平年：並 前年：並	平年：並 前年：やや多	4月から5月にかけて発生が見られた。	適切な防除により発生が抑えられた。

(7) 野菜共通

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
ハスモンヨトウ	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	地点により誘殺数にばらつきはあったが、全般には平年並の発生であった。	6月の誘殺数はやや多かったが、発生程度に応じた薬剤散布が行われ、農作物被害はやや少なかった。
オオタバコガ	平年：早い 前年：早い	平年：並 前年：並	地点により誘殺数にばらつきはあったが、全般には平年並の発生であった。	7月の誘殺数はやや多かったが、発生程度に応じた薬剤散布が行われ、農作物被害はやや少なかった。

3) 果樹
(1) なし

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
黒斑病	平年：－ 前年：－	平年：－ 前年：－	ほとんど発生していない。	県内の主力品種は、耐病性のある幸水、豊水が作付けされている。
黒星病	平年：平 前年：遅い	平年：並 前年：やや少ない	6月から発生が認められ、8月までに発生が増加した。	4～5月は、気温が高く推移したため発生が少なかった。6月中に雨量が多く、7月前半に低温・少照であったため、果実の発生が増加した。
赤星病	平年：並 前年：並	平年：やや多 前年：やや少	6月から発生が認められ、8月までに発生が増加した。	6月中に雨量が多く、7月前半に低温・少照であったため、発生の増加がみられた。
アブラムシ類	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	5、6月の発生は平年並で推移した。	適切な防除により発生が抑えられた。
ハダニ類	平年：並 前年：並	平年：やや少 前年：少	8月にやや少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。
シンクイムシ類	平年：並 前年：並	平年：少 前年：少	フェロモントラップにおける発生時期は平年並み、発生量はやや多かった。ほ場においては被害は少なかった。	適切な防除により発生が抑えられた。
ハマキムシ類	平年：並 前年：並	平年：やや多 前年：並	7～8月に発生がやや多く見られた。	適切な防除が行われたが、一部のほ場で発生が見られた。

(2) ぶどう

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
晩腐病	平年：並 前年：並	平年：少 前年：多	全般的に少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。
べと病	平年：遅 前年：並	平年：少 前年：少	全般的に少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。
灰色かび病	平年：－ 前年：－	平年：－ 前年：－	全般的に少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。
黒とう病	平年：－ 前年：－	平年：少 前年：少	全般的に少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。
ハマキムシ類	平年：並 前年：並	平年：少 前年：並	全般的に少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。
アザミウマ類	平年：並 前年：並	平年：少 前年：並	全般的に少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。

(3) りんご

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
斑点落葉病	平年：－ 前年：－	平年：多 前年：多	7月に発生が認められ、9月にかけて増加した。	昨年秋期は多雨により発生が多く、感染源が多かった。6月中に雨量が多く、7月前半に低温・少照であったため、例年より発生が早く、9月まで発生が多く推移した。
黒星病	平年：－ 前年：－	平年：－ 前年：－	全般に少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。
赤星病	平年：－ 前年：－	平年：少 前年：少	全般に少ない発生であった。	産地周囲には、ビャクシン類が少なく、飛散胞子量が少なかった。
輪紋病	平年：－ 前年：－	平年：少 前年：少	全般に少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。
褐斑病	平年：やや遅 前年：並	平年：多 前年：やや多	7月に発生が認められ、9月にかけて増加した。	昨年秋期は多雨により発生が多く、感染源が多かった。6月中に雨量が多く、7月前半に低温・少照であったため、例年より発生が早く、9月まで発生が多く推移した。
ハダニ類	平年：早い 前年：早い	平年：やや多 前年：やや多	7月にやや多い発生であった。	梅雨の前後に高温・小雨が続き、ハダニ類の発生が増えた。その後は適切な防除により、発生が抑えられた。
アブラムシ類	平年：並 前年：並	平年：並 前年：少	9月に発生が見られた。	適切な防除により発生が抑えられた。
シンクイムシ類	平年：並 前年：－	平年：少 前年：－	全般的に少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。
ハマキムシ類	平年：－ 前年：－	平年：少 前年：少	全般的に少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。

(4) 果樹共通

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
カメムシ類	平年：早い 前年：早い	平年：多 前年：多	フェロモントラップによる誘殺数は、5月に越冬世代が多く誘殺されたが、その後の誘殺は減少した。ももやりんごの一部のほ場で被害があった。	昨年のスギ・ヒノキの球果量が多かったため、越冬世代が5～6月に多く発生した。今年の球果量も多かったことから、7月以降は飛来が減った。

4) 花き
(1) きく

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
白さび病	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	4月に発生が見られたが5月から9月は発生が見られなかった。	適切に防除が行われたため発生が抑制された。
アブラムシ類	平年：並 前年：並	平年：多 前年：多	9月に多い発生であり、5、6、7月にやや多い発生であった。	一部のほ場で発生が多く、防除が不十分であった。
アザミウマ類	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	4～6、9月に発生がみられ、全般にやや少ない～平年並みであった。	適切な防除により発生が抑えられた。
ハダニ類	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	全般に平年並みの発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。
ハスモンヨトウ	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	7月に一部のほ場で発生が見られた。	適切な防除により発生が抑えられた。

5 病害虫発生程度別面積

1) 平成30(2018)年病害虫発生程度別面積(確定) (ha)

作物名	作付面積	病害虫名	甚	多	中	少	計
普通期水稲	58,500	葉いもち	0	0	0	7,300	7,300
		穂いもち	0	0	0	720	720
		紋枯病	2,170	3,030	3,610	21,740	30,550
		ばか苗病	0	0	0	370	370
		縞葉枯病	0	740	0	29,190	29,930
		稲こうじ病	0	720	1,450	4,590	6,760
		ニカメイガI	0	0	0	2,200	2,200
		ニカメイガII	0	0	0	5,900	5,900
		セジロウンカ	0	0	0	0	0
		トビイロウンカ	0	0	0	0	0
		ヒメトビウンカ	7,500	29,250	13,500	7,500	57,750
		ツマグロヨコバイ	0	0	7,500	34,500	42,000
		斑点米カメムシ類	750	4,500	3,750	12,750	21,750
		フタオビコヤガ	0	0	0	3,000	3,000
		コブノメイガ	0	0	0	0	0
イネミズゾウムシ	0	0	0	19,500	19,500		
麦	12,900	うどんこ病	650	0	325	325	1,300
		赤かび病	0	0	0	1,900	1,900
大豆	2,370	アブラムシ類	0	0	0	1,600	1,600
		ハスモンヨトウ	0	0	0	400	400
		吸実性カメムシ類	0	0	0	900	900
りんご	147	斑点落葉病	0	0	0	37	37
		黒星病	0	0	0	0	0
		ナシヒメシンクイ	0	0	0	0	0
		ハマキムシ類	0	0	0	42	42
		ハダニ類	0	0	21	42	63
なし	764	黒斑病	0	0	0	0	0
		黒星病	0	0	0	57	57
		ナシヒメシンクイ	0	0	0	0	-
		ハマキムシ類	0	0	14	14	28
		ハダニ類	0	0	28	227	255
ぶどう	212	晩腐病	0	0	21	21	42
		べと病	0	0	0	21	21
		灰色かび病	0	0	0	0	0
夏秋トマト	151	疫病	0	0	0	0	0
		灰色かび病	0	0	0	14	14
		葉かび病	0	0	0	14	14
		コナジラミ類	0	0	0	113	113
		アブラムシ類	0	0	13	13	26
冬春トマト	223	疫病	0	0	0	23	23
		灰色かび病	0	0	0	108	108
		葉かび病	0	0	11	23	34
		コナジラミ類	0	5	14	77	96
		アブラムシ類	0	0	0	10	10

作物名	作付面積	病害虫名	甚	多	中	少	計
夏秋ナス	366	うどんこ病	0	41	81	122	244
		灰色かび病	0	0	0	0	0
		アザミウマ類	0	0	41	203	244
		アブラムシ類	0	0	41	203	244
		ハダニ類	0	0	0	203	203
夏秋キュウリ	248	べと病	0	0	25	74	99
		うどんこ病	0	21	21	103	145
		灰色かび病	0	0	0	0	0
		褐斑病	0	0	0	25	25
		アザミウマ類	0	0	0	50	50
		アブラムシ類	0	0	0	41	41
		コナジラミ類	0	0	0	103	103
冬春キュウリ	50	べと病	0	0	10	30	40
		うどんこ病	0	0	5	25	30
		灰色かび病	0	0	0	5	5
		褐斑病	0	0	5	5	10
		アザミウマ類	0	0	0	20	20
		アブラムシ類	0	0	10	0	10
		オンシツコナジラミ	0	0	10	10	20
冬キャベツ	88	黒腐病	0	0	0	0	0
		菌核病	0	0	0	0	0
		アブラムシ類	0	0	0	0	0
		コナガ	0	0	0	0	0
タマネギ	239	白色疫病	0	0	0	0	0
		べと病	0	0	24	96	120
		ネギアザミウマ	0	0	60	90	150
秋冬ネギ	429	さび病	0	0	54	107	161
		黒斑病	161	0	0	215	376
		べと病	0	0	0	54	54
		アブラムシ類	0	0	0	0	0
冬レタス	97	灰色かび病	0	0	0	0	0
		菌核病	0	0	0	0	0
		アブラムシ類	0	0	0	0	0
		ハスモンヨトウ	0	0	0	0	0
		オオタバコガ	0	0	0	0	0
イチゴ	554	灰色かび病	0	0	0	53	53
		うどんこ病	0	0	9	9	18
		炭そ病	0	9	18	97	124
		アブラムシ類	0	0	10	91	101
		アザミウマ類	30	30	81	81	222
		ハダニ類	0	0	50	191	241
		ハスモンヨトウ	0	0	0	60	60
きく	115	白さび病	0	0	0	12	12
		アザミウマ類	0	0	26	12	38
		アブラムシ類	0	0	0	38	38
		ハスモンヨトウ	0	0	0	13	13

※作付面積：農林水産省の統計データを参照。

2) 令和元(2019)年病虫害発生程度別面積(速報)(ha)

作物名	作付面積	病虫害名	甚	多	中	少	計
普通期水稻	58,500	葉いもち	0	0	790	19,810	20,600
		穂いもち	0	0	0	1,440	1,440
		紋枯病	2,260	4,470	8,250	26,120	41,100
		ばか苗病	0	0	0	1	1
		もみ枯細菌病(種子消毒)	0	0	0	0	0
		縞葉枯病	0	740	2,190	25,700	28,630
		稲こうじ病	0	0	4,460	2,300	6,760
		ニカメイガI	0	0	0	750	750
		ニカメイガII	0	0	0	2,250	2,250
		セジロウンカ	0	0	0	9,000	9,000
		トビイロウンカ	0	0	0	0	0
		ヒメトビウンカ	6,700	25,000	13,000	13,000	57,700
		ツマグロヨコバイ	0	0	7,500	30,000	37,500
		斑点米カメムシ類	1,500	3,700	4,500	9,800	19,500
		フタオビコヤガ	0	0	0	1,500	1,500
		コブノメイガ	0	0	0	0	0
イネミズゾウムシ	0	0	0	15,000	15,000		
麦	12,900	うどんこ病	0	0	0	0	0
		赤かび病	0	0	0	90	90
大豆	2,370	吸実性カメムシ類	0	0	0	550	550
		フタスジヒメハムシ	0	0	160	160	320
りんご	147	斑点落葉病	0	0	0	63	63
		黒星病	0	0	0	0	0
		ナシヒメシンクイ	0	0	0	0	0
		リンゴコカクモンハマキ	0	0	0	0	0
		ハダニ類	0	0	21	42	63
なし	764	黒斑病	0	0	0	0	0
		黒星病	0	0	0	191	191
		ナシヒメシンクイ	0	0	0	0	0
		ハマキムシ類	0	0	0	54	54
		ハダニ類	0	0	27	55	82
ぶどう	212	晩腐病	0	0	0	0	0
		灰色かび病	0	0	0	0	0
		芽枯病	0	0	0	0	0
夏秋トマト	137	疫病	0	0	0	0	0
		灰色かび病	0	0	0	15	15
		葉かび病	0	0	0	30	30
		コナジラミ類	0	0	15	76	91
		アブラムシ類	0	0	0	15	15
夏秋ナス	351	うどんこ病	39	0	39	39	117
		灰色かび病	0	0	0	0	0
		アザミウマ類	0	39	78	117	234
		アブラムシ類	0	0	39	39	78
		ハダニ類	0	0	0	156	156

作物名	作付面積	病害虫名	甚	多	中	少	計
夏秋キュウリ	236	べと病	0	67	67	102	236
		うどんこ病	0	34	34	169	236
		灰色かび病	0	0	0	0	0
		褐斑病	0	0	118	0	118
		アザミウマ類	0	0	0	52	52
		アブラムシ類	0	0	0	0	0
		コナジラミ類	0	52	52	52	157
タマネギ	253	白色疫病	0	0	0	0	0
		べと病	0	0	0	190	190
		ネギアザミウマ	0	0	63	190	253
秋冬ネギ	434	さび病	0	53	54	54	161
		黒斑病	0	0	0	434	434
		べと病	0	0	53	54	107
		アブラムシ類	0	0	0	0	0
		ネギハモグリバエ	54	55	0	0	109
イチゴ	545	灰色かび病	0	0	0	0	0
		うどんこ病	20	20	40	112	192
		炭そ病	0	0	0	40	40
		アブラムシ類	9	9	0	92	111
		ハダニ類	9	9	28	194	240
きく	105	白さび病	0	0	0	21	21
		アザミウマ類	0	0	10	11	21
		アブラムシ類	0	0	21	11	33

※作付面積：農林水産省の統計データを参照。

6 病害虫診断同定結果

月日	作物名	発生場所	症状等	診断結果
1月8日	ねぎ	小山市	葉先から枯れる症状でひどいと折れてしまう。定植時期に関わらず発生しており、圃場の全体に症状が見られる。	黒斑病と葉枯病は確認された。黄化がはじまっている部位からは菌が分離されず、黒斑病、葉枯病が主要因なのか、2次的に感染しているのかわからなかった。
1月8日	トマト	栃木市	ウイルス様症状が見られる。黄化と新葉の萎縮がある。生育不良から、一部株には鉄欠乏のような症状の葉も見られる。	イムノストリップでCMV、TMV、Potyが陰性。RT-PCRでTospovirus属は陰性。ウイルスによる症状とは判定できなかった。
1月11日	トマト	栃木市	葉枯れ症状：黒褐色の斑点、周囲に黄変部あり	検鏡で細菌泥なし。イムノストリップ診断でかいよう病(Cmm)陰性。組織分離で細菌あり(PDA培地)病原の特定はできなかった。
1月15日	しゅんぎく	-	葉に黒色斑点状に枯れの症状あり	<i>Cercospora</i> 属の分生子が顕鏡で確認された。病徴と一致することから、シュンギク葉枯病と判断した。
1月16日	トマト	-	葉が黄化し、巻く症状が点在。TYLCVの疑い。	PCRを行ったところTYLCV陰性。
1月16日	たまねぎ	宇都宮市	黄化から白化し、葉先が枯れている。べと病の疑い。	顕鏡では菌が確認できなかった。組織分離したところ病原と考えられる菌は分離されなかった。
1月16日	トルコギキョウ	栃木市	12月上旬の頂花が見られた時期から凋れ症状が発生した。しおれた株を彫り上げると、細根に褐変症状が見られた。	茎維管束に褐変なし。イムノストリップ診断で青枯病(Rs)陰性。組織分離により <i>Pythium</i> 属菌を分離、根腐病と診断した。
1月16日	トルコギキョウ	足利市	12月上旬～葉先が枯れる症状が観察された。症状が茎まで達し、しばらくすると株は萎凋・枯死する。根の褐変はない。症状の部分を多湿に保っても糸状菌の胞子は観察されない。	葉に白斑・葉枯れ、茎の中間部分に白斑様の症状あり、維管束褐変なし、細菌泥なし、イムノストリップ診断でINSV、IYSV、TSWV、CMV、疫病菌(Phyt)陰性
1月18日	トマト	栃木市	葉のふちから褐変し周囲が黄化している。ハウスの北側の一部のみで発生している。	顕鏡すると、菌泥のようなものがわずかであるが確認された。組織分離では菌は分離されず、細菌が分離され、APIで検定を行ったが、病原は特定されなかった。
1月22日	トルコギキョウ	足利市	1月上旬 葉枯症状を確認 1月中旬 葉枯症状の拡大を確認 症状は下位葉から中位葉へ徐々に拡大	検鏡で細菌泥見られない。組織分離により細菌を分離(PDA, NA培地)。
1月24日	マーガレット	日光市	摘芯後、摘芯した部分がこぶ状に膨らんできた。生育が発生していない株と比較するとやや悪い。他に品種には発生していない。	発生の経過と症状、検鏡により細菌を確認したことから根頭がんしゅ病と診断。
1月24日	トマト	小山市	1月に入って萎れ株が散見。株元に褐変が少し見られる。	導管の褐変が見られ、イムノストリップで青枯病陽性。茎の表面の褐変部位からは、病原菌は分離されなかった。青枯病と判断した。
1月29日	にら	小山市	1番刈りのにらの葉先が白く枯れる。また、葉の葉脈半分が黄色になったり、曲がっている葉もあるのでネダニの密度が高い可能性もある。	ネダニは密度が高い状態であった。葉の黄化している部分から組織分離を行ったが、病原菌は分離されなかった。

月日	作物名	発生場所	症状等	診断結果
1月29日	かんしょ	壬生町	ほしいも加工を行っており、収穫後貯蔵しているサツマイモが腐敗する。ある圃場から収穫したコンテナが程度が重く、何か圃場で病気に感染していた可能性があるのか。	表面に白色の菌体は確認されるが、サツマイモの病源である糸状菌とは異なっている。内部の腐敗が進んでおり、組織分離を行うことが難しく、圃場で感染している病気の有無はわからなかった。
1月30日	いちご	鹿沼市	花梗が赤から黒く褐変してきて、腐敗したようになる。	褐変部位を顕鏡及び組織分離を行ったが病原菌は確認されなかった。一時的な生理障害の可能性が考えられる。
2月5日	たまねぎ	下野市（南河内）	べと病のような症状はあるが、生育は順調。	顕鏡したが、病原菌は確認されなかった。農薬散布をしているという影響も考えられる。乾燥、寒さによる枯れも多く生じていた。
2月5日	トマト	芳賀町	葉の黄化が中段ぐらいまでみられ、ウイルスの感染があるのか確認したい。	RT-PCRによりTOCVの感染が確認された。症状も一致することからトマト黄化病と判断した。
2月7日	トマト	野木町	下葉から黄化し、枯れる症状が数株ある。	髓の褐変は見られる。免疫ストリップでRs、Cmmは陰性。組織分離でフザリウム オキシスポラムが分離された。菌叢からPCRで確認したところトマト根腐萎凋病と判断した。
2月8日	トマト	小山市	しおれから枯死する株が見られる。	髓の褐変は見られる。免疫ストリップでRs、Cmmは陰性。組織分離でフザリウム オキシスポラムが分離された。菌叢からPCRで確認したところトマト根腐萎凋病と判断した。
2月8日	水菜	小山市	地際部に褐変が見られる苗がある。	褐変部位は顕鏡では病原菌は確認されない。組織分離したが、病原菌は分離されなかった。
2月8日	きゅうり	宇都宮市	葉にモザイク症状がある。	RT-PCRで、MYSVで陽性。黄化えそ病と判断した。
2月15日	トマト	壬生町	まだら果が約4割の株で見られる。コルキーのような根もみられる。葉が黄化している株もある。	RT-PCRでTOCV陰性。根の中心部に褐変が見られる。茎の導管から髓も褐変あり。組織分離し、フザリウム オキシスポラムが分離された。コロニーからPCRをし、根腐萎凋病と判定した。
2月20日	きく	宇都宮市	・株のしおれ（葉縁の水浸状の黒色の葉枯症状） ・茎の中間部の腐敗	・葉枯症状：葉に細菌泥見えず、組織分離で病原菌分離なし。免疫ストリップ診断でRs（青枯病）陰性、TSWV陰性。 ・茎の腐敗：茎の腐敗部分の下・地際にあたる褐変部分からリゾクトニア菌を分離し、立枯病と診断した。
2月21日	ファレノプシス	-	・苗が枯れる（？。根と最下位葉（1葉目）が枯れている。腐敗ではないよう。ECが高いとのこと）	・新葉は正常で新根が出つつある。病害でなさそう。生理障害だった（高EC?）の可能性あり。茎の地際部の組織分離では病原菌は分離できなかった。植え替えして経過を観察する。

月日	作物名	発生場所	症状等	診断結果
2月25日	ごぼう	-	収穫後のごぼうの中心部分に褐変が見られる。	組織分離すると、フザリウム オキシスポラムが分離された。生育期間中の症状が不明であること、ごぼうに病源性のあるフザリウムと断定できないことから、断定はできないがごぼう萎凋病の可能性は考えられる。
2月26日	トマト	真岡市	TY耐性品種だが、圃場の1割ぐらいいで、葉の黄化や葉巻症状がある。	TYLCVがPCRで陽性。症状も一致することから、黄化葉巻病と診断した。
2月27日	トマト	-	導管に褐変がみられ、萎れる症状がある。	イムノストリップで青枯、疫病は陰性。根及び茎の褐変部位からフザリウム ソラニが分離された。茎内部の褐変は進んでいる状態であった。フザリウム株腐病と判定した。
2月28日	トマト	-	葉の黄化が中位葉までみられ、TYLCVの疑いがある。	RT-PCRの結果、TYLCV陰性。
3月6日	トマト	-	葉の黄化、萎縮がみられTYLCVの可能性はある。	PCRの結果、TYLCV陽性。黄化葉巻病と診断。
3月6日	きゅうり	-	果実の内部が褐変がみられる。切っていくと、花おち部分から褐変が広がっているように見える。	茎にはつる枯病の典型的な分生子塊を確認、分生子を顕鏡で確認し特徴が一致。症状も一致することから、きゅうりつる枯病と診断した。
3月4日	いちご	下野市	イチゴのほ場でコバエがたくさん飛んでいるので、調べてほしい。	同定の結果、ショウジョウバエ類の一種（オウトウショウジョウバエでない）であった。
3月8日	きゅうり	-	葉にウイルス様症状がある。	症状が進んだ葉でZYMV陽性。RT-PCRでMYSV、CCYV陽性。黄化えそ病と退緑黄化病が混発していた。
3月18日	にんにく	さくら市	圃場内に芽がでない所が散在する。イモグサレセンチュウの害を疑っている。	鱗片に褐変は見られるが、切って顕鏡してもセンチュウは確認出来なかった。根はきれいな状態。鱗片の中心部分が腐敗しており、病気による症状とも考えにくい。
3月19日	ばら	小山市	2月上旬に生育の遅れ（茎の伸びが悪い）があり、根を見てみると褐変症状がみられた。	根が褐変、脱落。新しい根、シュートが見られる。茎葉のしおれ、維管束の褐変はない。褐変した根を用いて疫病菌のイムノストリップ診断(Phyt)を行ったが陰性であった。組織分離では病原菌は分離されなかった。
3月19日	ユリ	宇都宮市	その後薬剤散布を行っているが、改善がみられない。	球根下部の根は褐変腐敗、脱落。鱗片基部が褐変腐敗し、鱗片にしわを生じている（外側鱗片に傷が原因と思われる褐変・陥没した部分がある）。組織分離では病原菌は分離されなかった。
3月22日	たまねぎ	小山市	葉の黄変、生育は若干劣って見える株がある。	卵胞子は確認できた。しかしべと病に特徴的な菌糸の形状が確認できなかった。薬剤散布により菌糸は確認できない可能性が考えられる。病徴はべと病と一致することから、べと病と考えられた。
3月22日	たまねぎ	下野市	葉が開いている株で黄変しているものがスポット的にある。	植物病原の菌糸などは確認できなかった。圃場内での生育不良の株と考えられた。

月日	作物名	発生場所	症状等	診断結果
3月22日	にら	佐野市	ニラのセル育苗の土の表面に白色のカビが見える。	植物病原の菌糸の特徴は見えなかった。
3月26日	いちご	下野市	①タネの周りに白くびっちりコナダニと思われるものが付いていて、食害している。 ②今朝出荷するときはなんともなかった果実が、夕方には(腐って?)水状になり、なくなってしまう。 毎年3月末頃から見られ、今年は3月22日に発生を確認した。果実を置いておいたら虫がいなくなってしまうとのこと。①と②は別の要因と思われる。	菌糸及び胞子の形態から、 <i>Rhizopus nigricans</i> によるイチゴ軟腐病と診断した。
3月26日	いちご	下野市	①タネの周りに白くびっちりコナダニと思われるものが付いていて、食害している。 ②今朝出荷するときはなんともなかった果実が、夕方には(腐って?)水状になり、なくなってしまう。 毎年3月末頃から見られ、今年は3月22日に発生を確認した。果実を置いておいたら虫がいなくなってしまうとのこと。①と②は別の要因と思われる。	形態からコナダニ、おそらくはケナガコナダニの一種と思われる。サンプルでは、がくの隙間に数頭見られただけであり、果実への直接加害は確認できなかった。また、軟腐病との因果関係も不明。
3月25日	トマト	宇都宮市	2, 3日前に発見した。地際部に褐変症状がある。完全に枯死したのは1株のみである。ほ場内に点在している。	地際部の茎の褐変、組織分離により <i>Fusarium solani</i> が分離されたためフザリウム株腐病と診断した。
3月27日	二条大麦	下野市	3月中旬頃からほ場全体に葉の黄化が発生。	DAS-ELISAの結果、BaYMV陰性。
3月29日	イチゴ	真岡市	3枚の葉のうち新しい方から2枚目の葉柄の中間部分が細長く褐変し葉柄全体が赤色になる。	黒色斑点と地際部の太い根でのイムノストリップ診断でPhyt陽性、疫病菌を高率で分離。クラウン内部に褐変あり、イムノストリップ診断でPhyt陰性、病原菌(疫病、炭疽病、黄萎病)は分離されなかった。※分離菌株を農業試験場でPCR検定した結果、 <i>Phytophthora cactorum</i> と同定された。
4月1日	二条大麦	野木町	3月上旬頃からほ場全体に葉の黄化が発生。2週間前くらいから症状がひどくなってきた。	DAS-ELISAの結果、BaYMV陰性。
4月1日	小麦	野木町	3月上旬頃からほ場全体に葉の黄化が発生。3月上旬頃に尿素を追肥したが効果なし。2週間前くらいから症状がひどくなってきた。	RT-PCRの結果、WYMV及びSBWMV陰性。
4月4日	りんどう	宇都宮市	3月下旬、30~50cmに生育時、葉に部分的なえそ症状が発生。ハウス内に1割程度スポット的に2~3カ所で発生がみられる。アザミウマ等害虫の発生はみられない。病害は一部の株で白絹病が根部にみられている。	イムノストリップでINSV, TSWV陰性。PCRの結果、BBWV陽性。ウイルス病と診断した。

月日	作物名	発生場所	症状等	診断結果
4月8日	ハイブリッドスターチス	さくら市	3月中旬頃に、一部に樹勢が弱っているような症状を発見。穂先および葉の萎れ、茎に縦の割れが見られ、引っ張ると株元から容易に引き抜ける。 東西6連棟ハウス（正確には南西～北東）内ほ場全体に点在して症状が見られる。同株内でも症状のある茎と、ない茎が混在している。	イムノストリップRS, Phyt, Poty陰性、病原菌の分離無し。
4月9日	ナス	さくら市(喜連川)	定植後、活着せず萎れが著しく、1ヶ月経過しても生育せず、日中萎れて夜や明け方にはやや回復。最近になって完全に枯死した。 遮光・かん水（鉢水）を実施したが改善せず。ハウス中央から発生し始め、両方向に症状が広がっている。発生の軽微なほ場あり、発生の少ないほ場はやや乾燥気味のほ場。発生の多いほ場はほぼ全滅。 掘り上げてみると、根は全く発根しておらず、褐色に変色している。白色のかび？発生あり。 同じ苗を同じ日に搬入した他の生産者の生育は良好。	イムノストリップ診断でPhyt陽性であり、症状と併せて根腐疫病と診断した。
4月9日	たまねぎ	塩谷町	カブラヤガやタマナヤガと同時に、たまねぎの株元を食害する害虫が数頭いた。黒色の虫が葉を穴を開けるように食害。 3月下旬頃から食害が見られ始めた。 ほ場の辺縁部に多い。形態がチョウ目の幼虫に似ている。	ネギ科の植物を食べるネギオオアラメハムシであった。 慣行防除がされているほ場では発生しにくい、殺虫剤無散布であったため発生したと考えられる。
4月9日	トマト	栃木市	2月からコナジラミ類多発し、黄化症状が散見。現在、ハウス内蔓延。下葉から黄化症状が出ている。	RT-PCRの結果、黄化病（ToCV）と診断した。
4月10日	トマト	-	葉に要素欠乏症類似の黄化と斑点、茎内部に褐変が見られる。	葉の斑点は、細菌病が疑われたが細菌泥は見られなかった。茎内部の褐変は、葉かき等によりできた傷から雑菌等が侵入し髄部が変色したものと思われる。
4月10日	イチゴ	真岡市	クラウンの導管が褐変、菌が見られた。	病原菌は認められなかった。
4月11日	きゅうり	小山市	しおれる。根腐れ。	イムノストリップ診断Rs陰性。組織分離で病原菌分離されない。
4月11日	イチゴ	真岡市	葉に長い斑点、クラウンに褐変が見られる。	葉の斑点は、イムノストリップ診断でPhyt陽性。疫病と診断した。

月日	作物名	発生場所	症状等	診断結果
4月12日	かきな	佐野市	10数年前から発生していた。毎年3月以降増えてくるが、年次変動が大きい。 かき菜に対する食害はない。ほ場で探しても見つからず、農家も収穫時に落ちたり、袋詰め・出荷時に発見する。 集荷場での返品や市場でのクレーム・返品など問題となる年もある。	アブラムシ類を捕食するヒラタアブ科の一種（天敵）であった。
4月16日	イチゴ	真岡市	生育不良、クラウンの導管の周りが褐変している。	組織分離を行ったが、炭疽病、萎黄病菌等は分離されなかった。
5月7日	トマト	真岡市	果実に着色ムラ、下葉の葉脈間の黄化が見られる。（コナジラミ、サビダニの発生が多い。灰色かび病が見られる）	黄化した葉のRT-PCRによりToCV検出、黄化病と診断した（タバココナジラミが寄生）。TYLCVは検出されなかった。
5月7日	イチゴ	足利市	4月下旬以降、芽がしおれた。	しおれた葉柄から分離した菌をイムノストリップ診断、Phyt陽性、疫病と診断した。
5月8日	イチゴ	足利市	4月下旬頃らしおれが見られた。	根、クラウンから分離した菌をイムノストリップ診断、Phyt陽性、疫病と診断した。
5月8日	イチゴ	足利市	4月下旬からしおれが見られた。	根、クラウンから分離した菌をイムノストリップ診断、Phyt陽性、疫病と診断した。
5月8日	水稲	宇都宮市	育苗中の苗に立枯れ症状が見られる。	PCRの結果、イネもみ枯細菌病 <i>Burkholderia glumae</i> (= <i>Pseudomonas glumae</i>) 及びイネ苗立細菌病 <i>Burkholderia plantarii</i> と診断。
5月9日	水稲	下野市	播種後2週間くらいから育苗中の苗に坪状に立枯れの症状が散見し始めた。	PCRの結果、イネもみ枯細菌病 <i>Burkholderia glumae</i> (= <i>Pseudomonas glumae</i>) と診断。
5月8日	ほうれんそう種子	壬生町	4月上旬～発生が確認される。播種後2日後位から種子の果皮が一部食害され、内部が全て食害される。発生はほ場の一部に集中している。 3月播種は発生が無かった。	ほうれんそうの種子を食害する可能性がある害虫は、ヤギシロトビムシorタネバエ。 害虫以外の何らかの要因も考えられる。
5月10日	ネギ	さくら市	株が萎縮。葉鞘部が紅色・褐色化、とろけ症状	茎盤部に褐変あり、組織分離により <i>Fusarium oxysporum</i> を分離した。萎凋病と診断した。
5月13日	かぼちゃ	那須烏山市	5月10日頃異変を確認。	地際部の茎が黒変、コルク状、白色の菌叢が見られた。検鏡により <i>Fusarium solani</i> による立枯病と診断した。
5月13日	タマネギ	宇都宮市	中位葉に枯れ、斑点のような病斑がある。3月下旬からアザミウマ類が発生した。	白い斑点症状のイムノストリップ診断でIYSV陽性。えそ条斑病と診断した。
5月13日	イチゴ	真岡市	株がしおれる。クラウンの導管が褐変。新葉の葉先が黒く枯れる。	クラウンのイムノストリップ診断でPhyt陽性だったので疫病と診断した（葉は陰性）。組織分離の結果、葉では病原菌は出なかった。
5月13日	イチゴ	真岡市	ランナー先枯れ。クラウンの導管が褐変。新葉の葉先が黒く枯れる。	クラウンのイムノストリップ診断でPhyt陽性だったので疫病と診断した（葉は陰性）。組織分離の結果、葉では病原菌は出なかった。

月日	作物名	発生場所	症状等	診断結果
5月13日	イチゴ	真岡市	しおれる。根が褐変している。葉柄に褐変・小葉に不整形の斑点がある。	褐変した根のイムノストリップ診断でPhyt陽性だったので疫病と診断した。葉の斑点は組織分離の結果、病原菌は出なかった。
5月14日	パパイヤ	佐野市	4月26日にポット苗を定植し、1週間くらいで突然しおれだした。50本中12～3本。地きわ部変色し、繊維を残して溶けたようになっている。	イムノストリップPhyt陰性。 <i>Alternaria</i> 属が分離され、直接検鏡でも組織内に分生子が見える。 <i>Alternaria</i> 属による立枯れと推察される(<i>Alternaria</i> によるパパイヤの立枯れは未報告であり病原性不明)。
5月17日	トマト	宇都宮市	成長点が縮れ葉になっている。	イムノストリップ診断でTMV陰性、CMV陰性。
5月22日	トマト	壬生町	Mg欠乏症に似た葉の黄化症状が見られる。コナジラミが多く発生している。黄化病、黄化葉巻病の発生が疑われる。	腋芽の葉を用いたRT-PCR法による診断でTYLCVを検出した(ToCV未検出)。黄化葉巻病と診断した。※「麗妃」はTYLCV(トマト黄化葉巻病イスラエル系統、マイルド系統)に耐病性
5月23日	キク	真岡市	一ヶ月前くらいから葉の黄化、枯れが見られた。同一ハウス内に他品種も植付けされているが、ほぼアイシスに発生している。	イムノストリップ診断でTSWV、ZYMV陰性。茎褐変部、葉について組織分離を行った結果 <i>Fusarium oxysporum</i> とみられる糸状菌が分離され萎凋病と診断した。
5月23日	イチゴ	真岡市	以前、線虫が出ていると診断を受けた。土壌消毒を行っているが、まだ線虫の被害のような株がある。線虫かどうか見てほしい。	被害株の根及び根回りの土壌から植物寄生性のセンチュウが多数検出された。葉のまわりや根が褐変する症状、根から植物寄生性のセンチュウが多数検出されたことからネグサレセンチュウによる被害と診断した。
5月29日	イチゴ	真岡市	1000本のうち1本のみ萎れた。葉柄が赤くなり、新葉に奇形が見られる	組織分離の結果、炭疽病菌、 <i>Fusarium oxysporum</i> (萎黄病菌)を分離
5月30日	イチゴ	日光市	親株の生育不良	クラウンに褐変、組織分離で <i>Fusarium oxysporum</i> を分離したが、マルチプレックスPCRで病原性はないと診断した。
5月30日	カボチャ	那須烏山市	葉枯れ、葉に斑点	検鏡で細菌泥確認。組織分離で糸状菌は出なかった。症状と併せて斑点細菌病と褐斑細菌病と診断
6月3日	イチゴ	鹿沼市	親株に奇形葉・黄化(サンプル:T1・2、S)	塚原1は糸状菌が分離されなかった。塚原2は <i>Fusarium oxysporum</i> を分離したが、マルチプレックスPCRで病原性はないと診断した。塩野は組織分離で <i>F. oxysporum</i> を分離、マルチプレックスPCRで萎黄病と診断した。
6月3日	りんご	矢板市	りんごの果実表面がボコボコにへこんでいる。樹の中で立ち枝一本分の果実が全て同様の状態になっている。同じ樹の中で、この立ち枝以外の果実はこの状態になっていない。	断面によりカメムシ等による吸汁によるものではないと判断。病徴は果実にだけ現われ、葉、枝、根などは外観健全であり、樹のうちの限られた枝の果実が発病しているため奇形果病の可能性はあるが、該当の枝が徒長しておりシュクカ病(ハウソ欠)の可能性もあるため経過観察。

月日	作物名	発生場所	症状等	診断結果
6月5日	マリーゴールド	栃木市	6月上旬から、上～中位葉に褐色斑点の症状が葉の表面及び裏面に発生。全体の1割程度で発生している。スポットで発生し、少しづつ拡大する感じがする。	ムノストリップによる簡易診断 INSV, TMV, TSWV, IYSY, ZYMV、 CymMV: 陰性 組織分離した結果原因とみられる菌は分離されなかった。根、維管束は健全。生理障害と思われる。
6月10日	トマト	さくら市	連棟ハウス全体に葉焼け、萎縮症状が見受けられる。萎縮株は、根張りは比較的良好で、導管部の褐変症状は見られなかった。	検鏡でトマトサビダニを多数確認した。トマトサビダニによる葉枯れ症状と診断した。
6月12日	イチゴ	栃木市	ランナーに黒くなる症状が見られる。炭疽病が疑われる。	検鏡で炭疽病菌の分生子は見られなかった。組織分離でも炭疽病菌(他の病原菌も)分離されなかった。
6月12日	バラ	栃木市	5/25・26の作業の作業時に葉の枯れと摘芯した枝の褐変に気づく	根の褐変が認められる。イムノストリップで疫病陽性のため、疫病の診断した。
6月12日	リアトリス	那珂川町	穂が萎える症状が出たのは6月に入ってすぐ。ほ場全体に穂が萎える症状が見られる。主根に水浸状の症状が見られる。側根も先端が痛んでいる様子。	イムノストリップ診断でPhy陰性。茎部からの組織培養で運動性の桿菌が分離され、腐敗している根部の抽出液を直接検鏡したところ同様の菌が確認された。API細菌同定キットでは、 <i>Pseudomonas</i> 属菌と推定された。以上より <i>Pseudomonas</i> 属菌の感染による症状と推定した。
6月13日	トマト	足利市	3月頃から萎れ始め、現在100本程度発生。ハウスの西側半分で発生が多く、発生株は連続でなく点在している。青いまま萎れ、茎表面に褐変が見られる。維管束は褐変しており、株によっては地際も褐変が見られる。	切断した茎からの菌泥の流出なし。かいよう病イムノストリップキット陰性 茎上部の維管束の褐変なし。イムノストリップ診断でRs陽性だったので青枯病と診断した。
6月14日	りんどう	宇都宮市	3つのハウス同様の条件で栽培をおこなっており、すべてのハウスにおいて、一部の株で株の極端な生育不良が発生。根に近い茎部で腐れ症状もでており、根張りも不良。以前、試験場でのコンテナ栽培で3年目以降の株に発生した立ち枯れ症状と似ている。害虫については、アザミウマが発生初期である。抜き取った株の根には、ダニのような虫が見られている。	イムノストリップ疫病、青枯れ陰性。組織分離した結果、病原となる分離されず。株をわったところ、ネダニが増殖し、上部の維管束が健全であること、また根部で空洞があり、細根がないことからネダニによる立ち枯れと推察された。
6月17日	水稻	真岡市	移植後の水稻株が褐色に枯れる。	PCRの結果、イネもみ枯細菌病 <i>Burkholderia glumae</i> (= <i>Pseudomonas glumae</i>) と診断。
6月18日	水稻	鹿沼市	葉が黄化し、茶褐色の楕円または不規則な病斑のようなものがみられる株が、畦畔などのほ場の特定の場所というわけではなく、ほ場内にわずかにまばらにみられる。	DAS-ELISAの結果、RSV陰性。

月日	作物名	発生場所	症状等	診断結果
6月19日	アサガオ	真岡市	6月上旬より 葉の小さな褐色斑点、褐変の症状が見られる ほ場全体に見られる（現在30%程度は集荷不能） 症状が増えている 鉢上げ時（5月上旬）は症状が見られない。	根部、茎部健全で組織分離で菌の分離なし、生理障害と思われる。
6月20日	ナス	日光市		葉の萎れ、黄化、茎内部の褐変が見られる。細菌流出が観察でき、青枯病と診断した。
6月21日	イチゴ	宇都宮市	奇形葉、クラウン中心部に凍み症のような褐変が見られたが、道管の褐変は確認できなかった。	クラウン部の維管束に褐変あり、 <i>Fusarium oxysporum</i> を分離したので、萎黄病と診断した。
6月24日	イチゴ	栃木市	葉に黒斑。炭疽病か	葉の黒斑、検鏡で菌糸、細菌泥見えず。組織分離で糸状菌は分離されなかった（炭疽病ではない）。
6月25日	ぶどう	栃木市	・新梢基部葉（基部から1～3枚目程度）に発生 ・葉全体に黒い斑点が発生し、次第に黄変落葉している ・ほ場全体に発生 ・2～3週間前から発生している	組織分離を試みたが菌は分離されなかった。生理障害と思われる。
6月27日	キュウリ	小山市	アザミウマ類は例年程度、目立たず （ヨトウムシによる食害、芋虫系による実への食害はあったとのこと） 症状は5月下旬に発見。初期からウイルス病の症状は見られたとのこと。 圃場中央付近に集中して発生	ウイルス検定（イムノストリップ: ZYMV、CMV、CGMMV）、PCR検定（MYSV、CCYV）いずれも陰性
6月27日	キュウリ	小山市	圃場内に散見。株は発生後萎れ症状が見られた後、枯死。	根の褐変腐敗部分に菌糸が観察される。組織分離の結果、 <i>Fusarium oxysporum</i> を分離した。つる割病と診断した。
6月28日	ミニトマト	河内農振管内	昨年栽培時は、20mの単棟パイプハウスで最終的には8割程度枯れたとのこと。現在は、数日前から数本がしおれ始めている状況	茎の維管束に褐変が認められる。細菌泥の漏出もあることから青枯れ病と診断した。
6月27日	りんご	矢板市	りんごの果皮表面に小さな黒いくぼみが発生する。時間が経つと茶色くコルク化したより大きなくぼみになる。果皮をむくと内部がコルク化している。	被害部の状況や果実の内部まで刺した痕が確認されたことから、カメムシによるものと診断した。
6月27日	アスパラ	市貝町	6月に入り、夏芽収穫が始まってから、若茎に曲がり縦すじの症状が発生。 緑色の小さい虫が歩き回っているのを時々見かけていた。 発生が一番多いハウスはほ場の端で、風当たりがよい。 アザミウマの発生も多く、加害痕も見られる。	ほ場にいたカメムシ幼虫を飼育、同定した結果、アスパラを加害するツマグロアオカスミカメであった。当該地域がソバの産地であったため、ツマグロアオカスミカメの生息密度が高かった可能性がある。

月日	作物名	発生場所	症状等	診断結果
6月28日	りんご	矢板市	りんごの果皮にサビ状の物が発生している。同じ樹の中でも発生する枝と発生しない枝がある。以前から軽微な症状は出ていたが、ここ2～3年で症状が強くなるようになった。症状が出ている枝の近くから出ている枝で更新したことがあるが、更新後の枝でも症状が発生している。園地全体で樹3本に同様の症状が出ている。	ダズバン散布によるサビ症状の報告があり、サビ果病との差異が判断できず経過を観察して判断する。
6月25日	キウイ	小山市	<ul style="list-style-type: none"> ・新梢、結果母枝（前年に新梢だった枝）に害虫が食入 ・食入部位から虫糞が発生 ・園主は6月20日に虫糞が発生していることに初めて気づいたとのこと ・ほ場全体で発生（特に薬剤のかかりにくいほ場外周部で多く発生） ・食入された新梢、結果母枝内部には蛹になりかけの幼虫（イモムシ）がいる。 	9月調査予定 その後、キクビスカシバとわかった。（特殊報を発表）
7月2日	いちご	大平町	ランナー？が黒褐色に枯れる。	病原菌は分離されなかった。
7月3日	ぶどう	宇都宮市	内部に褐変が見られる。キャンベルだけ特徴的に出る。	生理障害と思われる。
7月4日	いちご	壬生町	ランナーの先端が黒く枯れる。	<i>Alternaria</i> 属菌が分離されたが、病原菌ではないと思われる。
7月3日	ねぎ	大田原市	10日ほど前から、ネギの葉が黄色になる症状が出ている。今年から症状が出始めた。	植物体から菌の分離を行ったが、糸状菌は分離されなかった。殺菌剤を予防的に散布し、今後の経過を観察して判断する。
7月4日	きく	大田原市	草丈が伸びない、早期に花芽が着く。	キクわい化病原因ウイルス（CCSVd）検出キットにより検定した結果、陽性となったためキクわい化病と診断した。
7月4日	きく	大田原市	ほ場の2ヶ所で草丈が伸びない。	地際、根の褐変が認められ、イムノストリップ診断Phyt（疫病）陽性のため、疫病と診断した。
7月5日	りんご	矢板市	<ul style="list-style-type: none"> ・長井地区のサンプル樹皮が腐ってボロボロになり剥がれていく。腐敗部が枝を一周回ると、そこから先が枯死する。茶色く湿った状態で腐敗している。 ・片俣地区のサンプル樹皮表面に白い菌糸が吹き出している。 	組織培養した結果、付着しているものと異なる菌が分離された。湿潤下で放置し観察し赤布病と考えられたが担子胞子を確認することが出来なかった。
7月8日	トマト	大田原市	ハウス内に点々と青枯れとは異なる立ち枯れ症状が出ている。	地際部がくびれ、白っぽく枯れている。地際部の茎と根に小さい菌核が認められ、1日間多湿にすると白色の菌糸が認められたことから白絹病と診断した。なお、地際部の茎の維管束に褐変があったが、細菌の漏出はなく、イムノストリップ診断でRs陰性であった（青枯病ではない）。根と地際部から上の茎に腐敗等の症状はない。

月日	作物名	発生場所	症状等	診断結果
7月8日	セアノサス	芳賀町	昨年 夏に発生 本年は現在目立ち始めた。 高温期に多いと思われる。 株元が褐色化し、葉が徐々に萎れ、枯死する。 維管束の褐変	地際、根の褐変が認められ、イムノストリップ診断Phyt (疫病)陽性のため、疫病と診断した。
7月11日	トマト	宇都宮市	コナジラミが多発中(アブラムシも)。6月の末頃、下葉が黄色くなった。活着悪くて抜いた株や株全体が枯れたものも何本かある。下葉をかいて様子を見ていたが止まらない。	上位葉を用いてRT-PCRによる検定を行った結果、TYLCVは陰性であった。
7月16日	きく	下野市	・3ベットあり、中央のベットのみに下～中央付近の葉に不整形の黄褐色～褐色の斑点が発生。2週間前に気がつき、現在広範囲で出ている。健全な株と生育の差はない。その他、白さび病、アザミウマが一部発生している。定植の前にハウス内の薬剤による土壌消毒を実施するが、中央ベットは、ビニールの隙間となってしまう、消毒が不十分である。	病斑の組織培養を行ったが菌は分離されず、根部からは植物寄生性のセンチュウが発見された。 イムノストリップ検定 INSV, TSWV陰性 PCR検定 CSNV 陰性
7月16日	ひまわり	小山市	栽培している1000鉢中約100鉢で、上～中位葉に斑点状の葉色の淡い部分の発生が見られる。ほ場内のアザミウマの発生は5月下旬からやや多い。	イムノストリップ検定 INSV, TSWV陰性 PCR検定 CSNV 陽性 CSNVによる感染と診断した。
7月19日	きく	塩谷町	親苗購入(今回導入した品種) 6月出荷では無発生。 7月出荷以降の作型で発生している。	イムノストリップ検定 TSWV 陰性 PCR検定 CSNV 陽性 キク茎えそ病と診断した
7月22日	いちご	-	農家：3日前くらいに気づき、奇形葉の症状から萎黄病を心配している。発生は親株1本のみ。子苗には現時点では症状は見られていない。齊藤：葉の症状は萎黄病を思わせる。持ち帰り、クラウンを確認したところ、中心部にシミ症のような褐変が見られたが、道管はきれいな感じで、萎黄病かは判断に迷うところがある。	新葉が黄化した奇形葉。クラウン部に褐変、葉柄基部と若干の根に褐変腐敗が見られる。組織分離により <i>Fusarium oxysporum</i> を分離しPCRで病原性を確認したので、萎黄病と診断した。
7月23日	ほうれんそう	塩谷町	南北ハウスの東側サイド付近を中心に少量の発生(点在) 症状は葉上に1～2程度の白い小斑点	斑点上に菌糸、胞子は認められない。斑点の切片に細菌の漏出は認められない。 (分離①糸状菌はいくつか分離されるが、病原菌ではないと思われる。分離②同じものが分離されない。胞子の形成なし)。 病害ではないと考えられる。

月日	作物名	発生場所	症状等	診断結果
7月23日	水稻	茂木町	7月始め頃、畦畔脇に坪状に萎縮しているのを発見。その後、帯場には場中心に向かって症状が進展。複数発生し、現在、ほ場マップのように筋状になっている。株を見ると、症状が酷い株は新葉が枯死しており、出穂しないと考えられた。近隣の正常に見える株にも、止葉に萎縮・奇形が見られた。	症状や発生状況から、病害虫によるものではないと考えられた。
7月25日	きく	塩谷町	親苗購入（今回導入した品種）8月上、中出荷の作型で発生している。	イムノストリップ検定 TSWV 陰性 PCR検定 CSNV 陽性 キク茎えそ病と診断した
7月29日	アスパラガス	宇都宮市	7月25日頃から発生を確認当初は、穂先の中に隠れており、収穫トレーに置くと、穂先からわらわら出てきていた。7月29日に確認したときは、ほ場にある若茎の穂先にわらわらとダニがいる感じ。	胴背毛や鋏角等の形態から、ホダニ科orマヨイダニ科の一種と診断した。 ホダニもマヨイダニも有機物の多い土壌に住むダニであり、土の中にいる小さな虫を食べる。 ビムシを捕食するために、アスパラガスに集まったことが推測される。
8月1日	シクラメン	宇都宮市	・鉄骨ガラス温室。7月上旬に鉢上げ後、順調に生育していたが、7月22日過ぎ、高温が続くようになり30鉢程度に葉の黄化、萎れ症状が発生。給水マットをしているベンチで多く発生し、昨年度も同様の病害が一部発生した。（マットは使用前に消毒済み）品種はF1でのみ発生。 ・他の病気、害虫の発生は見られない。	イムノストリップ診断:疫病、青枯病 陰性 組織分離をしたところ、 <i>Erwinia</i> 属と思われる運動性の桿菌が分離され、葉、葉柄に黒褐色の病斑が見られることから 葉腐細菌病と診断した。
8月1日	なし	宇都宮市	3年生苗木のみに6月頃から「えそ斑点病」の病斑らしき症状が散見されてきた。1年生苗木には症状はみられない。	湿潤下で葉全体から鮭色の子嚢殻が出現し、分生子の形状、PCR診断によりナン炭疽病と診断した。新高は罹病しやすいことが知られている。
8月5日	いちご	宇都宮市	奇形葉が見られる（最上位葉）。あまり黄化していない。根が褐変して生育不良。	クラウン部の褐変なし。新しい根が出てきている。クラウンと根の組織分離で病原菌は分離されない。病害ではないと診断した。
8月6日	トマト	宇都宮市	7月上旬頃、ハウス入り口付近で生長点付近が萎縮していたり、針状の症状を確認した。現在はハウス全体が同じ症状。現在の発生害虫はコナジラミ、アブラムシ、ダニ	茎先端の黄化、萎縮、枯れが見られる。 イムノストリップ診断でCMV、TMV、TSWV陰性。RT-PCRでTYLCV陽性だったことから黄化葉巻病と診断した。
8月8日	しょうが	那須烏山市	8月上旬頃から地際部茎部に褐変症状及び倒伏株が発生、同症状株は地際部茎部から塊茎上部にかけて褐変症状がみられる。	組織分離では糸状菌は分離されなかったが細菌が分離された。 api20で簡易診断した結果、腐敗病(<i>Erwinia</i>)の可能性が高いと考えられた。

月日	作物名	発生場所	症状等	診断結果
8月9日	トマト	栃木市	ほ場内に点在。数はさほど多くはない。害虫の発生は特に目立たず。生育不良。茎の褐変、葉の文様が見られる。	症状及びイムノストリップ診断でTSWV陽性であったことから黄化えそ病と診断した。
8月13日	いちご	日光市	しおれ、奇形葉などが見られる。萎黄病か。	1部の株に、クラウン部維管束の褐変、根の黒変・細根の脱落が見られた。奇形葉や黄化は不明瞭であった。組織分離により <i>Fusarium oxysporum</i> が分離されたが、PCRの結果では萎黄病菌に特異的な増幅は認められなかった。
8月21日	シクラメン	真岡市	7月下旬頃～ 葉の黄化、芽点の黒変枯れが発生しはじめた。塊茎の褐変 根張りはあまり良くない	塊茎部の赤～褐変が認められ組織分離した結果、桿菌が高確率で分離された。PCR診断により花腐細菌陽性だったため、花腐細菌病と診断した。
8月22日	ばら	小山市	8月16日の作業時に、葉の枯れと茎の萎れに気づく。株元の褐変と萎れが定植ベットの10%ほどで発生。	根の褐変が認められる。イムノストリップ：Phyt陽性、疫病と診断した。
8月22日	うど	塩谷町	7月頃から下葉の黒色斑点および黄化症状が発生した。親株の生育自体は順調である。	症状及び病斑に <i>Alternaria</i> 菌の分生子が認められたことから黒斑病と診断した。
8月22日	ぶどう	栃木市 大平町	・果房の軸に白いカビのようなものが発生。 ・症状が重い果房は果実にも白いカビのようなものが発生。 ・本症状が見られる果房はキノコ臭がする。 ・葉や新梢には病虫害の発生はない ・ブラックビートの他、巨峰、ピオーネにも発生。	雑菌に覆われ特定できなかった。
8月26日	たまねぎ	高根沢町	出荷後、納品先の業者よりクレーム連絡があった。現在も加工作業中のため、発生割合は不明である。 (病原性の腐敗なのか、急激な乾燥に伴う生理的なものか、判断しかねている。根切り後から収穫まで、雨が続いた中、圃場で1ヶ月ほど経過したため、腐敗病ではないかと考えている。出荷時に、切り口が乾かずに汁気を持っているものは除外して出荷したが、腐敗が発生したため、原因を把握し、次年度の対策としたい。)	盤茎部とりん片基部が腐敗しており、糸状菌が観察され、組織分離により <i>Fusarium</i> 菌が分離されたことから、乾腐病と診断した。
8月27日	とうがらし	日光市	梅雨入り後に発生し、台風等により多発する。果実にのみ発生し、葉には病兆が出ない。また、育苗苗を提供して栽培しているほ場(新地)でも、発生している。	症状及び分生子を確認し炭疽病と診断した。
8月23日	だいず	大田原市	25a程のほ場内で2ヶ所程スポット的に生育が劣り、葉色が淡い場所が見られる。 シストセンチュウか？	根にシストは見られない。根・土壌をそれぞれベルマン法にて調べたが植物寄生性のセンチュウは見られなかった。生育不良はセンチュウによるものではない。

月日	作物名	発生場所	症状等	診断結果
8月28日	トマト	壬生町	ハウス中央部にまとまって、定植後一週間頃から継続的に発生。現在も増加中。生長点および花芽に異常。現在の発生は100/4800株程度。フレンドシップと比べがんばる根11号で発生度合いが酷い。※害虫発生は今のところ無し※前作は黄化病が発生	新葉に黄化、葉巻き症状が見られるものは症状とPCRにより、黄化葉巻病(TYLCV)と診断した。
9月3日	いちじく	佐野市	5列植えの3列目中央から発生し、他の列に広がっている。新梢の下段から中段に掛けて発生	カンザワハダニの食害と診断しなかった。組織分離をしたが、原因菌と特定される菌は分離されなかった。
9月5日	きく	大田原市	ほ場の数ヶ所で草丈が伸びなく枯れる。 ※同一施設で精の光彩も栽培。光彩は多かん水を好み、光彩中心の管理となっている。	組織分離をしたが、高率に分離される菌はなし。 PCRによるCSNV 陰性、イムノストリップTSWV陰性、Phy陽性 疫病と診断した。
9月5日	きく	大田原市	発雷後、茎えそのように枯れてくる。	組織分離をしたが、高率に分離される菌はなし。 PCRによるCSNV 陰性、イムノストリップTSWV陰性 Phy陽性 疫病と診断した。
9月5日	なす	大田原市	新葉が奇形、果実が割れる。ほ場全面に症状が出る。3,4戸で出ている。萎縮病か？生理障害か？	ファイトプラズマのPCRで陰性。萎縮病では無いと思われる。CMV、TMVのイムノストリップ診断も陰性だった。
9月12日	アスパラガス	宇都宮市	7月頃から若茎の障害(先端のいじけ、曲がり、奇形など)が発生。現在は、出荷が5割、廃棄が5割。	ネダニ類の寄生が確認された。
9月12日	ねぎ	下野市	ネギの葉が白色になるほど激しくハモグリバエに食害される。7月頃より被害が散見され、8月にはほ場全面に拡大。	農研機構に同定依頼。 ネギハモグリバエB系統であった。(特殊報)
9月19日	アスパラガス	宇都宮市	以前からアスパラの株元近くに傷があった。今回 N氏のネダニの話聞いて改めて見てみると、傷のあたりに今回の虫がいた。圃場内の特定の場所ではなく、ところどころで見られる。	イレコダニ類の一種であった。腐食を食べるダニなので、害虫ではない。
9月19日	トマト	栃木市	・9月16日時点で黄化葉巻病で18本引き抜き・ハウス東側にある程度まとまって発生・その他にも全体的に散在・第二段花房上から生長点にかけて、黄化葉巻病に似た症状が見られる。	イムノストリップ診断で、CMV、TMV、TSWVが陰性だった。 TYLCVのRT-PCRで陰性だった。
10月3日	きゅうり		定植後にコナジラミ類、アザミウマ類の発生があった。現在はコナジラミ類がまだ残っている。ほ場の1割弱で発生。(点在)	イムノストリップ診断で、ZYMV陽性、CMV・TSWV・CGMMVが陰性だった。MYSVのRT-PCRが陽性だった。
10月4日	ぶどう	栃木市 大平町	・果房の軸に白いカビのようなものが発生。 ・症状が重い果房は果実にも白いカビのようなものが発生。 ・本症状が見られる果房はキノコ臭がする。 ・葉や新梢には病害虫の発生はない。	菌糸の顕微鏡観察により担子菌類の特徴である「クランプ結合」が確認され、外観から判断して白色綿雪症と診断した。

月日	作物名	発生場所	症状等	診断結果
10月7日	いちご	壬生町	新葉の「びっこ葉」、クラウン部の「腐れ」、根の「褐変」	クラウン部の維管束の褐変部位から分離した <i>Fusarium oxysporum</i> はPCRにより病原性はなかった。クラウン部、根から分離した白色の菌叢は、イムノストリップ診断でPhytが陰性だった。根の中心柱は白色だった。クラウン部に腐敗はなかった。以上により病害ではないと診断した。
10月8日	トマト	宇都宮市	10/5頃から一部の株でしおれ症状。発生場所は連棟ハウスの中の2ベット。10株程度下葉からしおれてきている。根や茎内部に褐変なし。茎からの菌の漏出は確認できなかった。	維管束には褐変はほとんど見られなかった。イムノストリップ診断で、Rs陽性、Cmm陰性だった。青枯病と診断した。
10月8日	ねぎ	高根沢町	圃場全体にネギハモグリバエの食害痕がみられ、うち激しい食害痕が一部に見られる。激しい食害痕の表皮をめくると、複数匹のウジ虫の存在が確認された。	食害痕の状況からネギハモグリバエの別系統による被害であると考えられる。
10月11日	ねぎ	真岡市	9月以降根腐れ症状がある(ほ場全体に生育むらがある)。細根はある様子(肩の所に白い根が見える)菌核やネダニは見られない。(他に1ほ場が近くにあるが症状はない) ハモグリバエの発生が多い。	根が腐敗、脱落 茎盤部に褐変根及び茎盤部の組織分離により <i>Fusarium oxysporum</i> を分離、萎凋病と診断した。
10月17日	トマト	宇都宮市	台風19号で育苗ハウスがかん水し、一部の苗が水没した。10月16日に定植する際に、疫病のような症状を確認した。	水浸状・黒色に腐敗、茎の維管束の褐変なし(上部、下部) 検鏡で細菌の漏出あり、イムノストリップ診断でPhyt陰性、Rs陰性、Cmm陰性 以上により、軟腐病と診断
10月18日	いちご	-	ランナーに黒変 台風により冠水した後に急に症状が見られた。	組織分離により生じた白色の菌叢を用いてイムノストリップ診断を行ったところ、Phyt陽性であった。分離した菌糸の観察と併せて疫病と診断した。
10月23日	いちご	-	萎れる。クラウン部が褐変・腐敗している。	組織分離により炭疽病菌の分生子を確認、炭疽病と診断した。
10月23日	いちご	-	クラウンの導管が黒変している。	萎黄病等の病原菌は分離されなかった。なお、しおれ、奇形葉、黄化、根腐れ等の症状はなかった。
10月25日	いちご	さくら市	萎黄病か。奇形葉が見られる。	「とちおとめ」の1株に新葉の奇形、クラウン部の褐変あり、組織分離により <i>Phytophthora</i> 菌を分離したので疫病と診断した。「スカイベリー」の1株に新葉の奇形あり、組織分離により <i>Fusarium oxysporum</i> を分離したので萎黄病と診断した。
10月25日	いちご	高根沢町	萎黄病か。奇形葉が見られる。	1株に奇形葉が認められた。クラウン部の移管側部に褐変は認められなかったが <i>Fusarium oxysporum</i> が高率で分離されたので萎黄病と診断した。

月日	作物名	発生場所	症状等	診断結果
10月29日	いちご	宇都宮市	10月下旬頃、第3葉がしおれる。白色の菌糸が見られる。	組織分離により炭疽病菌を分離した。白色の菌糸は <i>Fusarium</i> 菌である。
10月31日	ねぎ	下野市	8月までは調子良かったが、9月になると萎れていってしまう。軟腐や疫病を懸念している。昨年と同じような症状が出た。	外側の鱗茎に腐敗あり、検鏡で隔壁のある菌糸確認。葉鞘の付け根が腐敗、折れる。鱗茎及び茎盤部に褐変はない。付いている根は白色（上部の根は腐敗・脱落している可能性あり）。あまり臭くない。ネダニの寄生あり。菌核なし。葉鞘部に菌糸が観察され、組織分離により <i>Fusarium oxysporum</i> を分離したことから、萎凋病と診断した。
10月31日	いちご	宇都宮市	農家：ミツバチの巣箱に、なにか別種の虫が（アブだか蜂だか分からないが）入り込んでいて、ミツバチがその虫を攻撃しており、興奮してしまっている。虫の種類を知りたい。	診断依頼のあったサンプルはセイヨウミツバチだった。他の群の個体が巣箱に入り、荒らすことがあると考えられる。
10月31日	いちご	鹿沼市	冠水したほ場で、生育不良。葉が枯死、花梗が褐色になり、伸びが悪い。根は正常。チャノホコリダニは見られない。	糸状菌、病原細菌は検出されなかった（組織分離、アピ20NE、イムノストリップ診断（Rs）での検定）。病害ではないと考えられる。センチウも検出されなかった。
11月5日	たまねぎ	高根沢町	育苗終盤になり、部分的に生育が悪化。外葉が枯れるのが早く、地際が褐変し倒れて枯死する。枯死した株にはタネバエなどは見られない。	枯死した苗の地際部に白色の菌叢あり（ <i>Fusarium</i> 菌の大型・小型分生子あり） 枯死した苗の地際部の葉鞘と茎盤部の組織分離により <i>Fusarium oxysporum</i> を分離したことから、乾腐病と診断した。
11月11日	トマト	上三川町	5連棟ハウスの入り口側1棟（4ベット）で、しおれ、葉枯れ症状。1ヶ月位前に2～3本見つけたが最近になって増えていることに気づいた。果実落下（青果実も）あり	イムノストリップ診断でCmm陽性であり、症状と併せてかいよう病と診断した。
11月13日	しゅんぎく	真岡市	10/28に症状に気付いた。症状が出ている株は点在している。新葉に症状は見られない。11/11補植株にも症状が出ているのに気付いた。10/8定植の隣接ハウスには発生なし（水は入らなかった。）。	苗：茎、葉柄基部から葉身にかけて水浸状に暗褐色の腐敗。定植株：葉の先端に葉枯れ症状。検鏡で細菌が見られる。組織分離では糸状菌は出ない。細菌はアピ20NEで検定した結果 <i>Pseudomonas marginalis</i> と考えられる。以上により、腐敗病と診断した。

月日	作物名	発生場所	症状等	診断結果
11月21日	ガーベラ	さくら市	下葉枯れの症状が出たのは10月下旬頃。 主根・側根に水浸状の症状が見られ、維管束に褐変がみられる。 葉脈の間に紫色の変色が見られる。 センチュウ (+)	ベルマン法でセンチュウを回収し検鏡したところ寄生性のセンチュウではなかった。クラウン内部が褐変。イムノストリップ診断でPht (疫病)、RS (青枯病) 陰性。クラウンの組織培養で運動性の桿菌が確認され、PCR診断した結果 <i>Pseudomonas marginalis</i> (シクラメンで花腐細菌病原菌) が陽性だったため、 <i>Pseudomonas</i> による病害と考えられた。
11月28日	しゅんぎく	真岡市	定植後1週間程度で葉の黄化や根の褐変、萎れ、枯死が見られた。10月12日の台風19号で浸水している。 植え替えた苗も枯死している。ハウスにより発生の程度は異なる。全てのハウスで発生している	イムノストリップ診断でCMV陰性 黄化株：ポリポットに移植して経過を観察 枯死株：根が黒変、枯死。茎の地際部から髓部が褐変。分離した細菌をアピ20NEで診断したが種類は不明であった。
12月2日	ねぎ	那珂川町	地際周辺の葉鞘部に丸い穴を開けるように食害する。 発生は1,000株に数本程度。 食害部分の葉鞘を剥くと葉数が少なくなり、市場出荷では規格落ちするケース有り。	同定の結果、ネギコガであった。ネギの地際に食入した原因は不明 (暖かい場所に隠れようとしたためか？または、土寄せ前に産卵された幼虫が食入を始めたか？)。
12月2日	ゆり	宇都宮市	・定植後は順調に生育しており、定期的な薬剤防除を実施していた。台風19号による浸水があったが、特に被害は見られなかった。 ・11月28日にハウス南西部の一部の株で葉に斑点模様がみられたため、葉の除去を行ったが、30日には被害株が拡大していた。 ・発生箇所は中心から上部の発生が多い。 ・他の病気、害虫の発生は見られない。	組織培養した結果、細菌、糸状菌とも病原菌となるものは分離されなかった。RT-PCR診断によりCNSV、BBWVが陰性、イムノストリップ診断によりTSWV、IYSV、INSV、Potyが陰性。CMVが若干の陽性であったが病原として特定するに至らなかった。
12月10日	トルコギキョウ	足利市	11月頃から立枯れ症状が見え始め、徐々に多くなっていく。	根際に褐変が確認できる。茎を組織培養した結果、糸状菌、球菌が確認されたが高率に出現するものはなく、主な病原菌が特定出来ないが立枯病と診断した。
12月10日	トルコギキョウ	足利市	着蕾時期から下葉の葉先に症状が出始めた。葉の褐変が進むと、茎にまで到達し枯れてしまう。地上部を除去してしまえば、地下部までやられることはない。	①病原菌は特定できないが立枯病と考えられる。 地際に変色、糸状菌確認。組織培養した結果、3種ほどの糸状菌が確認されたが、分生子を形成せず炭疽病菌、病原性のある <i>Fusarium</i> 等の菌ではなかった。 ②特定出来なかった 弱っていたところに灰色カビが付いている。葉、茎、根に病斑、褐変が無いことからエタノール滅菌後、シャーレに閉じ込め、素寒天上で培養した。3日目は出ず、5日目に赤いコロニーの球菌が発現したが、病原性は特定できなかった。

月日	作物名	発生場所	症状等	診断結果
12月10日	トルコギキョウ	足利市	①については、11月20日頃から萎れ症状が発生した。 ②については、11月頃から立枯れ症状が発生し、株元に鮭肉色の菌を確認したため、ベンレート散布を行った。 ③11月頃から株枯れが発生し始め、スポット的に継続して発生している。	①病葉、茎、根に病斑、褐変が無いことからエタノール滅菌後、シャーレに閉じ込め、素寒天上で培養したが5日までに糸状菌は出現せず、イムノストリップ診断Phy、RS陰性だったため生理障害と推察された。 ②地際が鮭肉色、内部に褐変が確認できる。茎を組織培養した結果、糸状菌、球菌が確認されたが高率に出現するものではなく、主な病原性は特定出来ないが立枯病と診断した。 ③ ②と同じ
12月11日	ねぎ	那須塩原市	ほ場にぽつぽつと発生。萎縮病が疑われる。	葉に条斑、萎縮 イムノストリップ診断でPoty(萎縮病病原ウイルスのOYDV含む)陰性、TSWV陰性
12月11日	トマト	上三川町	ハウス中央部に1本だけ症状が見られ、近接する株には症状は見られない。中段から下段の茎に褐変が見られ導管も褐変している。生長点や葉のしおれはない。12月上旬～症状が見られた。	茎の症状、検鏡による細菌泥の確認により茎えそ細菌病と診断した。
12月12日	キク	上三川町	・症状株はほ場に点在的に発生 ・前日までは健全で、一晩で茎の一部がとろけるように発生しているようである。 ・導管の褐変が確認される ・現在まで、10数株発生している。坪状に発生はしていない。	茎内部の腐敗物の検鏡で運動性の桿菌が確認され、組織分離で得られた黄色のコロニーをAPIで診断したところ、 <i>Eriwinia Chrysanthemi</i> に類似の結果が得られ、また水浸状の黒病斑の分布が葉軸から全体に広がる特徴によりキク軟腐病と診断した。
12月13日	にら	上三川町	10月頃からハウス内にスポット的に白いかすり状の斑点を生じた	イムノストリップ診断でIYSV陰性であった。生理障害と考えられる。
12月17日	いちご	那珂川町	定植後からほ場全体で発生	新葉に奇形葉、クラウン部の維管束に褐変、一部の根に褐変が認められた。クラウン部切断の2日後、維管束部に白色の菌叢を生じた。組織分離により <i>Fusarium oxysporum</i> を分離したので萎黄病と診断した。
12月19日	トマト	那珂川町	ほ場に1株発生した。新葉の黄化、葉枯れ症状が見られる。	明瞭なモザイク、えそ症状は見られない。イムノストリップ診断でCMV、TSWV陰性。
12月24日	トマト	-	施設に30株ほど出ている。	茎表面に茶褐色の不定形、水浸状の病斑。茎内部が腐敗。軟腐病と診断

月日	作物名	発生場所	症状等	診断結果
12月25日	きゅうり	下野市	12月23日に萎れ発生。当初はヒートポンプや送風機に近い箇所の株がまとまって（4～5株、同畝上）萎れたため、送風による乾燥が原因と思われたため、遮光して対応。12月24日夕方には萎れが拡大。送風が関係のない箇所でも萎れが発生。地上部に異常なし。圃場内で発生している他の病害虫はコナジラミによる黄化病または退緑黄化病程度。ベトや褐斑、ボトは無し。これまでに同様の症状が出たことも無し。畝上で連続して発生し、対面している畝では発生が見られないという点が少し気になる。	茎に症状はない。一部の根が褐変しており、検鏡により菌糸が観察される。根部の組織分離により <i>Fusarium oxysporum</i> を分離したのでつる割病と診断した。
12月27日	いちご	大田原市	株の枯死 葉の枯れ込み 果実への病斑	「なつおと」めの葉の斑点、果梗及びブスカイベリーのクラウン部から <i>Coletotricum gloesporioides</i> の分生子を分離したので炭疽病と診断した。他の「なつおとめ」（ポット苗）等の葉枯症状からは病原菌は分離されなかった。

7 病害虫侵入警戒調査

1) チチュウカイミバエ・ミカンコミバエ種群・ウリミバエ・コドリングア・アリモドキゾウムシ・アフリカマイマイ侵入警戒調査

我が国未発生害虫の発生を警戒するため、侵入の危険性が高いと推察される地点において、早期発見のため誘引トラップを設置して調査した。

(1) チチュウカイミバエの調査

フェロモン剤を取り付けたスタイナー型トラップを高さ約1mに設置し、4～11月にかけて調査したが、対象とする虫の誘殺はなかった。

表 チチュウカイミバエの調査期間、調査場所及び誘引状況

設置期間	調査場所	トラップ設置場所	設置数	誘殺数
4～11月	大田原市戸野内	果樹栽培地	1	0
〃	芳賀町稲毛田	果樹栽培地	1	0
〃	宇都宮市築瀬町	宇都宮市中央卸売市場	1	0
〃	宇都宮市瓦谷町	農業試験場本場	1	0
〃	栃木市大塚町	いちご研究所	1	0
〃	小山市下河原田	栃木県南公設卸売市場	1	0
合計	6	6	6	0

(2) ミカンコミバエ種群・ウリミバエの調査

フェロモン剤を取り付けたスタイナー型トラップを高さ約1mに設置し、4～11月にかけて調査した。ミカンコミバエ種群とウリミバエはフェロモン剤が同一であるため両種を兼ねた調査とした。

調査期間を通じて対象とする虫の誘殺はなかった。

表 ミカンコミバエ種群・ウリミバエの調査期間、調査場所及び誘引状況

設置期間	調査場所	トラップ設置場所	設置数	誘殺数
4～11月	宇都宮市瓦谷町	農業試験場本場	1	0

(3) コドリングアの調査

フェロモン剤を取り付けたジャクソン型トラップを高さ約1mに水平に設置し、4～11月にかけて調査したが、対象とする虫の誘殺はなかった。

表 コドリングアの調査期間、調査場所及び誘引状況

設置期間	調査場所	トラップ設置場所	設置数	誘殺数
4～11月	宇都宮市瓦谷町	農業試験場本場	1	0

(4) アリモドキゾウムシの調査

フェロモン剤を取り付けた粘着シートを粘着面が垂直になるように設置し、5～10月にかけて調査したが、対象とする虫の誘殺はなかった。

表 アリモドキゾウムシの調査期間、調査場所及び誘引状況

設置期間	調査場所	トラップ設置場所	設置数	誘殺数
5～10月	宇都宮市瓦谷町	農業試験場本場	1	0

(5) アフリカマイマイの調査

誘引剤を入れたペットボトルを地面に固定して設置し、6月と9月に調査したが、対象とする虫の誘殺はなかった。

表 アフリカマイマイの調査期間、調査場所及び誘引状況

設置期間	調査場所	トラップ設置場所	設置数	誘殺数
6・9月	宇都宮市竹林町	河内庁舎	1	0

2) りんご火傷病発生警戒調査

りんご及びなしの発生予察調査において、りんご火傷病を調査項目として加え、定期的に産地の発生警戒調査を行った。

表1 調査期間、調査場所及び誘引状況

調査期間	調査場所	調査樹種	調査地点数	発生葉率 (%)
5~8月	矢板市長井	りんご	2	0
〃	宇都宮市石那田町	りんご	2	0
〃	大田原市湯津上	なし	2	0
〃	那須烏山市中山	なし	1	0
〃	高根沢町大谷	なし	1	0
〃	市貝町続谷	なし	1	0
〃	芳賀町稲毛田	なし	2	0
〃	芳賀町上稲毛田	なし	1	0
〃	宇都宮市平出町	なし	1	0
〃	宇都宮市板戸町	なし	2	0
〃	鹿沼市栃窪	なし	1	0
〃	小山市荒井	なし	1	0
〃	小山市南飯田	なし	1	0
〃	佐野市下羽田町	なし	1	0
〃	佐野市村上町	なし	1	0
合計	14	-	20	0

3) ウメ輪紋ウイルス発生警戒調査

うめの苗木等栽培園地（小山市）において、6月に現地調査を実施した結果、発生は認められなかった。

8 国への調査報告関係

1) ツマジロクサヨトウ発生確認調査

令和元（2019）年7月、鹿児島県でツマジロクサヨトウの発生が初めて確認されたことを受け、ほ場見取り調査(7～11月)と、トラップ調査(9～11月)を行った。(別表参照)

結果、本県ではツマジロクサヨトウの発生は確認されなかった。

(別表) 月別調査ほ場数及び調査対象品目一覧

品目	調査月	7月	8月	9月	10月	11月
飼料用トウモロコシ	ほ場数	3	10	31	—	—
	市町	真岡市、大田原市、那須烏山市	宇都宮市、日光市(2)、真岡市、芳賀町、栃木市、高根沢町、大田原市、那須烏山市(2)	宇都宮市(3)、日光市(4)、益子町(2)、茂木町(4)、栃木市(2)、さくら市、塩谷町、高根沢町(3)、大田原市(4)、那須塩原市(2)、那須烏山市(4)、那珂川町		
飼料用イネ	ほ場数	3	3	4	5	—
	市町	芳賀町、大田原市、那須烏山市	芳賀町、大田原市、那須烏山市	芳賀町、大田原市(2)、那須烏山市	芳賀町、大田原市(2)、那須烏山市(2)	
イネ科飼料作物※1	ほ場数	3	—	—	—	—
	市町	真岡市、さくら市、大田原市				
水稻	ほ場数	5	5	—	—	—
	市町	宇都宮市、栃木市、小山市、大田原市、那須烏山市	宇都宮市、鹿沼市、小山市、高根沢町、大田原市			
スイートコーン	ほ場数	3	—	—	—	—
	市町	宇都宮市、下野市、大田原市				
その他(野菜類)※2	ほ場数	3	2	17	76	80
	市町	宇都宮市、鹿沼市、真岡市	真岡市、下野市	宇都宮市、鹿沼市、真岡市(2)、小山市(4)、下野市、野木町(4)、さくら市、大田原市、那珂川町、佐野市	宇都宮市(7)、上三川町(3)、鹿沼市(5)、真岡市(11)、芳賀町、栃木市(6)、小山市(11)、下野市(6)、壬生町(2)、野木町(5)、さくら市、塩谷町(2)、高根沢町、大田原市(7)、那珂川町、足利市(4)、佐野市(3)	宇都宮市(6)、上三川町(4)、鹿沼市(5)、真岡市(12)、芳賀町(2)、栃木市(6)、小山市(11)、下野市(4)、壬生町(2)、野木町(5)、さくら市(2)、塩谷町(2)、高根沢町、大田原市(6)、那珂川町(2)、足利市(6)、佐野市(4)
計	ほ場数	20	20	52	81	80

※1：イタリアンライグラス等

※2：夏秋なす、ねぎ、きゅうり、トマト、いちご、きく、キャベツ、レタス等

8 国への調査報告関係

2) 輸出植物検疫協議の迅速化事業平成29～30(2017～2018)年度及び我が国の輸出に有利な国際的検疫処理基準の確立、実証事業平成31(2019)年度 病害虫の発生状況の調査結果

平成29～31(2017～2019)年度において、農産物等の輸出相手国が侵入を警戒する病害虫の発生の有無を確認するため、調査を行った。基本調査では、発生予察の実施と公式な発生記録の有無を確認し、その結果を踏まえ、具体的サーベイランス実施を実施した。

(1) 平成29～30(2017～2018)年度の対象病害虫

①モモシンクイガ (2017年度のみ調査)

発生予察実施の有無および基本調査の結果：発生記録あり

(植物防疫年報(栃木県) フェロモントラップ調査結果 誘殺年1987年、1992年、1996年)

具体的サーベイランスの実施状況：なし

②モモノゴマダラノメイガ (2017年度のみ調査)

発生予察実施の有無および基本調査の結果：発生記録あり

(栃木県農業試験場病理昆虫研究室保管標本あり(宇都宮市1881年、1982年)、今市産蛾類図鑑掲載あり(今市市歴史民俗資料館1994年発行)、フェロモントラップ採取記録あり(宇都宮市2011年8月))

具体的サーベイランスの実施状況：なし

③ナシヒメシンクイ (2017年度のみ調査)

発生予察実施の有無および基本調査の結果：発生記録あり(発生予察調査継続中)

具体的サーベイランスの実施状況：なし

④ミカンバエ (2017～2018年度調査)

発生予察実施の有無および基本調査の結果：発生記録なし

具体的サーベイランスの実施状況：あり

- ・調査地点数：7地点、調査宿主作物名：うんしゅうみかん、ゆず
- ・発生の確認：0/7地点(目視・果実の切開調査)

⑤ミカンハモグリガ (2017年度のみ調査)

発生予察実施の有無および基本調査の結果：発生記録なし

具体的サーベイランスの実施状況：あり

- ・調査地点数：7地点、調査宿主作物名：うんしゅうみかん、ゆず
- ・発生の確認：7/7地点(目視調査)

⑥カンキツかいよう病 (2017～2018年度調査)

発生予察実施の有無および基本調査の結果：発生記録なし

具体的サーベイランスの実施状況：あり

- ・調査地点数：7地点、調査宿主作物名：うんしゅうみかん、ゆず
- ・発生の確認：0/7地点(目視調査)

(2) 平成30～31(2018～2019)年度の対象病害虫

⑦リンゴコシンクイ (2018～2019年度調査)

発生予察実施の有無および基本調査の結果：発生記録なし

具体的サーベイランスの実施状況：あり

- ・調査地点数：2地点、調査宿主作物名：りんご
- ・発生の確認：0 / 2地点 (フェロモントラップ調査、雄交尾器の確認)

⑧ナシマダラメイガ (2018～2019年度調査)

発生予察実施の有無および基本調査の結果：発生記録なし

具体的サーベイランスの実施状況：あり

- ・調査地点数：10地点、調査宿主作物名：なし
- ・発生の確認：1 / 10地点 (フェロモントラップ調査、雄交尾器の確認)

⑨ブドウホソハマキ (2018～2019年度調査)

発生予察実施の有無および基本調査の結果：発生記録なし

具体的サーベイランスの実施状況：あり

- ・調査地点数：4地点、調査宿主作物名：ぶどう
- ・現時点での発生の確認：0 / 4地点 (幼果の見とり調査)

⑩スモモヒメシンクイ (2018年度調査)

発生予察実施の有無および基本調査の結果：発生記録なし

具体的サーベイランスの実施状況：あり

- ・調査地点数：3地点、調査宿主作物名：りんご、すもも
- ・現時点での発生の確認：2 / 3地点 (フェロモントラップ調査、雄交尾器の確認)

⑪オウトウショウジョウバエ (2018年度調査)

発生予察実施の有無および基本調査の結果：発生記録あり

(平成21年度特殊報第3号：ぶどう、平成30年度特殊報第3号：いちご)

具体的サーベイランスの実施状況：あり

- ・調査地点数：3地点、調査宿主作物名：ブルーベリー
- ・現時点での発生の確認：1 / 3地点 (果実採取後飼育)

第3章 予察調査

1 病害虫発生予察調査における地域区分図

1) 市町と県地域区分図



2) 農業振興事務所担当地域区分図



2 予察調査ほ場及び乾式予察灯等の設置状況

1) 普通作物病虫害発生予察ほ場

(1) 水 稲

地域名	調査地点	作型	作付品種	
県北部	那須	那須町沼野井	早植	コシヒカリ
		那須塩原市埼玉	早植	コシヒカリ
		那須塩原市東赤田	早植	コシヒカリ
		大田原市戸野内	早植	コシヒカリ(直播)
		大田原市桧木沢	早植	コシヒカリ
		大田原市親園	早植	コシヒカリ
		大田原市蛭畑	早植	コシヒカリ
	塩谷 南那須	那珂川町小川	早植	コシヒカリ
		那須烏山市滝田	早植	コシヒカリ
		那須烏山市福岡	早植	コシヒカリ(直播)・コシヒカリ
		塩谷町玉生	早植	コシヒカリ・あさひの夢
		矢板市矢板	早植	コシヒカリ
		さくら市上河戸	早植	コシヒカリ
		さくら市蒲須坂	早植	コシヒカリ
高根沢町花岡	早植	なすひかり		
県中部	芳賀	茂木町飯	早植	あさひの夢
		市貝町市塙	早植	コシヒカリ
		益子町北中	早植	コシヒカリ・あさひの夢
		芳賀町祖母井	早植	コシヒカリ
		真岡市亀山	早植	コシヒカリ
		真岡市青田	早植	とちぎの星
	河内	宇都宮市逆面町	早植	コシヒカリ
		宇都宮市横山町	早植	コシヒカリ
		宇都宮市雀宮町	早植	コシヒカリ
		上三川町上三川	早植	コシヒカリ
	上都賀	日光市小林	早植	コシヒカリ
		日光市木和田島	早植	コシヒカリ
		鹿沼市酒野谷	早植	コシヒカリ
鹿沼市久野		早植	コシヒカリ	
県南部	下都賀	下野市小金井	早植・普通植	コシヒカリ・とちぎの星
		小山市小薬	早植	とちぎの星
		小山市石ノ上	早植	とちぎの星
		壬生町助谷	早植	コシヒカリ
		栃木市西方町本郷	早植	コシヒカリ
		栃木市惣社町	早植	あさひの夢
		栃木市大平町真弓	早植・普通植	コシヒカリ、あさひの夢
		栃木市藤岡町富吉	早植	コシヒカリ、あさひの夢
	安足	佐野市堀米町	早植	とちぎの星
		足利市県町	普通植	あさひの夢

(2) 麦 類

地域名		調査地点	作付品種	麦種
県北部	那須	大田原市南金丸	ニューサチホゴールドデン	二条大麦
		大田原市実取	ニューサチホゴールドデン	二条大麦
	塩谷 南那須	那須烏山市大桶	シュンライ	六条大麦
		塩谷町大久保	シュンライ	六条大麦
		さくら市松山新田	イワイノダイチ	小麦
		さくら市葛城	シュンライ	六条大麦
		高根沢町石末	ニューサチホゴールドデン	二条大麦
県中部	芳賀	芳賀町下高根沢	シュンライ	六条大麦
		芳賀町東水沼	シュンライ	六条大麦
		真岡市根本	ニューサチホゴールドデン	二条大麦
	河内	宇都宮市芦沼町	ゆめかおり	小麦
		宇都宮市平出町	ニューサチホゴールドデン	二条大麦
	上都賀	鹿沼市楡木	シュンライ	六条大麦
	県南部	下都賀	小山市卒島	ニューサチホゴールドデン
小山市小袋			イワイノダイチ	小麦
壬生町中泉			シュンライ	六条大麦
栃木市大塚町			ニューサチホゴールドデン	二条大麦
栃木市藤岡町蛭沼			さとのそら	小麦
安足		佐野市並木町	ニューサチホゴールドデン	二条大麦
		足利市 百頭町	ニューサチホゴールドデン	二条大麦

(3) 大 豆

地域名		調査地点	作付品種
県北部	那須	那須塩原市鍋掛	里のほほえみ
		大田原市南金丸	里のほほえみ
		大田原市実取	里のほほえみ
	塩谷 南那須	那須烏山市三箇	里のほほえみ
		塩谷町大宮	里のほほえみ
		矢板市安沢	里のほほえみ
		高根沢町大谷	里のほほえみ
県中部	芳賀	益子町生田目	里のほほえみ
		芳賀町下延生	里のほほえみ
	河内	宇都宮市長峰町	里のほほえみ
		宇都宮市平出町	里のほほえみ
	上都賀	日光市木和田島	里のほほえみ
県南部	下都賀	小山市福良	里のほほえみ
		小山市小袋	里のほほえみ
		栃木市寄居町	里のほほえみ

2)野菜病害虫発生予察ほ場

(1)いちご

地域名		調査地点	作付品種
県北部	那須	大田原黒羽向町	とちおとめ
		大田原市実取	とちおとめ
	塩谷 南那須	那珂川町馬頭北向田	とちおとめ
		さくら市富野岡	とちおとめ
		高根沢町大字石末	とちおとめ
	芳賀	真岡市田島	とちおとめ
		真岡市西沼	とちおとめ
		真岡市田島	とちおとめ
		真岡市物井	とちおとめ
		真岡市大根田	とちおとめ
		真岡市古山	とちおとめ
		真岡市砂ヶ原	とちおとめ
		真岡市長沼	とちおとめ
	河内	宇都宮市上小倉	とちおとめ・スカイベリー
		宇都宮市羽牛田	とちおとめ・スカイベリー
		上三川町上神主	とちおとめ
	上都賀	鹿沼市塩山町	とちおとめ
		鹿沼市磯町	とちおとめ
		鹿沼市野沢町	とちおとめ
	県南部	下都賀	下野市仁良川
小山市福良			とちおとめ・スカイベリー
小山市小葉			とちおとめ
壬生町七ツ石			とちおとめ
栃木市西方町元			とちおとめ
栃木市西方町本城			とちおとめ
栃木市国府町			とちおとめ
栃木市寄居町			とちおとめ
栃木市大平町牛久			とちおとめ
安足		佐野市小中町	とちおとめ
		佐野市小中町	とちおとめ・スカイベリー
		足利市山川町	とちおとめ・スカイベリー
		足利市県町	とちおとめ

(2) トマト

地域名		調査地点	作型
県北部	那須	大田原市湯津上蛭田	促成
		大田原市余瀬	夏秋
		大田原市美原	夏秋
	塩谷南那須	那珂川町和見	促成
県中部	芳賀	芳賀町稲毛田	促成長期どり
		真岡市西田井	促成長期どり
	河内	宇都宮市芦沼町	夏秋
		宇都宮市下金井町	夏秋
		宇都宮市鑑山町	促成長期どり
		上三川町上郷	促成長期どり
		上三川町東蓼沼	促成
	上都賀	鹿沼市上日向	促成
		鹿沼市上日向	促成
県南部	下都賀	野木町南赤塚	促成長期どり
		小山市小葉	促成長期どり
		小山市喜沢	夏秋
		小山市武井	夏秋
		壬生町安塚	促成
		栃木市田村町	促成長期どり
	安足	足利市野田町	促成
		足利市県町	促成

(3) きゅうり

地域名		調査地点	備考
県中部	河内	宇都宮市柳田町	
		宇都宮市柳田町	
県南部	下都賀	下野市上古山	
		下野市薬師寺	
		下野市田中	
		小山市東黒田	
		小山市卒島	
	安足	佐野市伊保内町	

(4) にら

地域名		調査地点	備考
県北部	那須	大田原市奥沢	
		大田原市蛭田	
	塩谷南那須	さくら市箱森新田	
県中部	芳賀	真岡市下籠谷	
		真岡市久下田	
	河内	上三川町上蒲生	
		上都賀	鹿沼市上日向
		鹿沼市塩山町	
県南部	下都賀	下野市磯部	
		栃木市惣社町	

(5)なす

地域名		調査地点	作型
県北部	那須	大田原市荒井	夏秋
	塩谷 南那須	那珂川町小口	夏秋
		さくら市下河戸	夏秋
県中部	芳賀	真岡市上大沼	夏秋
		真岡市中	夏秋
	河内	宇都宮市鑑山町	夏秋
	上都賀	鹿沼市上石川	夏秋
県南部	下都賀	下野市国分寺町	夏秋
	安足	佐野市小見町	夏秋

(6)ねぎ

地域名		調査地点	調査ほ場数
県北部	那須	大田原市上奥沢	2圃場
県中部	河内	宇都宮市白沢	2圃場
県南部	下都賀	下野市川名子	2圃場
		小山市延島	2圃場

(7)たまねぎ

地域名		調査地点	調査ほ場数
県中部	芳賀	真岡市長島	2圃場
	河内	宇都宮市下桑島	2圃場
		上三川町上三川	2圃場
県南部	下都賀	下野市薬師寺	2圃場

(8)きゃべつ

地域名		調査地点	調査ほ場数
県南部	下都賀	小山市田間	2圃場
		野木町川田	3圃場

(9)レタス(巡回調査地点)

地域名		調査地点	調査ほ場数
県南部	下都賀	小山市武井	2圃場
		野木町川田	2圃場

3)果樹、花き病害虫発生予察ほ場

(1)なし

地域名		調査地点	備考
県北部	那須	大田原市湯津上	
		大田原市湯津上	
	塩谷 南那須	那須烏山市中山	
		高根沢町大谷	
県中部	芳賀	市貝町続谷	
		芳賀町稲毛田	
		芳賀町稲毛田	
		芳賀町上稲毛田	
	河内	宇都宮市平出町	
		宇都宮市板戸町	
		宇都宮市板戸町	
上都賀	鹿沼市栃窪		
県南部	下都賀	小山市荒井	
		小山市南飯田	
	安足	佐野市下羽田町	
		佐野市村上町	

(2)ぶどう

地域名		調査地点	備考
県中部	河内	宇都宮市満美穴町	
県南部	下都賀	栃木市大平町富田	
		栃木市大平町西山田	
		栃木市岩舟町静	
		栃木市岩舟町曲ヶ島	

(3)りんご

地域名		調査地点	備考
県北部	塩谷 南那須	矢板市長井	
		矢板市長井	
県中部	河内	宇都宮市石那田町	
		宇都宮市石那田町	

(4)きく

地域名		調査地点	備考
県北部	那須	大田原市鹿畑	輪ぎく
		大田原市戸野内	スプレー菊
	塩谷 南那須	塩谷町大久保	スプレー菊
		塩谷町大宮	スプレー菊
県中部	芳賀	真岡市飯貝	スプレー菊
		真岡市飯貝	スプレー菊
		真岡市飯貝	スプレー菊

4) 乾式予察灯設置状況

(1) 白熱予察灯(60W白熱灯)

地域名		調査地点	調査期間
県北部	那須	大田原市戸野内	5月～9月
県中部	河内	宇都宮市瓦谷町(農試本場)	
県南部	下都賀	小山市小葉	
		栃木市大塚町(いちご研究所)	
(調査対象害虫) セジロウンカ、トビイロウンカ、ヒメトビウンカ、ツマグロヨコバイ、イナズマヨコバイ、ニカメイガ、コブノメイガ、イネミズゾウムシ、クモヘリカメムシ、ホソハリカメムシ、アカヒゲホソミドリカスミカメ、アカスジカスミカメ、コガネムシ類			

5)フェロモントラップ設置状況

(1)ニカメイガ(病害虫防除員(※)を含む)

地域名		調査地点	調査期間	対象作物
県中部	芳賀	市貝町赤羽※	5月～8月	稲
	河内	宇都宮市瓦谷町(農試本場)		
		上三川町大字梁※		
県南部	下都賀	下野市田中※		
		小山市小葉		
(設置方法) フェロモン剤を取り付けたジャクソン型トラップを高さ約1mに水平に設置				

(2)クモヘリカメムシ(病害虫防除員(※)を含む)

地域名		調査地点	調査期間	対象作物
県北	塩谷南那須	矢板市玉田※	6月～8月	稲
県中	芳賀	芳賀町稲毛田(富士山自然公園)	6月～9月	
		茂木町飯※	6月～8月	
	河内	宇都宮市瓦谷町(農試本場)	6月～9月	
(設置方法) トラップ粘着シート背面を合わせた、両面粘着シート両面にフェロモン剤を1つずつ付け、高さ約1mに粘着面が垂直になるように設置				

(3)ホソヘリカメムシ(病害虫防除員(※)を含む)

地域名		調査地点	調査期間	対象作物
県北部	那須	那須塩原市下中野※	5月～9月	大豆
	塩谷南那須	さくら市長久保※		
県中部	芳賀	芳賀町稲毛田(富士山自然公園)		
		益子町大字上山※		
	河内	宇都宮市瓦谷町(農試本場)		
	上都賀	日光市木和田島※		
県南部	下都賀	栃木市大塚町(いちご研究所)		
(設置方法) トラップ粘着シート背面を合わせた、両面粘着シート両面にフェロモン剤を1つずつ付け、高さ約1mに粘着面が垂直になるように設置				

(4) チャバネアオカメムシ(病害虫防除員(※)を含む)

地域名		調査地点	調査期間	対象作物	
県北部	那須	那須烏山市興野※	5月～9月	なし	
	塩谷南那須	矢板市平野※			
県中部	芳賀	芳賀町稲毛田(富士山自然公園)	4月～9月		
	河内	宇都宮市古賀志町※	5月～9月		
		宇都宮市瓦谷町(農試本場)	4月～9月		
県南部	安足	佐野市上羽田※	5月～9月		
(設置方法) フェロモン剤を取り付けたコガネコール・マダラコール用誘引器(黄色)を高さ約1mになるように設置					

(5) ハスモンヨトウ(病害虫防除員(※)を含む)

地域名		調査地点	調査期間	対象作物
県北部	那須	大田原市実取※	6月～10月	大豆、トマト、 きゅうり、なす、 いちご、はくさい、 きゃべつ、 だいこん、レタス、 さといも、ねぎ
	塩谷南那須	塩谷町大久保※		
県中部	芳賀	芳賀町下延生※	4月～11月	
	河内	宇都宮市瓦谷町(農試本場)		
	上都賀	鹿沼市佐目町※	6月～10月	
県南部	下都賀	栃木市大塚町(いちご研究所)	4月～11月	
		栃木市大平町※	6月～10月	
		小山市小葉※		
	野木町佐川野※			
安足	足利市瑞穂野町※			
(設置方法) フェロモン剤を取り付けたファネルトラップを高さ約1mに設置				

(6) オオタバコガ(病害虫防除員(※)を含む)

地域名		調査地点	調査期間	対象作物
県北部	那須	那須町稲沢※	6月～10月	トマト、なす、 レタス
	塩谷南那須	那珂川町久那瀬※		
県中部	芳賀	真岡市茅堤※	4月～11月	
	河内	宇都宮市瓦谷町(農試本場)		
		上三川町上三川※	6月～10月	
県南部	下都賀	壬生町壬生乙※	4月～11月	
		栃木市大塚町(いちご研究所)		
(設置方法) フェロモン剤を貼り付けたジャクソン型トラップを高さ約1mに水平に設置				

(7) コナガ

地域名		調査地点	調査期間	対象作物
県中部	河内	宇都宮市瓦谷町(農試本場)	4月～11月	はくさい、キャ ベツ、だいこん
県南部	下都賀	栃木市大塚町(いちご研究所)		
(設置方法) フェロモン剤を貼り付けたジャクソン型トラップを高さ約1mに水平に設置				

(8) ナシヒメシンクイ、リンゴコカクモンハマキ(病害虫防除員(※)を含む)

地域名		調査地点	調査期間	対象作物
県北部	塩谷南那須	高根沢町亀梨※(ナシヒメシンクイのみ)	4月～10月	なし、りんご
		那須烏山市滝	3月～10月 (リンゴコカクモンハマキは5～10月)	
県中部	河内	宇都宮市下田原町		
	芳賀	芳賀町稲毛田(富士山自然公園) (ナシヒメシンクイのみ)		
(設置方法) フェロモン剤を貼り付けたジャクソン型トラップをなし園内の高さ約1mに水平に設置				

6) 粘着板設置状況

(1) 黄色粘着板(有翅アブラムシ類)

地域名		調査地点	調査期間	対象作物
県北部	那須	大田原市戸野内	4月～10月	大豆、なし、りんご、トマト、きゅうり、なす、いちご、はくさい、きゃべつ、だいこん、レタス、さといも、たまねぎ、ねぎ、ゆうがお、きく
県中部	河内	宇都宮市瓦谷町(農試本場)	4月～11月	
県南部	下都賀	栃木市大塚町(いちご研究所)		
<p>(設置方法) 黄色粘着板を粘着面が高さ約1mになるように水平に設置</p>				

(2) 青色粘着板(アザミウマ類)

地域名		調査地点	調査期間	対象作物
県北部	那須	大田原市戸野内	4月～10月	ぶどう、きゅうり、なす、いちご、たまねぎ、ねぎ、きく
県中部	芳賀	真岡市飯貝		
	河内	宇都宮市瓦谷町(農試本場)	4月～11月	
県南部	下都賀	下野市上古山	4月～10月	
		栃木市大塚町(いちご研究所)	4月～11月	
<p>(設置方法) 青色粘着板を粘着面の中央が高さ約1mになるように垂直に設置</p>				

3 各種調査結果

1) 水稻病虫害調査結果

(1) 病虫害発生予察ほ場における病虫害の発生状況

調査日：(7月上旬) 6月25日～7月5日 (7月中旬) 7月8日～11日
(8月上旬) 8月1日～9日 (8月下旬～9月) 8月19日～9月4日

注) 平成23年10月1日の栃木市合併(旧西方町)により、24年から西方町データを県南部扱いとして平年値を再計算した。23年以前は上都賀郡のため県中部に含まれる。

① 葉いもち

(発生株率%)

時 期	地 域	R元年	平年	H30年	29年	28年	27年	26年	25年	24年	23年	22年	21年
7月上旬	平均	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	0.0	0.0	0.1	0.2
	北 部	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	中 部	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.7	0.0	0.0	0.0	0.2
7月中旬	平均	0.7	0.9	1.1	0.4	2.1	0.3	0.3	0.2	0.0	0.3	1.3	3.0
	北 部	1.0	0.3	0.0	0.2	1.4	0.7	0.1	0.0	0.0	0.0	0.3	0.5
	中 部	0.2	1.3	3.1	0.8	1.0	0.2	0.6	0.6	0.0	0.7	0.2	6.0
8月上旬	平均	2.3	2.1	0.5	0.7	5.3	4.3	1.7	1.4	0.1	0.4	0.3	5.9
	北 部	3.5	1.1	0.1	0.3	3.9	4.3	0.2	1.4	0.0	0.1	0.0	0.4
	中 部	1.8	1.2	1.1	1.6	0.6	0.2	0.6	2.0	0.0	0.5	0.4	4.7
	南 部	1.5	4.8	0.3	0.1	14.1	10.0	5.5	0.5	0.4	0.8	0.5	15.8

注) 平年値は過去10年間のデータの平均値

② 穂いもち (発病穂率)

(発生穂率%)

時 期	地 域	R元年	平年	H30年	29年	28年	27年	26年	25年	24年	23年	22年	21年
8月下旬 ～9月	平均	0.1	0.2	0.0	0.1	0.1	0.1	1.0	0.2	0.0	0.1	0.1	0.3
	北 部	0.1	0.5	0.0	0.1	0.3	0.3	3.6	0.5	0.0	0.0	0.0	0.1
	中 部	0.2	0.1	0.1	0.2	0.0	0.1	0.0	0.3	0.0	0.1	0.1	0.3
	南 部	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.3	0.1	0.1	0.0	0.1	0.0	0.6

注) 平年値は過去10年間のデータの平均値

③ 穂いもち (被害度)

時 期	地 域	R元年	平年	H30年	29年	28年	27年	26年	25年	24年	23年	22年	21年
8月下旬 ～9月	平均	0.04	0.11	0.02	0.08	0.06	0.09	0.55	0.10	0.00	0.03	0.03	0.14
	北 部	0.02	0.27	0.01	0.06	0.14	0.21	2.01	0.22	0.00	0.01	0.02	0.06
	中 部	0.09	0.06	0.03	0.15	0.00	0.05	0.02	0.13	0.00	0.05	0.05	0.12
	南 部	0.01	0.06	0.00	0.00	0.02	0.11	0.02	0.09	0.00	0.03	0.04	0.31

注) 平年値は過去10年間のデータの平均値

$$\text{被害度} = a + 0.66b + 0.26c$$

a : 穂首いもち発病穂率
b : 1/3以上の枝梗発病穂率
c : 1/3未満の枝梗発病穂率

④ 紋枯病

(発生株率%)

時 期	地 域	R元年	平年	H30年	29年	28年	27年	26年	25年	24年	23年	22年	21年
7月上旬	平均	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.1	0.2	0.2
	北 部	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	中 部	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.6	0.6
7月中旬	平均	0.6	0.7	0.7	0.1	0.9	1.0	0.3	0.3	0.0	0.4	1.7	1.3
	北 部	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	0.0	0.4	0.3	0.8
	中 部	0.9	0.6	0.3	0.0	0.4	0.0	0.4	0.1	0.0	0.1	1.9	2.7
8月上旬	平均	3.3	2.3	2.3	2.2	2.4	2.9	0.2	1.8	0.8	2.3	3.4	5.0
	北 部	1.3	1.3	0.4	0.6	0.8	2.6	0.2	1.1	1.6	1.5	1.0	3.2
	中 部	3.4	2.3	1.0	4.5	1.1	1.4	0.0	1.6	0.0	1.2	6.0	6.1
8月下旬 ～9月	平均	15.0	7.1	10.4	15.4	4.9	6.6	3.3	3.1	3.7	5.8	6.2	11.3
	北 部	14.1	7.3	5.3	15.3	7.8	8.3	3.2	1.2	6.3	7.3	6.9	11.7
	中 部	12.3	7.3	14.5	17.2	0.2	1.4	1.6	8.2	2.2	6.1	7.9	14.0
	南 部	20.2	7.2	12.2	12.9	7.0	11.5	5.7	4.7	4.4	3.3	3.3	6.8

注) 平年値は過去10年間のデータの平均値

⑤ 縞葉枯病

(発生株率%)

時 期	地 域	R元年	平年	H30年	29年	28年	27年	26年	25年	24年	23年	22年	21年
7月上旬	平均	0.1	0.5	0.3	0.4	0.5	0.8	1.5	1.1	0.2	0.1	0.1	0.1
	北 部	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.04	0.0	0.0	0.0	0.0
	中 部	0.0	0.4	0.2	0.3	0.5	1.0	1.4	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0
7月中旬	平均	1.2	1.0	0.7	1.4	0.8	1.7	1.7	1.8	0.9	0.6	0.1	0.3
	北 部	0.2	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0
	中 部	1.4	0.8	0.6	1.3	1.3	1.5	1.9	1.2	0.4	0.0	0.0	0.2
8月上旬	平均	2.2	2.2	2.6	1.7	1.6	2.5	4.5	5.6	1.5	2.0	0.3	0.2
	北 部	0.4	0.3	0.9	0.4	0.1	0.4	0.8	0.7	0.1	0.0	0.2	0.0
	中 部	2.0	2.0	3.1	2.5	1.1	2.4	4.0	5.4	1.1	0.3	0.1	0.1
8月下旬 ～9月	平均	4.1	3.2	2.9	2.2	3.1	3.3	5.2	7.5	3.4	3.0	0.4	0.9
	北 部	1.8	0.5	1.3	0.0	0.3	1.3	1.2	0.6	0.0	0.1	0.1	0.0
	中 部	4.1	2.6	2.8	1.4	2.9	3.5	7.7	4.8	1.6	0.8	0.2	0.3
	南 部	7.4	8.0	5.2	6.7	7.4	6.1	7.8	21.6	10.9	10.5	1.0	3.1

注) 平年値は過去10年間のデータの平均値

⑥ 稲こうじ病

(発生率%)

時 期	地 域	R元年	平年	H30年	29年	28年	27年	26年	25年	24年	23年	22年	21年
8月下旬 ～9月	平均	0.8	2.0	0.8	2.8	1.6	0.1	0.5	1.6	0.3	2.6	2.5	7.1
	北 部	0.7	3.0	0.4	2.1	1.6	0.1	0.6	4.6	0.0	5.0	2.6	13.2
	中 部	1.6	2.1	1.6	4.6	1.9	0.0	1.4	1.6	0.3	1.7	3.5	4.1
	南 部	0.0	0.7	0.3	1.2	1.3	0.2	0.2	0.3	0.0	0.3	1.1	1.7

注) 平年値は過去10年間のデータの平均値

⑦ イネドロオイムシ

(発生株率%)

時 期	地 域	R元年	平年	H30年	29年	28年	27年	26年	25年	24年	23年	22年	21年
7月上旬	平均	0.6	0.7	0.2	0.6	0.3	0.5	0.2	0.9	0.4	0.6	2.0	0.8
	北 部	0.4	0.9	0.1	0.2	0.2	0.5	0.0	1.0	0.4	1.0	3.5	1.8
	中 部	1.1	0.9	0.5	1.5	0.5	0.8	0.6	1.4	0.7	0.6	1.9	0.3
	南 部	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

注) 平年値は過去10年間のデータの平均値

⑧ イネツトムシ

(発生株率%)

時 期	地 域	R元年	平年	H30年	29年	28年	27年	26年	25年	24年	23年	22年	21年
7月上旬	平均	0.0	0.1	0.0	0.0	0.1	0.1	0.0	0.1	0.0	0.0	0.3	0.1
	北 部	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	0.0
	中 部	0.0	0.1	0.0	0.0	0.1	0.1	0.0	0.1	0.1	0.0	0.1	0.1
7月中旬	平均	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1
	北 部	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.2
	中 部	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0
8月上旬	平均	0.0	0.3	0.2	0.0	0.1	0.4	0.2	1.1	0.1	0.2	0.8	0.3
	北 部	0.0	0.1	0.4	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0
	中 部	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0
	南 部	0.0	1.2	0.0	0.0	0.4	1.5	0.5	4.3	0.2	0.9	2.8	1.1

注) 平年値は過去10年間データの平均値

⑨ 心枯茎

(発生株率%)

時 期	地 域	R元年	平年	H30年	29年	28年	27年	26年	25年	24年	23年	22年	21年
7月上旬	平均	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1	0.5	0.0	0.1	0.2	0.2
	北 部	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	0.1	0.1	0.3
	中 部	0.0	0.3	0.1	0.0	0.0	0.2	0.3	1.2	0.1	0.2	0.4	0.1
7月中旬	平均	0.0	0.2	0.1	0.1	0.1	0.0	0.3	0.5	0.1	0.4	0.3	0.4
	北 部	0.0	0.2	0.1	0.1	0.0	0.0	0.2	0.3	0.1	0.4	0.0	0.5
	中 部	0.0	0.5	0.2	0.3	0.2	0.0	0.5	1.1	0.2	0.8	0.9	0.5
8月上旬	平均	0.0	0.2	0.1	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1	0.4	0.5	0.1	0.2
	北 部	0.0	0.2	0.1	0.1	0.0	0.1	0.1	0.1	0.2	1.1	0.1	0.2
	中 部	0.1	0.2	0.1	0.0	0.0	0.0	0.2	0.2	0.8	0.2	0.1	0.3
	南 部	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2

注) 平年値は過去10年間のデータの平均値

⑩ 白穂

(発生穂率%)

時 期	地 域	R元年	平年	H30年	29年	28年	27年	26年	25年	24年	23年	22年	21年
8月下旬 ～9月	平 均	0.01	0.02	0.02	0.02	0.01	0.00	0.03	0.04	0.05	0.02	0.01	0.02
	北 部	0.02	0.03	0.01	0.03	0.02	0.02	0.05	0.04	0.01	0.02	0.02	0.03
	中 部	0.01	0.04	0.04	0.01	0.00	0.00	0.06	0.11	0.06	0.04	0.01	0.02
	南 部	0.01	0.01	0.02	0.00	0.00	0.00	0.01	0.00	0.01	0.01	0.00	0.01

(2) 育苗箱における病害の発生状況

(発生箱率%)

病害名	R元年	平年	H30年	29年	28年	27年	26年	25年	24年	23年	22年	21年
苗立枯病	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.02
ムレ苗	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.01	0.03
細菌病	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
ばか苗病	0.00	0.03	0.01	0.01	0.01	0.00	0.01	0.01	0.04	0.16	0.00	0.10

注1) 調査日：4月15、16日

注2) 平年値は過去10年間のデータの平均値

(3) 再生稲における黄萎病、縞葉枯病の発生状況

① 黄萎病 (再生稲)

(発生ほ場率%)

地域	R元年	平年	H30年	29年	28年	27年	26年	25年	24年	23年	22年	21年
平均	5.3	4.7	3.6	2.7	1.8	2.8	3.5	10.5	5.0	6.7	4.4	6.3
北部	11.1	4.1	4.8	2.3	4.1	4.0	2.0	4.8	2.8	5.0	4.9	6.5
中部	2.3	7.9	4.8	4.3	1.3	3.3	7.0	19.2	9.8	12.7	6.6	10.4
南部	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

注1) 調査日: 10月1~11日

注2) 平年値は過去10年間のデータの平均値

② 縞葉枯病 (再生稲)

(発生株率%)

地域	R元年	平年	H30年	29年	28年	27年	26年	25年	24年	23年	22年	21年
平均	5.4	7.6	5.6	7.5	9.8	6.9	13.5	14.1	6.4	6.6	2.6	2.9
北部	3.7	0.9	2.7	1.0	1.1	1.6	1.1	0.9	0.1	0.4	0.2	0.0
中部	5.9	5.3	5.4	5.2	11.4	4.8	8.7	11.8	3.4	2.1	0.1	0.5
南部	7.5	21.3	10.3	20.3	21.7	18.7	41.1	34.5	20.2	27.1	7.9	11.4

注1) 調査日: 10月1~11日

注2) 平年値は過去10年間のデータの平均値

葉いもち上位葉 (8月上旬)

穂いもち (8月下旬~9月上旬)



国土地理院承認平14総検第149号

程度	無	散見	少	中	多・甚
発生株率 (%)	0	1未満	1~20	21~40	41以上
記号	x	△	○	▲	●



国土地理院承認平14総検第149号

程度	無	散見	少	中	多・甚
発生株率 (%)	0	1未満	1~10	11~30	31以上
記号	x	△	○	▲	●

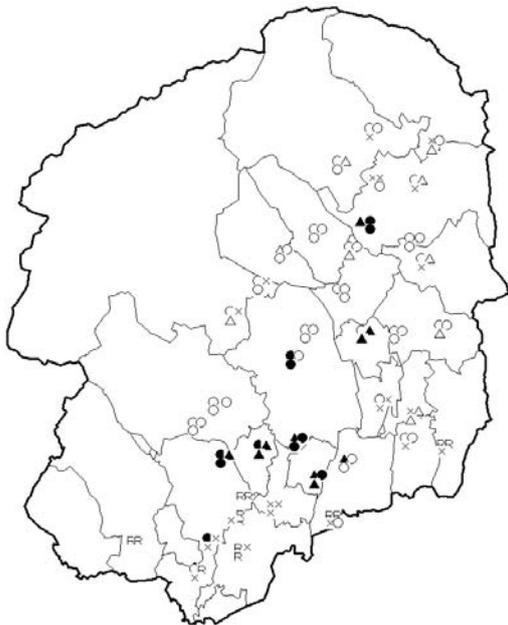
縞葉枯病（7月中旬）



縞葉枯病（8月下旬～9月上旬）



縞葉枯病（再生稲）



国土地理院承認平14総複第149号

程度	無	散見	少		中・多・甚
発生株率(%)	0	1未満	1~10	11~20	21以上
記号	x	△	○	▲	●

R：抵抗性品種の作付

(4) アメダスデータによるいもち病感染好適日の出現状況

●: 感染好適条件 ○^{1~4}: 準感染好適条件 - : 感染好適条件なし

● 感染好適条件: 湿潤時間中の平均気温が15~25℃であり、湿潤時間が湿潤時間中の平均気温ごとに必要な時間を満たし、当日を含めてその日以前5日間の日平均気温の平均値が20~25℃の範囲にある

○ 準感染好適条件: 好適条件に準ずる気象条件

準感染好適条件1: 湿潤時間は10時間以上であるが、前5日間の平均気温が20℃未満

準感染好適条件2: 湿潤時間は10時間以上であるが、前5日間の平均気温が25℃以上

準感染好適条件3: 湿潤時間は10時間以上であるが、湿潤時間中の平均気温が15~25℃の範囲外

準感染好適条件4: 湿潤時間が湿潤時間中の平均気温ごとに必要な時間数より短い

※上記条件であっても、3mを越える風や時間雨量3mmを越える雨があると湿潤時間の継続が打ち切りとなり、感染好適条件でなくなる場合がある

感染好適条件が出現した日から7~10日後に発病する可能性があります。また、好適日が連続する時は多発条件となるので注意が必要です。ほ場をよく観察し、いもち病の発生状況に応じて、適期に防除を行いましょう。

①BLASTAMIによる葉いもち感染好適日の判定結果 (令和元(2019)年度)

日付	那須	黒磯	大田原	塩谷	真岡	宇都宮	今市	鹿沼	小山	佐野
6/01	○3	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6/02	-	-	-	○4	-	-	○4	-	-	-
6/03	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6/04	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6/05	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6/06	-	-	-	-	-	○4	-	-	-	-
6/07	○4	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6/08	-	○4	○4	○4	○4	-	-	-	-	○4
6/09	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-
6/10	-	-	-	-	-	-	-	○1	●	-
6/11	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6/12	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6/13	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6/14	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6/15	○3	○4	○4	-	-	-	-	-	-	○1
6/16	-	-	-	-	○1	-	-	-	○1	-
6/17	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6/18	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6/19	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6/20	○4	-	-	○1	-	-	-	-	-	-
6/21	○1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6/22	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6/23	-	-	-	-	-	●	-	-	-	●
6/24	-	-	-	-	-	-	○4	-	●	-
6/25	-	○4	○4	○1	-	-	○4	●	●	●
6/26	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6/27	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6/28	○1	●	●	●	●	-	-	●	●	●
6/29	○1	●	-	●	-	-	●	-	●	-
6/30	○4	●	●	●	●	●	●	●	●	●
7/01	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7/02	○1	●	-	-	-	-	●	-	-	-
7/03	-	-	-	-	●	-	-	-	-	-
7/04	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-
7/05	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7/06	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7/07	-	-	-	-	-	-	○4	-	-	-
7/08	-	-	-	-	-	-	○1	-	-	-
7/09	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7/10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7/11	○3	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7/12	○3	○1	○1	-	○1	○4	○4	○1	●	●
7/13	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

7/14	—	○4	—	—	●	●	—	—	●	●
7/15	○4	○4	●	○1	●	—	○1	—	●	—
7/16	—	—	●	○1	—	●	○1	●	—	●
7/17	○1	●	●	●	●	●	—	—	—	—
7/18	—	●	—	—	—	—	—	—	—	—
7/19	—	—	—	—	●	—	—	●	●	●
7/20	—	—	●	—	—	—	●	—	—	—
7/21	—	—	—	—	—	—	—	—	●	—
7/22	●	●	●	●	—	—	●	○4	○2	—
7/23	—	—	—	—	—	—	—	—	●	○2
7/24	—	●	—	●	●	—	—	—	—	—
7/25	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
7/26	●	—	—	—	—	—	●	—	—	—
7/27	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
7/28	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
7/29	—	—	—	—	—	—	—	○3	—	—
7/30	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
7/31	—	—	—	—	—	—	○2	—	—	—
8/01	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
8/02	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
8/03	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
8/04	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
8/05	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
8/06	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
8/07	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
8/08	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
8/09	—	—	—	—	—	—	○2	—	—	—
8/10	—	—	—	—	○3	—	—	—	—	○3
8/11	—	—	○2	—	—	—	—	—	—	○3
8/12	●	—	—	—	—	—	—	—	—	—
8/13	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
8/14	●	○3	—	—	—	—	—	—	—	—
8/15	—	—	—	○3	—	—	—	—	—	—
8/16	—	—	—	—	○3	—	—	—	—	—
8/17	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
8/18	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
8/19	—	—	—	○2	—	—	○2	—	—	—
8/20	—	○2	○2	○2	○2	—	—	—	—	—
8/21	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
8/22	—	●	—	—	—	—	—	—	—	○2
8/23	○4	—	—	●	○2	—	—	—	○2	○2
8/24	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
8/25	—	—	—	—	—	—	—	●	—	○2
8/26	—	●	—	—	—	—	—	—	—	—
8/27	—	●	—	—	—	—	—	—	—	—
8/28	—	●	●	●	●	●	—	—	○2	○2
8/29	—	—	—	●	—	—	○4	—	—	—
8/30	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
8/31	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○2

出典 一般社団法人 日本植物防疫協会

② BLASTAMによる葉いもち感染好適日の年次別発生状況（6月～8月）

年度	那須	黒磯	大田原	塩谷	真岡	宇都宮	今市	鹿沼	小山	佐野
R元(2019)	4	12	8	9	9	6	6	6	14	8
平年値	7.4	7.9	6.8	9.2	6.6	2.4	8.6	7.9	4.8	5.6
H30(2018)	5	2	3	5	2	2	6	5	2	4
H29(2017)	13	15	8	10	5	4	18	5	2	4
H28(2016)	9	8	8	11	8	2	9	13	4	6
H27(2015)	8	11	10	11	11	3	8	10	10	9
H26(2014)	9	11	11	13	9	4	6	11	4	6
H25(2013)	6	9	6	8	5	5	9	12	3	9
H24(2012)	1	4	3	5	3	1	3	1	5	2
H23(2011)	2	7	4	5	4	0	9	7	3	5
H22(2010)	12	5	7	13	11	2	9	7	5	7
H21(2009)	9	7	8	11	8	1	9	8	10	4

注) 平年値は過去10年間のデータの平均値

(5) ウンカ類、ヨコバイ類の越冬前密度

	ウンカ類 幼虫	ヒメトビウ ンカ成虫	その他ウン カ類成虫	ヨコバイ類 幼虫	ツマガロヨ コバイ成虫	イナズマヨ コバイ成虫	その他のヨ コバイ類成 虫	備考	
発生ほ場数	20	2	0	12	3	0	17	令和元(2019)年11月15日~21日調査 総調査ほ場数: 21ほ場	
ほ場率	本年平均値	95.2	9.5	0.0	57.1	14.3	0.0		81.0
	平年値	88.0	7.7	3.6	68.3	31.5	3.9	58.3	
頭数合計	723	6	0	357	30	0	216	調査方法: 背負型動力機を使用した吹き 出し法で0.3m×11mを吹き出しすくい取り 調査した。 ※頭数合計は10㎡あたりの頭数に換算値 (×3)。 ※密度=頭数/10㎡ 平年値はH21~30年の平均	
密 度	本年平均値	34.4	0.3	0.0	17.0	1.4	0.0		10.3
	平年値	66.6	0.4	0.3	49.2	2.8	0.2		11.7
概 評	平年並	平年並	少	平年並	やや少	少	平年並		

発生ほ場率の推移

単位: %

	ウンカ類 幼虫	ヒメトビウ ンカ成虫	その他ウン カ類成虫	ヨコバイ類 幼虫	ツマガロヨ コバイ成虫	イナズマヨ コバイ成虫	その他のヨ コバイ類成 虫	備考 (総調査ほ場数)
H30	90.5	52.4	9.5	76.2	33.3	0.0	76.2	21
H29	76.2	4.8	0.0	47.6	9.5	0.0	38.1	21
H28	100.0	4.8	4.8	47.6	28.6	0.0	76.2	21
H27	100.0	4.8	4.8	57.1	19.0	4.8	71.4	21
H26	75.0	5.0	0.0	85.0	50.0	0.0	70.0	20
H25	85.0	0.0	0.0	75.0	30.0	0.0	25.0	20
H24	87.5	0.0	0.0	56.3	25.0	6.3	68.8	16
H23	88.2	0.0	0.0	88.2	47.1	11.8	41.2	17
H22	77.8	5.6	5.6	77.8	22.2	5.6	44.4	18
H21	100.0	0.0	11.1	72.2	50.0	11.1	72.2	18

越冬密度の推移

単位: 10㎡当たりの頭数

	ウンカ類 幼虫	ヒメトビウ ンカ成虫	その他ウン カ類成虫	ヨコバイ類 幼虫	ツマガロヨ コバイ成虫	イナズマヨ コバイ成虫	その他のヨ コバイ類成 虫	備考 (調査日の平均)
H30	43.0	3.0	0.7	68.3	3.0	0.0	43.4	11/17
H29	12.0	0.1	0.0	5.1	0.3	0.0	2.6	11/18
H28	163.6	0.1	0.1	19.4	2.0	0.0	26.0	11/19
H27	99.3	0.1	0.4	86.7	4.6	0.3	9.4	11/21
H26	123.6	0.2	0.0	126.6	4.8	0.0	13.8	11/25
H25	37.4	0.0	0.0	24.8	1.8	0.0	2.1	11/25
H24	60.6	0.0	0.0	52.9	1.7	0.4	8.1	11/26
H23	33.0	0.0	0.0	34.2	2.8	0.7	3.0	11/26
H22	62.2	0.2	0.2	21.3	0.8	0.3	2.5	11/24
H21	31.5	0.0	1.5	52.5	6.2	0.7	6.2	11/18

(6) 大麦におけるヒメトビウンカ生息密度

	ウンカ類 幼虫	ヒメトビウ ンカ短翅成 虫	ヒメトビウ ンカ長翅成 虫♀	ヒメトビウ ンカ長翅成 虫♂	ヒメトビウ ンカ成虫計	ヒメトビウ ンカ計	備考	
発生ほ場数(か所)	19	0	1	3	4	19	令和元(2019)年5月10日～23日調査	
ほ場率	本年平均値	100.0	0.0	5.3	15.8	21.1	100.0	総調査ほ場数: 19ほ場 調査方法: 背負型動力機を使用した吹き出し法で0.3m ×11mを吹き出しすくい取り調査した。 ※頭数合計は10㎡あたりの頭数に換算値(×3)。 発生密度は麦上部、下部の合計値(頭/10㎡) 平年値はH26～30年の平均
	平年値	100.0	18.1	28.4	17.4	42.1	100.0	
発生頭数(頭)	3426	0	3	12	15	3441		
密 度	本年平均値	180.3	0.0	0.2	0.6	0.8	181.1	
	平年値	231.2	1.1	2.6	2.4	6.2	237.4	
概 評	平年並	少	少	平年並	やや少	平年並		

発生ほ場率の推移

単位: %

	ウンカ類 幼虫	ヒメトビウ ンカ短翅成 虫	ヒメトビウ ンカ長翅成 虫♀	ヒメトビウ ンカ長翅成 虫♂	ヒメトビウ ンカ成虫計	ヒメトビウ ンカ計	備考(調査日の平均)
H30	100.0	0.0	21.1	10.5	26.3	100.0	19
H29	100.0	10.5	5.3	0.0	10.5	100.0	19
H28	100.0	10.5	26.3	31.6	36.8	100.0	19
H27	100.0	16.7	77.8	38.9	77.8	100.0	18
H26	100.0	52.9	11.8	5.9	58.8	100.0	17

第一世代密度の推移

単位: 10㎡当たりの頭数

	ウンカ類 幼虫	ヒメトビウ ンカ短翅成 虫	ヒメトビウ ンカ長翅成 虫♀	ヒメトビウ ンカ長翅成 虫♂	ヒメトビウ ンカ成虫計	ヒメトビウ ンカ計	備考(調査日の平均)
H30	76.3	0.0	0.6	0.5	1.1	77.4	5/18
H29	212.1	1.3	0.2	0.0	1.4	213.5	5/19
H28	256.3	0.5	1.7	3.2	5.4	261.6	5/20
H27	255.0	0.8	10.2	7.3	18.3	273.3	5/22
H26	356.5	3.2	0.5	0.9	4.6	361.1	5/20

(7)ヒメトビウンカの縞葉枯ウイルス保毒虫率の経年変化

第一世代幼虫

(単位:%)

年度		H29	H30	R元
地点名		2017	2018	2019
県北部	大田原市親園	4.2	2.1	8.3
	大田原市蛭畑	0.0	3.1	1.0
	さくら市松山新田	3.1	6.3	5.2
	高根沢町花園	2.1	2.1	2.1
県中部	真岡市青田	10.4	15.6	10.4
	宇都宮市横山	6.3	5.2	10.4
	宇都宮市雀宮	6.3	10.4	9.4
	上三川町上三川	6.3	12.5	13.5
	鹿沼市酒野谷	3.1	7.3	7.3
県南部	下野市小金井	4.2	4.2	3.1
	下野市絹板	11.5	21.9	5.2
	小山市小葉	11.5	5.2	7.3
	小山市石ノ上	13.5	10.4	11.5
	壬生町助谷	8.3	3.1	7.3
	栃木市惣社	2.1	3.1	4.2
	栃木市大平町真弓	9.4	2.1	5.2
	栃木市藤岡町富吉	2.1	3.1	4.2
	佐野市堀米	8.3	8.3	5.2
	足利市上洪垂	6.3	1.0	2.1
	県北部平均	2.3	3.4	4.2
県中部平均	6.5	10.2	10.2	
県南部平均	7.7	6.3	5.5	
県平均	6.3	6.7	6.5	

注:検定サンプルは、令和元(2019)年5月10~27日に、麦類ほ場から採集したヒメトビウンカ第一世代幼虫を用いた。

検定方法:簡易ELISA法(柴ら(2013))

検定数:96頭/1地点

越冬世代幼虫

(単位:%)

年度		H29	H30	R元
地点名		2017	2018	2019
県北部	大田原市戸野内	1.0 (96)	1.0 (96)	5.3 (38)
	大田原市蛭畑	3.1 (96)	1.0 (96)	3.9 (51)
	大田原市親園	5.2 (96)	4.2 (96)	3.3 (61)
	那須烏山市滝田	5.2 (96)	3.1 (96)	4.3 (46)
	さくら市蒲須坂	4.2 (96)	3.1 (96)	8.7 (46)
県中部	高根沢町花園	5.2 (96)	6.3 (96)	4.3 (47)
	真岡市青田	8.3 (96)	6.3 (96)	16.7 (48)
	宇都宮市横山	3.1 (96)	9.4 (96)	7.1 (28)
	宇都宮市雀宮	7.3 (96)	9.8 (92)	6.3 (32)
	上三川町上三川	7.3 (96)	13.5 (96)	6.5 (62)
県南部	鹿沼市酒野谷	6.3 (96)	4.2 (96)	0.0 (27)
	下野市絹板	13.5 (96)	13.5 (96)	13.3 (60)
	下野市小金井	11.5 (96)	5.2 (96)	9.4 (53)
	小山市小葉	1.0 (96)	8.3 (96)	4.2 (96)
	小山市石ノ上	8.3 (96)	10.4 (96)	13.8 (80)
	壬生町助谷	3.1 (96)	4.2 (96)	5.4 (74)
	栃木市惣社	4.2 (96)	5.2 (96)	4.2 (96)
	栃木市大平町真弓	0.0 (96)	1.0 (96)	9.4 (96)
	栃木市藤岡町富吉	9.4 (96)	5.4 (92)	0.0 (57)
	佐野市堀米	6.3 (96)	10.4 (96)	12.5 (96)
	足利市上洪垂	2.1 (96)	3.1 (96)	3.1 (96)
県北部平均	4.0	3.1	5.0	
県中部平均	6.5	8.6	7.3	
県南部平均	5.9	6.7	7.5	
県平均	5.5	6.1	6.7	

注:検定サンプルは、令和元(2019)年11月中旬~12月上旬に、水田畦畔や休耕田のイネ科雑草等から採取したヒメトビウンカ越冬世代幼虫を用いた。

()は検定頭数(頭)

検定方法:簡易ELISA法(柴ら(2013)) 検定数:27~96頭/1地点

(8) イネミズゾウムシの発生状況

① 越冬成虫密度

		平均	宇都宮市瓦谷町平均	さくら市蒲須坂平均	備考
密度	成虫発生頭数	4.5	0.0	9.0	平成31(2019)年2月25日採集
	本年平均値	1.1	0.0	2.3	総採取地点数:10か所
	平年値	0.1	0.1	0.1	※密度=頭数/0.1㎡ 平年値はH21~30年の平均
概 評		やや多	少	多	

発生密度の推移

単位:0.1㎡当たりのイネミズゾウムシ成虫数

	平均	宇都宮市瓦谷町平均	さくら市蒲須坂平均	各調査地点数(宇都宮市瓦谷町・さくら市蒲須坂)
H30.2	0.1	0.0	0.3	6・4
H29.2	0.1	0.0	0.3	6・4
H28.2	0.1	0.2	0.0	6・4
H27.2	0.0	0.0	0.0	6・4
H26.2	0.2	0.3	0.0	6・4
H25.2	0.3	0.5	0.0	6・4
H24.2	0.1	0.2	0.0	6・4
H23.2	0.1	0.0	0.3	6・4
H22.2	0.0	0.0	0.0	3・2
H21.2	0.0	0.0	0.0	13・4

採集日:平成31年2月25日

調査方法:0.1㎡(すくい取り用の枠を使用)内の表土1~2cmを採取し、イネミズゾウムシ成虫数を調査した。

調査地点:宇都宮市瓦谷町 60W予察灯周辺、さくら市蒲須坂 水稲病害虫発生予察ほ場の畦畔

② 本田発生状況

		被害株数	成虫数	備考
密度	発生数	12	9	令和元(2019)年5月22~27日調査
	本年平均値	2.0	1.5	総調査ほ場数:12か所
	平年値	23.0	3.0	総調査株数:600株 調査株数:1ほ場50株 ※密度=株・頭数/100株 平年値はH21~30年の平均
概 評		少	やや少	

発生密度の推移

単位:100株当たりの株数・頭数

	発生株(株数)	成虫数	備考(総調査ほ場数・総調査株数)
H30.5	2.5	1.2	12・600
H29.5	12.5	1.7	12・600
H28.5	35.5	6.2	12・600
H27.5	29.8	4.7	12・600
H26.5	17.0	3.5	12・600
H25.5	49.0	5.7	12・600
H24.5	39.0	2.5	12・600
H23.5	5.0	0.6	8・400
H22.5	28.4	3.4	8・400
H21.5	11.6	0.8	16・800

調査方法:畦畔から3~4m内側の50株における被害株率と、葉上に生育するイネミズゾウムシの成虫数を調査した。

調査地点:那須塩原市埼玉、大田原市親園、塩谷町玉生、さくら市蒲須坂、芳賀町祖母井、真岡市亀山の水稲病害虫発生予察ほ場(各地点2ほ場)

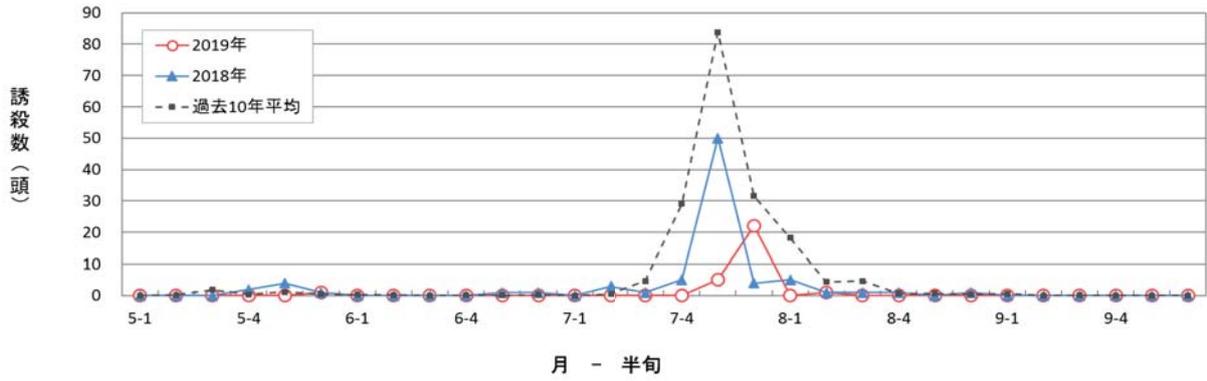
③ 誘殺数

(60W予察灯)

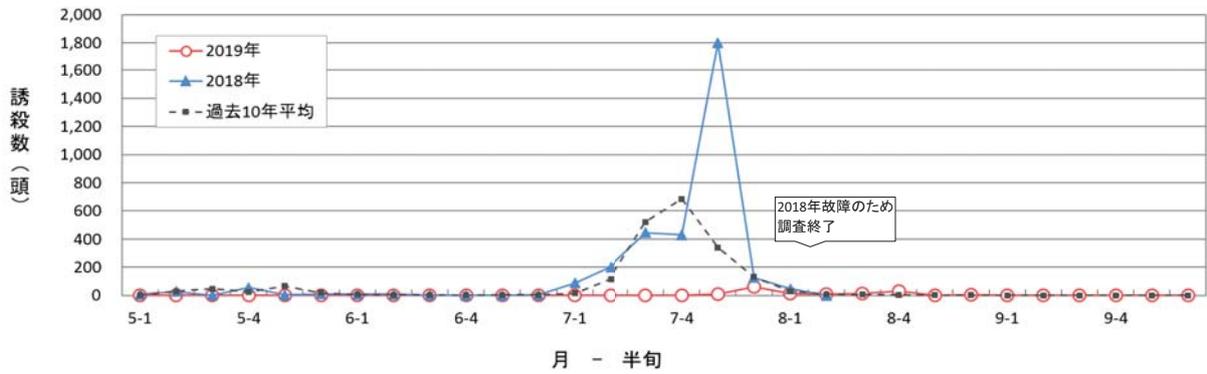
月一 半旬	大田原市			宇都宮市瓦谷町			小山市			栃木市大塚町		
	R元 (2019)年	過去 10年 平均	H30 (2018)年									
5-1	0	0	0	1	2	8	0	0	0	0	0	0
5-2	0	0	0	0	30	27	0	0	0	0	0	0
5-3	0	2	0	0	48	1	0	0	0	0	1	1
5-4	0	0	2	0	25	55	0	0	0	0	1	2
5-5	0	1	4	2	67	4	0	0	0	0	1	3
5-6	1	1	1	3	20	10	0	0	0	1	0	0
6-1	0	0	0	1	6	8	1	0	1	0	0	0
6-2	0	0	0	0	5	9	0	0	0	0	0	0
6-3	0	0	0	0	5	1	0	0	0	0	0	0
6-4	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0
6-5	0	0	1	1	4	0	0	0	0	0	0	0
6-6	0	0	1	0	5	4	0	0	0	0	0	0
7-1	0	0	0	0	14	88	0	0	0	0	0	0
7-2	0	1	3	0	117	202	0	0	0	0	0	1
7-3	0	5	1	0	521	445	0	4	0	0	0	3
7-4	0	29	5	0	685	430	0	13	1	0	3	15
7-5	5	84	50	8	341	1,799	0	8	6	0	4	9
7-6	22	32	4	62	130	128	0	1	0	4	3	14
8-1	0	18	5	12	30	48	0	1	0	1	1	2
8-2	1	4	1	10	8	※	0	0	0	1	0	1
8-3	0	5	1	15	6	-	0	0	0	0	0	0
8-4	0	1	1	29	3	-	0	0	0	0	0	0
8-5	0	1	0	2	2	-	0	0	0	0	1	7
8-6	0	0	1	4	2	-	0	0	0	0	0	0
9-1	0	1	0	0	1	-	0	0	0	0	0	0
9-2	0	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0
9-3	0	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0
9-4	0	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0
9-5	0	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0
9-6	0	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0
5月計	1	4	7	6	191	105	0	1	0	1	3	6
6月計	0	1	2	2	27	22	1	0	1	0	1	0
7月計	27	150	63	70	1,809	3,092	0	26	7	4	10	42
8月計	1	29	9	72	50	48	0	2	0	2	2	10
9月計	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
合計	29	185	81	150	2,078	3,267	1	29	8	7	16	58

※) H30(2018)年宇都宮市瓦谷町予察灯は、故障の為8月第1半旬で調査終了とした。

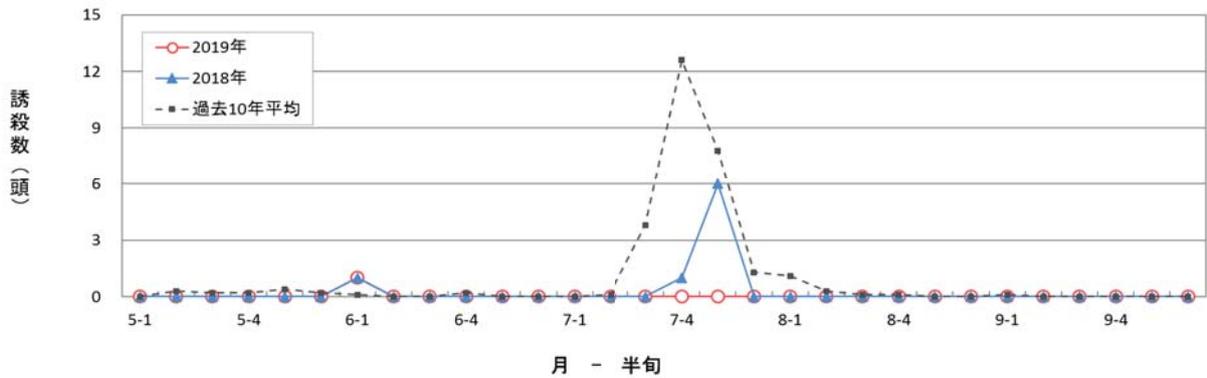
イネミズゾウムシの60W予察灯による誘殺数 (大田原市)



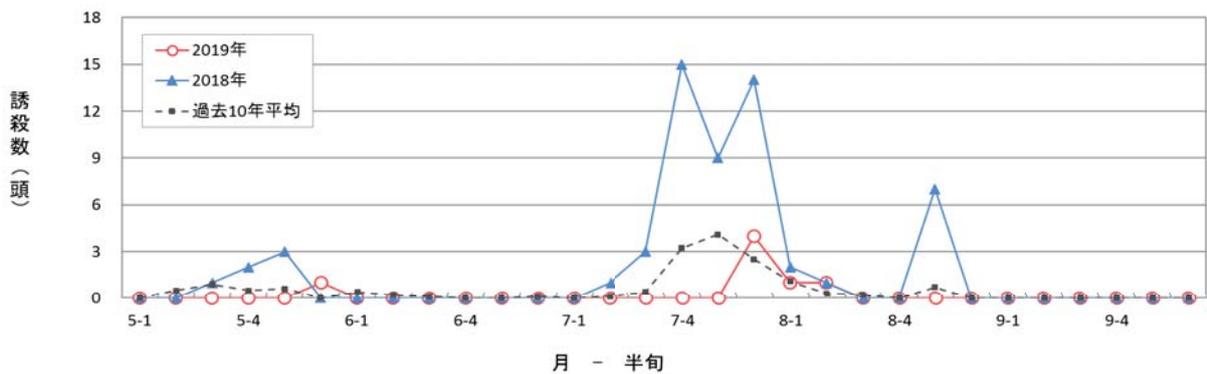
イネミズゾウムシの60W予察灯による誘殺数 (宇都宮市瓦谷町)



イネミズゾウムシの60W予察灯による誘殺数 (小山市)



イネミズゾウムシの60W予察灯による誘殺数 (栃木市大塚町)



(9) イネドロオウムシの発生状況

① 本田発生状況

		発生株 (株数)	成虫数	卵塊数	幼虫数	備考
発生ほ場数		3	3	2	0	令和元(2019)年5月22~27日採取 総調査地点数: 6 (1地点2ほ場調査, 計12ほ場) 総調査株数: 600株 調査株数: 1ほ場50株 平年値は過去5年の平均値 ※密度=株・頭/50株
ほ場率	本年平均値	25.0	25.0	16.7	0.0	
	平年値	25.0	23.8	13.1	13.1	
発生数(株・頭)		5.0	1.0	5.0	0.0	
密度	本年平均値	0.4	0.1	0.4	0.0	
	平年値	1.3	0.8	0.8	2.2	
概 評		やや少	少	やや少	少	

調査方法: 畦畔から3~4m内側(10条付近)の50株における被害株率と、葉上に生育するイネドロオウムシの虫数を調査した。
調査地点: 那須塩原市埼玉、大田原市親園、塩谷町玉生、さくら市蒲須坂、芳賀町祖母井、真岡市亀山の水稲病害虫発生予察ほ場(各地点2ほ場)

(10) ニカメイガの発生状況

① 越冬幼虫密度

		幼虫寄生株	幼虫寄生茎	備考
発生ほ場数(か所)		1	-	平成31(2019)年2月8・15日採集 総調査ほ場数: 9か所 総調査株数: 450株 総調査茎数: 12,800茎
ほ場率	本年平均値	11.1	-	
	平年値	32.8	-	
発生数(株・本)		4	4	
発生率	本年平均値	0.9	0.0	(1ほ場稲株50株を採取し、ニカメイガ幼虫数を調査)
	平年値	1.7	0.1	
概 評		やや少	-	平年値はH21~30年の平均

発生ほ場率の推移

	発生ほ場率 (%)	発生ほ場数	備考 (総調査ほ場数)
H30. 2	12.5	1	8
H29. 2	12.5	1	8
H28. 2	25.0	2	8
H27. 2	12.5	1	8
H26. 2	37.5	3	8
H25. 2	37.5	3	8
H24. 2	37.5	3	8
H23. 2	55.6	5	9
H22. 2	66.7	6	9
H21. 2	30.8	4	13

発生株率・茎率の推移

	幼虫寄生株 (%)	幼虫寄生茎 (%)	備考 (総調査株数)
H30. 2	0.3	0.0	400
H29. 2	0.3	0.0	400
H28. 2	1.8	0.1	400
H27. 2	0.5	0.0	400
H26. 2	1.3	0.1	400
H25. 2	3.0	0.2	400
H24. 2	0.8	0.0	400
H23. 2	3.1	0.2	450
H22. 2	4.7	0.3	447
H21. 2	1.2	0.1	650

調査方法: 稲株を採集し、茎内に寄生しているニカメイガ幼虫数を調査した。

ニカメイガ

② 誘殺数

(60W予察灯)

月一 半旬	大田原市			宇都宮市瓦谷町			小山市			栃木市大塚町		
	R元 (2019)年	過去 10年 平均	H30 (2018)年									
5-1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5-2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5-3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5-4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5-5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
5-6	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0
6-1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0
6-2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6-3	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2	0	0
6-4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
6-5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6-6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7-1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7-2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
7-3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7-4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7-5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7-6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8-1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8-2	0	0	0	0	0	-※	0	0	0	0	0	0
8-3	0	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0
8-4	0	1	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0
8-5	0	2	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0
8-6	0	1	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0
9-1	0	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0
9-2	0	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0
9-3	0	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0
9-4	0	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0
9-5	0	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0
9-6	0	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0
5月計	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	1
6月計	0	0	0	1	1	1	0	0	0	4	0	0
7月計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
8月計	0	5	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
9月計	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	0	7	0	2	2	1	0	0	0	5	1	2

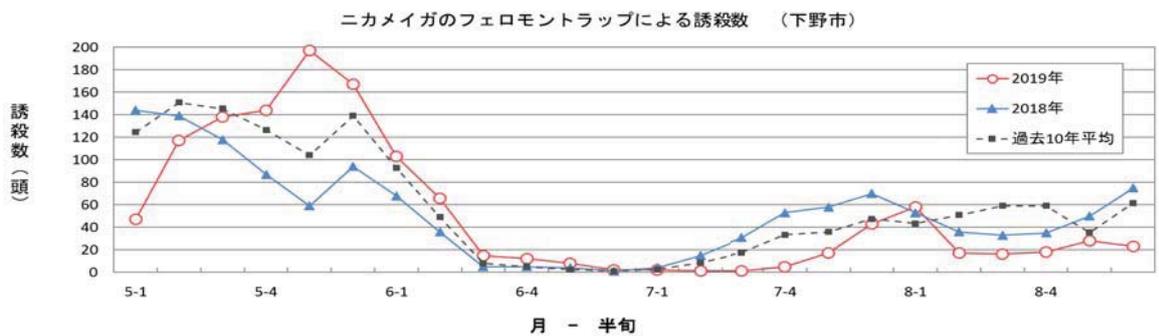
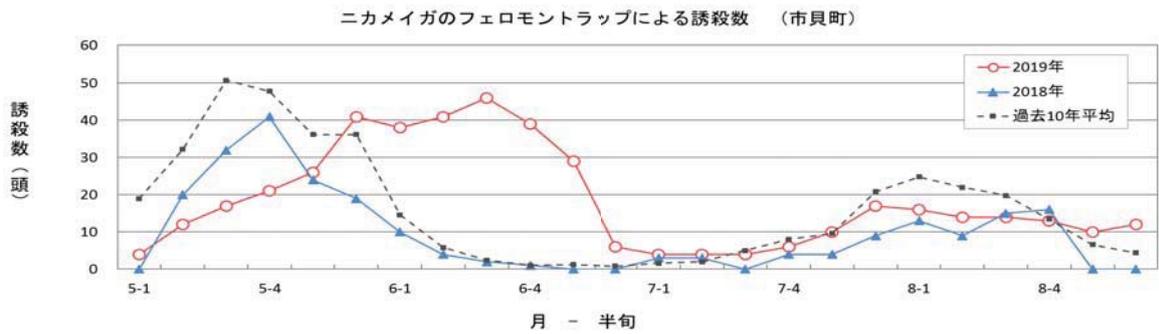
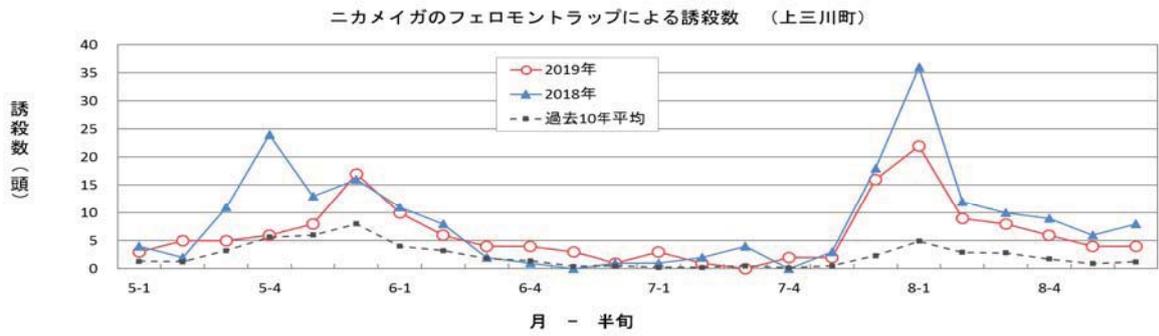
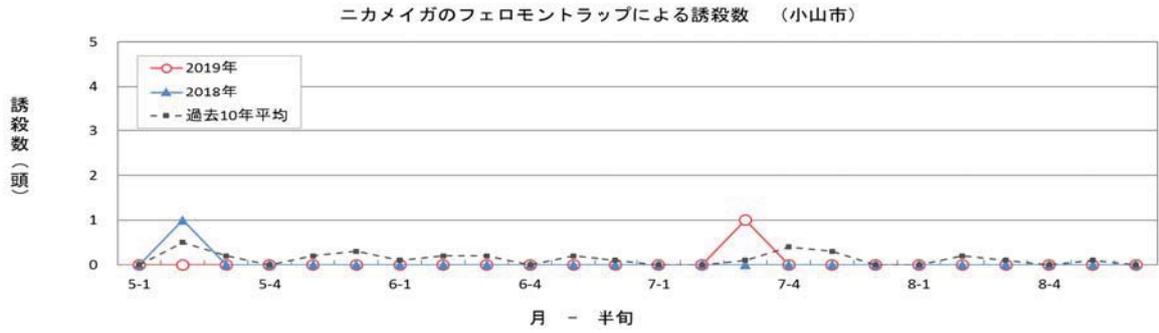
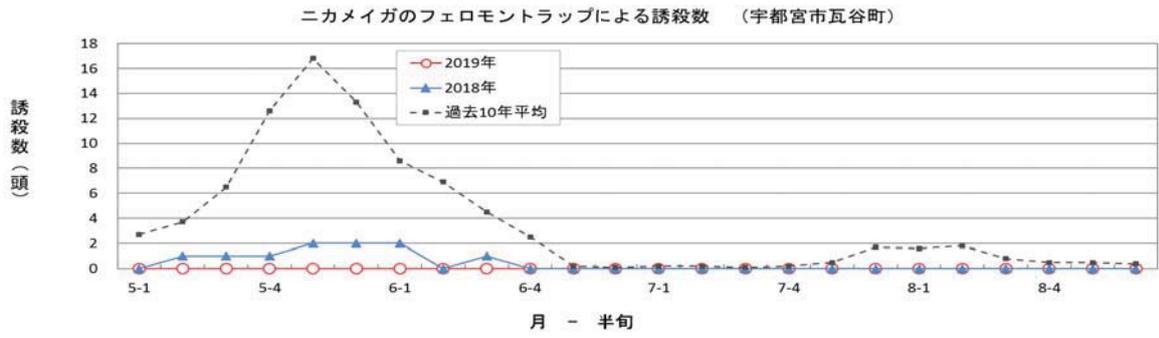
※) 四捨五入の関係で合計が合わない場合がある。

※) 宇都宮市瓦谷町予察灯は、故障の為8月第1半旬で調査終了とした。

(フェロモントラップ)

月一 半旬	宇都宮市瓦谷町			上三川町※			小山市			市貝町※			下野市※		
	R元 (2019) 年	過去 10年 平均	H30 (2018) 年												
5-1	0	3	0	3	1	4	0	0	0	4	19	0	47	125	144
5-2	0	4	1	5	1	2	0	1	1	12	32	20	117	151	139
5-3	0	7	1	5	3	11	0	0	0	17	51	32	138	146	118
5-4	0	13	1	6	6	24	0	0	0	21	48	41	144	127	87
5-5	0	17	2	8	6	13	0	0	0	26	36	24	197	104	59
5-6	0	13	2	17	8	16	0	0	0	41	36	19	167	139	94
6-1	0	9	2	10	4	11	0	0	0	38	15	10	103	93	68
6-2	0	7	0	6	3	8	0	0	0	41	6	4	66	49	36
6-3	0	5	1	4	2	2	0	0	0	46	2	2	15	8	5
6-4	0	3	0	4	1	1	0	0	0	39	1	1	12	5	5
6-5	0	0	0	3	0	0	0	0	0	29	1	0	8	3	4
6-6	0	0	0	1	1	1	0	0	0	6	1	0	2	1	1
7-1	0	0	0	3	0	1	0	0	0	4	2	3	2	3	4
7-2	0	0	0	1	0	2	0	0	0	4	2	3	1	9	15
7-3	0	0	0	0	1	4	1	0	0	4	5	0	1	18	31
7-4	0	0	0	2	0	0	0	0	0	6	8	4	5	34	53
7-5	0	1	0	2	1	3	0	0	0	10	10	4	17	36	58
7-6	0	2	0	16	2	18	0	0	0	17	21	9	43	48	70
8-1	0	2	0	22	5	36	0	0	0	16	25	13	58	44	53
8-2	0	2	0	9	3	12	0	0	0	14	22	9	17	51	36
8-3	0	1	0	8	3	10	0	0	0	14	20	15	16	59	33
8-4	0	1	0	6	2	9	0	0	0	13	13	16	18	59	35
8-5	0	1	0	4	1	6	0	0	0	10	7	0	28	36	50
8-6	0	0	0	4	1	8	0	0	0	12	4	0	23	62	75
5月計	0	56	7	44	25	70	0	1	1	121	222	136	810	791	641
6月計	0	23	3	28	11	23	0	1	0	199	26	17	206	159	119
7月計	0	3	0	24	4	28	1	1	0	45	47	23	69	146	231
8月計	0	6	0	53	14	81	0	0	0	79	91	53	160	310	282
合計	0	87	10	149	55	202	1	3	1	444	386	229	1,245	1,404	1,273

※病害虫防除員による調査



(11) 病害虫発生予察ほ場における害虫発生状況(すくいとり調査)

① 7月中旬(ウンカ・ヨコバイ類 等)

		ウンカ類 幼虫	ヒメトビ ウンカ 成虫	セジロウ ンカ 成虫	ヨコバイ 類 幼虫	ツマグロ ヨコバイ 成虫	イナズマ ヨコバイ 成虫	イナゴ	フタオビ コヤガ幼 虫	イチモン ジセセリ 幼虫	備考
発生ほ場数(か所)		37	31	0	6	19	1	29	1	1	令和元(2019)年7月8~11日調査 総調査ほ場数:39ほ場 (20回振りすくい取り) 平年値はH21~30年の平均
ほ場率	本年平均値	97.4	79.5	0.0	15.4	48.7	2.6	74.4	2.6	2.6	
	平年値	56.8	85.7	7.6	12.8	42.8	2.2	53.5	21.2	1.5	
すくいとり頭数合計(頭)		1531	912	0	8	115	1	461	1	1	
頭数	本年平均値	39.3	23.4	0.0	0.2	2.9	0.0	11.8	0.0	0.0	
	平年値	21.7	17.7	0.1	0.2	1.3	0.0	6.0	0.9	0.0	
概 評		やや多	平年並	少	平年並	やや多	やや少	やや多	少	平年並	

発生地点率の推移

	ウンカ類 幼虫	ヒメトビ ウンカ 成虫	セジロウ ンカ 成虫	ヨコバイ 類 幼虫	ツマグロ ヨコバイ 成虫	イナズマ ヨコバイ 成虫	イナゴ	フタオビ コヤガ幼 虫	イチモン ジセセリ 幼虫	備考 (総調査地点数)
H30.7	56.4	92.3	0.0	0.0	17.9	2.6	64.1	5.1	0.0	39
H29.7	69.2	97.4	0.0	0.0	30.8	0.0	64.1	5.1	2.6	39
H28.7	23.1	87.2	20.5	2.6	33.3	2.6	41.0	20.5	2.6	39
H27.7	71.8	79.5	2.6	10.3	25.6	0.0	53.8	2.6	2.6	39
H26.7	68.4	81.6	0.0	31.6	34.2	0.0	55.3	2.6	0.0	38
H25.7	89.7	100.0	0.0	20.5	53.8	7.7	53.8	25.6	0.0	39
H24.7	64.1	69.2	10.3	15.4	51.3	0.0	59.0	28.2	0.0	39
H23.7	69.2	92.3	0.0	25.6	46.2	5.1	46.2	41.0	2.6	39
H22.7	35.0	82.5	42.5	20.0	85.0	0.0	47.5	47.5	2.5	40
H21.7	20.8	75.0	0.0	2.1	50.0	4.2	50.0	33.3	2.1	48

すくい取り頭数の推移

	ウンカ類 幼虫	ヒメトビ ウンカ 成虫	セジロウ ンカ 成虫	ヨコバイ 類 幼虫	ツマグロ ヨコバイ 成虫	イナズマ ヨコバイ 成虫	イナゴ	フタオビ コヤガ幼 虫	イチモン ジセセリ 幼虫	備考 (調査日の平均)
H30.7	4.5	12.1	0.0	0.0	0.2	0.0	3.8	0.1	0.0	7/9
H29.7	3.5	18.5	0.0	0.0	0.7	0.0	7.4	0.1	0.0	7/12
H28.7	0.5	5.8	0.3	0.0	0.6	0.0	2.4	1.2	0.0	7/12
H27.7	14.5	8.7	0.0	0.3	0.6	0.0	4.6	0.0	0.0	7/10
H26.7	118.1	36.9	0.0	0.6	1.1	0.0	13.6	0.0	0.0	7/8
H25.7	37.9	28.2	0.0	0.3	1.3	0.1	8.2	1.2	0.0	7/10
H24.7	30.8	38.5	0.1	0.3	2.1	0.0	4.4	1.1	0.0	7/12
H23.7	5.8	14.0	0.0	0.5	1.8	0.2	4.0	2.0	0.0	7/13
H22.7	0.9	7.5	0.9	0.4	3.4	0.0	5.0	2.6	0.0	7/13
H21.7	1.0	6.9	0.0	0.0	0.8	0.0	6.2	0.7	0.0	7/13

② 7月中旬(斑点米カメムシ類)

		クモヘリカメムシ		ホソハリカメムシ		アカヒゲホソドリ カスミカメ		アカスジカスミカメ		斑点米カ メムシ類 成幼虫	うち カスミカメ 類成幼虫	備考
		幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫			
発生ほ場数(か所)		0	1	0	0	0	1	0	0	2	1	令和元(2019)年7月8~11 日調査 総調査ほ場数:39ほ場 (20回振りすくい取り) 平年値はH21~30年の平均
ほ場率	本年平均値	0.0	2.6	0.0	0.0	0.0	2.6	0.0	0.0	5.1	2.6	
	平年値	0.0	3.0	0.0	1.2	0.4	4.8	0.3	2.5	11.0	7.4	
すくいとり頭数合計(頭)		0	1	0	0	0	2	0	0	3	2	
頭数	本年平均値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.1	0.1	
	平年値	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.1	0.2	0.1	
概 評		少	やや少	少	少	少	やや少	少	少	やや少	やや少	

発生地点率の推移

	クモヘリカメムシ 幼虫	クモヘリカメムシ 成虫	ホソハリカメムシ 幼虫	ホソハリカメムシ 成虫	アカヒゲホソドリ カスミカメ 幼虫	アカヒゲホソドリ カスミカメ 成虫	アカスジカスミカメ 幼虫	アカスジカスミカメ 成虫	斑点米カ メムシ類 成幼虫	うち カスミカメ 類成幼虫	備考 (総調査地点数)
H30.7	0.0	7.7	0.0	0.0	0.0	10.3	0.0	0.0	17.9	10.3	39
H29.7	0.0	7.7	0.0	0.0	0.0	12.8	0.0	0.0	17.9	12.8	39
H28.7	0.0	2.6	0.0	0.0	0.0	5.1	0.0	0.0	7.7	5.1	39
H27.7	0.0	2.6	0.0	2.6	0.0	7.7	2.6	5.1	17.9	12.8	39
H26.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	38
H25.7	0.0	0.0	0.0	5.1	0.0	0.0	0.0	2.6	7.7	2.6	39
H24.7	0.0	0.0	0.0	2.6	0.0	2.6	0.0	0.0	5.1	2.6	39
H23.7	0.0	7.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7.7	12.8	7.7	39
H22.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.0	0.0	5.0	10.0	10.0	40
H21.7	0.0	2.1	0.0	2.1	4.2	4.2	0.0	4.2	12.5	10.4	48

すくい取り頭数の推移

	クモヘリカメムシ 幼虫	クモヘリカメムシ 成虫	ホソハリカメムシ 幼虫	ホソハリカメムシ 成虫	アカヒゲホソドリ カスミカメ 幼虫	アカヒゲホソドリ カスミカメ 成虫	アカスジカスミカメ 幼虫	アカスジカスミカメ 成虫	斑点米カ メムシ類 成幼虫	うち カスミカメ 類成幼虫	備考 (調査日の平均)
H30.7	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.2	0.1	7/9
H29.7	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	0.4	0.2	7/12
H28.7	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.2	0.1	7/12
H27.7	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.4	0.6	0.5	7/10
H26.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7/8
H25.7	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	7/10
H24.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	7/12
H23.7	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.2	0.1	7/13
H22.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.1	0.1	0.1	7/13
H21.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.3	0.3	7/13

③ 8月上旬(ウンカ・ヨコバイ類 等)

	ウンカ類	ヒメトビ	セジロウ	ヨコバイ	ツマグロ	イナズマ	イナゴ	フタオビ	イチモン	コブノメ	備考
	幼虫	ウンカ	ンカ	類	ヨコバイ	ヨコバイ		コヤガ幼	ジセセリ	イガ成虫	
発生ほ場数(か所)	76	77	12	43	50	3	58	0	2	0	令和元(2019)年8月1~9日調査 総調査ほ場数:78ほ場 (20回振りすくい取り) 平年値はH21~30年の平均
ほ場率	本年平均値	97.4	98.7	15.4	55.1	64.1	3.8	74.4	0.0	2.6	
	平年値	92.3	95.0	24.6	60.2	75.6	4.0	53.8	14.9	14.1	
すくいとり頭数合計(頭)	17,358	3,663	18	2,105	1,281	4	305	0	2	0	
頭数	本年平均値	222.5	47.0	0.2	27.0	16.4	0.1	3.9	0.0	0.0	
	平年値	368.9	42.4	1.6	43.2	38.7	0.1	4.1	0.8	0.1	
概 評	平年並	平年並	やや少	平年並	平年並	平年並	平年並	少	少	少	

発生地点率の推移

	ウンカ類	ヒメトビ	セジロウ	ヨコバイ	ツマグロ	イナズマ	イナゴ	フタオビ	イチモン	コブノメ	備考
	幼虫	ウンカ	ンカ	類	ヨコバイ	ヨコバイ		コヤガ幼	ジセセリ	イガ成虫	(総調査地点数)
H30.8	100.0	98.7	0.0	42.3	71.8	0.0	64.1	5.1	11.5	0.0	78
H29.8	93.6	91.0	2.6	39.7	55.1	0.0	62.8	0.0	3.8	0.0	78
H28.8	89.7	97.4	28.2	42.3	62.8	0.0	38.5	9.0	0.0	0.0	78
H27.8	96.2	97.4	55.1	52.6	67.9	1.3	51.3	2.6	2.6		-78
H26.8	94.9	88.5	0.0	62.8	78.2	0.0	46.2	0.0	100.0		-78
H25.8	97.4	100.0	3.8	64.1	69.2	1.3	44.9	9.0	0.0		-78
H24.8	97.4	98.7	23.1	71.8	85.9	6.4	48.7	17.9	6.4		-78
H23.8	91.0	92.3	10.3	76.9	85.9	14.1	53.8	50.0	2.6		-78
H22.8	98.8	100.0	96.3	80.0	97.5	5.0	67.5	41.3	7.5		-80
H21.8	64.1	85.9	26.9	69.2	82.1	11.5	60.3	14.1	6.4		-78

すくい取り頭数の推移

	ウンカ類	ヒメトビ	セジロウ	ヨコバイ	ツマグロ	イナズマ	イナゴ	フタオビ	イチモン	コブノメ	備考
	幼虫	ウンカ	ンカ	類	ヨコバイ	ヨコバイ		コヤガ幼	ジセセリ	イガ成虫	(調査日の平均)
H30.8	571.9	62.7	0.0	13.9	28.0	0.0	2.6	0.2	0.2	0.0	7/31
H29.8	508.4	26.1	0.0	25.9	34.0	0.0	4.4	0.0	0.0	0.0	8/1
H28.8	297.1	43.2	0.6	67.8	41.7	0.0	1.5	0.5	0.0	0.0	8/2
H27.8	256.3	40.4	1.2	29.3	25.5	0.0	2.6	0.0	0.0		-8/1
H26.8	198.6	26.5	0.0	17.1	16.6	0.0	2.4	0.0	0.0		-8/1
H25.8	525.6	68.5	0.1	60.7	38.4	0.0	5.6	0.2	0.0		-8/3
H24.8	300.4	47.5	0.4	32.8	23.6	0.1	3.1	0.5	0.1		-8/1
H23.8	616.1	29.5	0.1	15.9	18.6	0.4	6.6	1.5	0.0		-8/2
H22.8	257.7	66.8	12.8	141.5	128.8	0.1	7.2	4.6	0.1		-8/2
H21.8	156.4	12.9	0.5	27.1	32.2	0.1	5.3	0.3	0.1		-8/3

④ 8月上旬(斑点米カメムシ類)

	クモヘリカメムシ		ホソハリカメムシ		アカヒゲホソドリカメムシ		アサジカカメムシ		斑点米カメムシ類成幼虫	うちカスミカメ類成幼虫	備考
	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫			
発生ほ場数(か所)	3	8	0	6	0	19	2	9	26	21	令和元(2019)年8月1~9日調査 総調査ほ場数:78ほ場 (20回振りすくい取り) 平年値はH21~30年の平均
ほ場率	本年平均値	3.8	10.3	0.0	7.7	0.0	24.4	2.6	11.5	33.3	
	平年値	2.8	7.9	0.3	2.2	0.3	12.0	1.0	12.9	27.2	
すくいとり頭数合計(頭)	19	51	0	11	0	54	31	64	230	149	
頭数	本年平均値	0.2	0.7	0.0	0.1	0.0	0.7	0.4	0.8	2.9	
	平年値	0.2	0.2	0.0	0.0	0.0	0.4	0.0	0.5	1.3	
概 評	平年並	やや多	少	やや多	少	多	やや多	平年並	やや多	やや多	

発生地点率の推移

	クモヘリカメムシ		ホソハリカメムシ		アカヒゲホソドリカメムシ		アサジカカメムシ		斑点米カメムシ類成幼虫	うちカスミカメ類成幼虫	備考
	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫			
H30.8	5.1	12.8	0.0	1.3	2.6	24.4	0.0	17.9	37.2	28.2	78
H29.8	1.3	15.4	0.0	2.6	0.0	15.4	3.8	9.0	38.5	25.6	78
H28.8	2.6	5.1	0.0	0.0	0.0	10.3	0.0	10.3	23.1	16.7	78
H27.8	2.6	3.8	0.0	1.3	0.0	14.1	0.0	9.0	23.1	16.7	78
H26.8	1.3	3.8	0.0	5.1	0.0	2.6	0.0	6.4	14.1	7.7	78
H25.8	1.3	6.4	0.0	1.3	0.0	3.8	0.0	12.8	20.5	16.7	78
H24.8	6.4	5.1	1.3	1.3	0.0	12.8	1.3	16.7	26.9	23.1	78
H23.8	5.1	9.0	1.3	7.7	0.0	7.7	3.8	7.7	21.8	12.8	78
H22.8	2.5	13.8	0.0	0.0	0.0	15.0	0.0	21.3	38.8	28.8	80
H21.8	0.0	3.8	0.0	1.3	0.0	14.1	1.3	17.9	28.2	26.9	78

すくい取り頭数の推移

	クモヘリカメムシ		ホソハリカメムシ		アカヒゲホソドリカメムシ		アサジカカメムシ		斑点米カメムシ類成幼虫	うちカスミカメ類成幼虫	備考
	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫			
H30.8	1.1	0.4	0.0	0.0	0.0	0.7	0.0	0.3	2.6	1.0	7/31
H29.8	0.0	0.4	0.0	0.0	0.0	0.4	0.0	0.2	1.0	0.6	8/1
H28.8	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	0.1	0.4	0.3	8/2
H27.8	0.0	0.3	0.0	0.0	0.0	0.7	0.0	0.2	1.3	0.9	8/1
H26.8	0.0	0.1	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.2	0.5	0.2	8/1
H25.8	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	0.6	0.4	8/3
H24.8	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.2	0.3	0.4	1.2	1.0	8/1
H23.8	0.3	0.3	0.0	0.1	0.0	0.3	0.1	1.8	2.9	2.2	8/2
H22.8	0.0	0.3	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0	0.8	1.6	1.3	8/2
H21.8	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.7	0.0	0.4	1.3	1.2	8/3

(12) 斑点米カメムシ類の発生状況
①イネ科雑草地における発生状況(6月中旬)

	クモヘリカメムシ		ホソハリカメムシ		アカヒゲホソミドリカスミカメ		アカスジカスミカメ		斑点米カメムシ類	備考	
	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫			
発生ほ場数(か所)	0	1	2	10	27	42	9	24	42	令和元(2019)年6月17・18日調査 総調査地点数:39 (イネ科雑草地、牧草地等における20回振りすくい取り) 平年値はH21~30年の平均	
ほ場率	本年平均値	0.0	2.4	4.8	23.8	64.3	100.0	21.4	57.1		100.0
	平年値	0.8	14.5	10.4	41.4	56.1	91.0	50.1	75.3		99.4
すくいとり頭数合計(頭)	0	1	2	16	615	1,023	66	219	2,435		
頭数	本年平均値	0.0	0.0	0.0	0.4	14.6	24.4	1.6	5.2		58.0
	平年値	0.0	1.4	0.2	1.0	8.1	17.6	44.8	14.9	92.4	
概 評	少		やや少		平年並		やや少		平年並		

発生地点率の推移

	クモヘリカメムシ		ホソハリカメムシ		アカヒゲホソミドリカスミカメ		アカスジカスミカメ		斑点米カメムシ類	備考 (総調査地点数)
	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫		
H30.7	0.0	2.6	10.3	23.1	48.7	82.1	28.2	64.1	97.4	39
H29.7	0.0	0.0	2.6	15.4	33.3	87.2	15.4	74.4	100.0	39
H28.7	0.0	7.9	13.2	42.1	57.9	94.7	36.8	63.2	100.0	38
H27.7	0.0	3.6	14.3	30.4	62.5	98.2	60.7	82.1	100.0	56
H26.7	0.0	4.2	4.2	39.6	45.8	100.0	50.0	85.4	100.0	48
H25.7	0.0	3.3	10.0	51.7	76.7	98.3	81.7	86.7	100.0	60
H24.7	0.0	5.3	3.5	29.8	36.8	78.9	33.3	75.4	96.5	57
H23.7	0.0	31.1	8.9	66.7	71.1	88.9	75.6	77.8	100.0	45
H22.7	0.0	36.7	20.4	49.0	65.3	89.8	61.2	69.4	100.0	49
H21.7	8.3	50.0	16.7	66.7	62.5	91.7	58.3	75.0	100.0	24

すくい取り頭数の推移

	クモヘリカメムシ		ホソハリカメムシ		アカヒゲホソミドリカスミカメ		アカスジカスミカメ		斑点米カメムシ類	備考 (調査日の平均)
	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫		
H30.7	0.0	0.0	0.2	0.4	4.8	27.5	2.7	3.9	44.0	6/19
H29.7	0.0	0.0	0.0	0.2	3.3	11.3	1.1	5.3	24.7	6/20
H28.7	0.0	0.2	0.2	1.4	5.4	20.3	3.6	13.0	46.6	6/21
H27.7	0.0	0.0	0.2	0.7	6.4	36.6	20.4	15.9	83.9	6/24
H26.7	0.0	0.0	0.1	0.8	3.4	22.1	22.6	28.2	84.5	6/23
H25.7	0.0	0.2	0.2	1.0	15.1	23.2	113.0	31.4	187.6	6/26
H24.7	0.0	0.1	0.2	0.8	2.8	4.2	15.7	5.8	32.0	6/26
H23.7	0.0	1.0	0.2	1.9	22.8	9.7	192.0	12.3	243.9	6/27
H22.7	0.0	2.1	0.3	1.1	11.8	9.6	65.3	9.7	108.6	6/28
H21.7	0.1	10.2	0.2	2.2	5.2	11.2	11.7	23.3	68.7	6/29

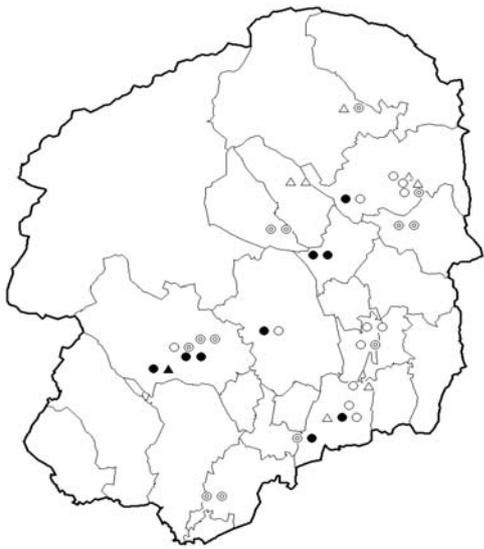


クモヘリカメムシのすくい取り頭数の状況
(6月中旬調査)



ホソハリカメムシのすくい取り頭数の状況
(6月中旬調査)

程度	無	やや少	少	平年並	やや多	多
平年比(%)	0	1~19	20~59	60~140	141~180	181~
記号	×	△	○	◎	▲	●



アカヒゲホソミドリカスミカメのすくい取り頭数の状況
(6月中旬調査)



アカスジカスミカメのすくい取り頭数の状況
(6月中旬調査)

程度	無	やや少	少	平年並	やや多	多
平年比(%)	0	1~19	20~59	60~140	141~180	181~
記号	×	△	○	◎	▲	●

② イネ科雑草地における発生状況 (7月中旬)

	クモヘリカメムシ		ホソハリカメムシ		アカヒゲホソミドリカスミカメ		アカスジカスミカメ		斑点米カメムシ類 成虫	備考	
	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫			
発生ほ場数(か所)	0	11	6	10	22	28	21	26	32	令和元(2019)年7月8~11日調査 総調査地点数: 32 (イネ科雑草地、畦畔等における20回振りすくい取り) 平年値はH21~30年の平均	
ほ場率	本年平均値	0.0	34.4	18.8	37.5	68.8	87.5	65.6	81.3		100.0
	平年値	4.4	39.2	35.5	72.7	87.8	94.4	85.6	93.1		100.0
すくいとり頭数合計(頭)	0	105	14	27	1,078	380	1,497	998	4,363		
	本年平均値	0.0	3.3	0.4	0.9	35.2	13.2	46.8	31.2		139.2
平年値	0.3	19.8	1.0	3.1	68.5	51.0	43.3	58.6	233.8		
概 評	平年並		平年並		やや多		平年並		やや多		

発生地点率平年値計算表

	クモヘリカメムシ		ホソハリカメムシ		アカヒゲホソミドリカスミカメ		アカスジカスミカメ		斑点米カメムシ類 成虫	備考 (総調査地点数)
	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫		
H30.7	3.1	56.3	34.4	75.0	93.8	90.6	75.0	75.0	100.0	32
H29.7	0.0	33.3	39.4	69.7	81.8	90.9	84.8	97.0	100.0	33
H28.7	0.0	38.7	9.7	83.9	96.8	100.0	83.9	87.1	100.0	31
H27.7	0.0	16.7	9.5	38.1	90.5	97.6	83.3	100.0	100.0	42
H26.7	0.0	22.9	11.4	54.3	74.3	100.0	94.3	100.0	100.0	35
H25.7	-	48.5	-	87.9	-	100.0	-	100.0	100.0	33
H24.7	-	38.2	-	82.4	-	94.1	-	88.2	100.0	34
H23.7	-	63.2	-	89.5	-	100.0	-	100.0	100.0	19
H22.7	0.0	52.4	100.0	73.8	100.0	92.9	100.0	95.2	100.0	42
H21.7	27.8	22.2	44.4	72.2	77.8	77.8	77.8	88.9	100.0	18

すくい取り頭数平年値計算表

	クモヘリカメムシ		ホソハリカメムシ		アカヒゲホソミドリカスミカメ		アカスジカスミカメ		斑点米カメムシ類 成虫	備考 (調査日の平均)
	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫		
H30.7	0.0	18.9	0.8	2.7	243.9	162.8	60.3	38.6	536.4	7/9
H29.7	0.0	25.4	1.3	2.8	60.8	74.0	50.9	51.3	275.1	7/11
H28.7	0.0	20.5	0.2	2.3	94.0	55.9	74.7	35.9	288.2	7/12
H27.7	0.0	0.4	0.3	0.7	44.0	25.3	32.3	30.6	137.4	7/10
H26.7	0.0	0.9	0.3	1.5	23.2	26.9	54.4	35.0	142.0	7/9
H25.7	-	12.0	-	6.1	-	65.0	-	126.8	380.0	7/11
H24.7	-	11.6	-	5.5	-	24.4	-	40.0	85.6	7/11
H23.7	-	79.6	-	4.4	-	55.5	-	154.5	300.1	7/14
H22.7	0.0	19.5	0.0	2.8	0.0	13.2	0.0	49.8	94.9	7/15
H21.7	1.7	8.9	4.4	2.4	13.5	6.6	30.4	23.7	98.6	7/14



クモヘリカメムシのすくい取り頭数の状況
(7月中旬調査)



ホソハリカメムシのすくい取り頭数の状況
(7月中旬調査)



アカヒゲホソミドリカスミカメのすくい取り頭数の状況
(7月中旬調査)



アカスジカスミカメのすくい取り頭数の状況
(7月中旬調査)

程度	無	やや少	少	平年並	やや多	多
平年比(%)	0	1~19	20~59	60~140	141~180	181~
記号	x	Δ	○	◎	▲	●

③ クモヘリカメムシの誘殺数
(フェロモントラップ)

月一 半旬	宇都宮市瓦谷町			芳賀町稲毛田			茂木町※			矢板市※		
	R元 (2019)年	過去 10年 平均	H30 (2018)年	R元 (2019)年	過去 5年 平均	H30 (2018)年	H30年	過去 5年 平均	H29年	H30年	過去 10年 平均	H29年
5-1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
5-2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
5-3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
5-4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
5-5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
5-6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6-1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6-2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6-3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6-4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6-5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6-6	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0
7-1	0	0	0	0	0	0	0	13	1	0	2	18
7-2	0	0	1	0	0	0	0	14	2	0	5	22
7-3	0	0	1	0	0	0	1	10	3	1	6	16
7-4	1	1	2	0	0	0	1	5	6	0	8	6
7-5	0	0	1	0	0	0	0	3	7	3	6	2
7-6	2	1	2	0	0	0	0	8	9	3	4	1
8-1	2	1	4	0	0	0	0	5	5	1	1	0
8-2	0	0	0	1	0	0	0	1	1	0	0	0
8-3	0	0	0	1	0	0	0	1	1	0	0	0
8-4	0	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0
8-5	0	1	6	0	1	1	2	3	0	0	0	0
8-6	8	2	6	1	1	3	2	3	0	0	0	0
9-1	3	1	2	0	1	3	-	0	0	-	0	0
9-2	1	0	0	0	0	0	-	0	0	-	0	0
9-3	0	0	1	0	1	0	-	0	0	-	0	0
9-4	0	0	0	0	1	0	-	0	0	-	0	0
9-5	0	0	0	0	0	0	-	0	0	-	0	0
9-6	0	0	0	0	0	0	-	0	0	-	0	0
5月計	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月計	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	1	0
7月計	3	2	7	0	0	0	2	52	28	7	31	65
8月計	10	4	17	4	2	5	5	15	7	1	1	0
9月計	4	1	3	0	3	3	0	0	0	0	1	0
合計	17	7	27	4	6	8	7	71	35	8	34	65

※四捨五入の関係で合計が合わない場合がある。

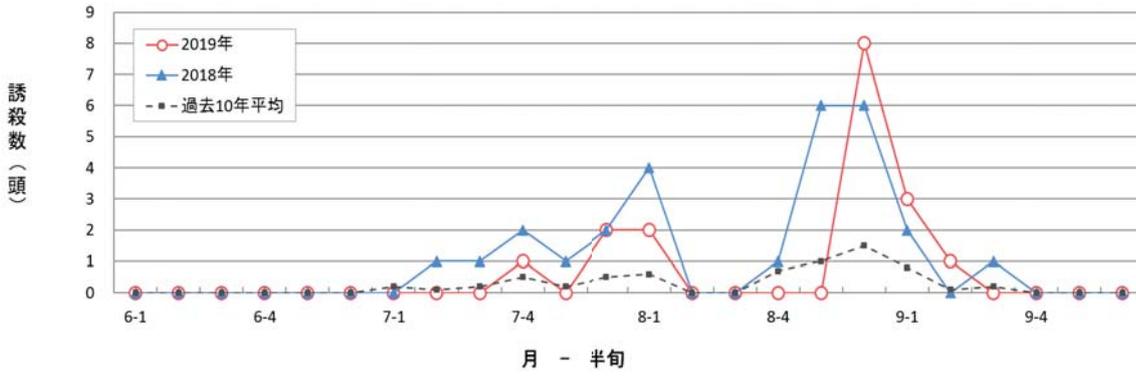
※病害虫防除員による調査

(60W予察灯)

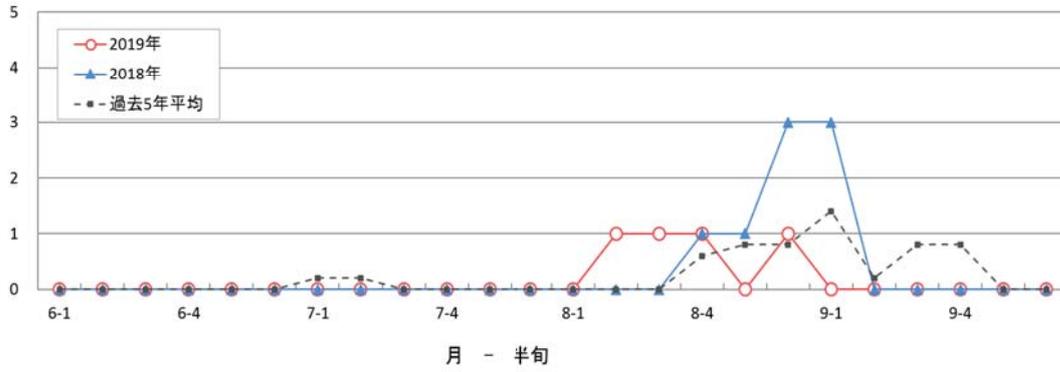
月一 半旬	大田原市			宇都宮市瓦谷町			小山市			栃木市大塚町		
	R元 (2019)年	過去 10年 平均	H30 (2018)年									
5-1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5-2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5-3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5-4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5-5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5-6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6-1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6-2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6-3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6-4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6-5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6-6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7-1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7-2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7-3	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7-4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7-5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7-6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8-1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8-2	0	0	0	0	0	-※	0	0	0	0	0	0
8-3	0	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0
8-4	0	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0
8-5	0	0	0	0	1	-	0	0	0	0	0	0
8-6	0	0	0	0	1	-	0	0	0	0	0	0
9-1	0	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0
9-2	0	0	0	1	0	-	0	0	0	0	0	0
9-3	0	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0
9-4	0	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0
9-5	0	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0
9-6	0	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0
5月計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6月計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7月計	0	0	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0
8月計	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0
9月計	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
合計	0	0	2	0	4	1	0	0	0	0	0	0

※ H30(2018)年宇都宮市瓦谷町予察灯は、故障の為8月第1半旬で調査終了とした。

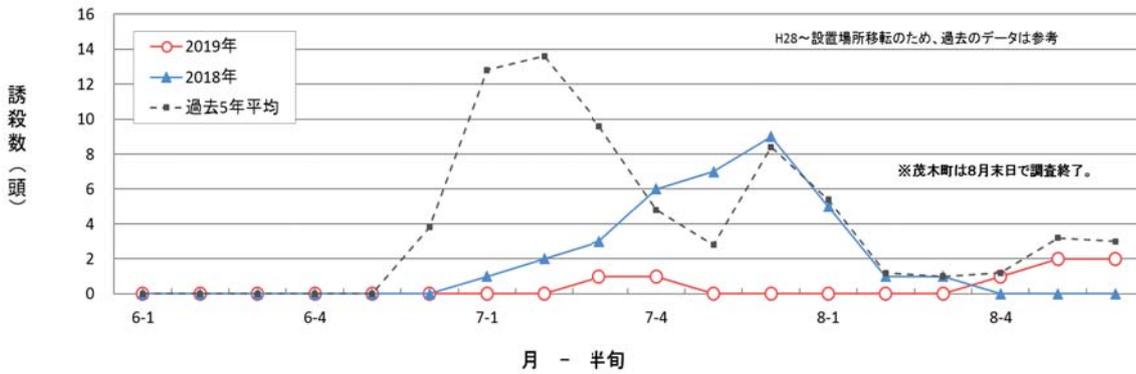
クモヘリカメムシのフェロモントラップによる誘殺数 (宇都宮市瓦谷町)



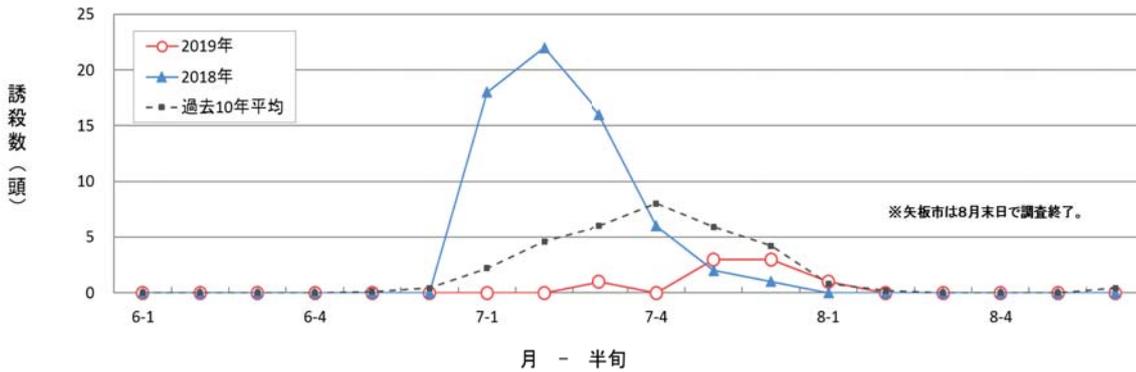
クモヘリカメムシのフェロモントラップによる誘殺数 (芳賀町稲毛田)



クモヘリカメムシのフェロモントラップによる誘殺数 (茂木町)



クモヘリカメムシのフェロモントラップによる誘殺数 (矢板市)



④ ホソハリカメムシの誘殺数
(60W予察灯)

月一 半旬	大田原市			宇都宮市瓦谷町			小山市			栃木市大塚町		
	R元 (2019)年	過去 10年 平均	H30 (2018)年									
5-1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5-2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5-3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5-4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5-5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5-6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6-1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6-2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6-3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6-4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6-5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6-6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7-1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7-2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7-3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7-4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7-5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7-6	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
8-1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8-2	0	0	0	0	0	-※	0	0	0	0	0	0
8-3	0	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0
8-4	0	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0
8-5	0	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0
8-6	0	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0
9-1	0	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	1
9-2	0	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0
9-3	0	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0
9-4	0	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0
9-5	0	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0
9-6	0	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0
5月計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6月計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7月計	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
8月計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9月計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
合計	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	1

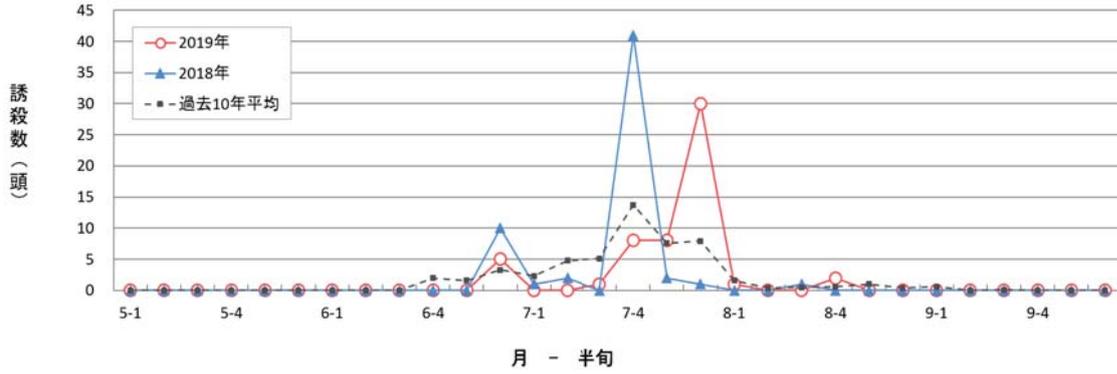
※) H30(2018)年宇都宮市瓦谷町予察灯は、故障の為8月第1半旬で調査終了とした。

⑤ アカヒゲホソミドリカスミカメの誘殺数
(60W予察灯)

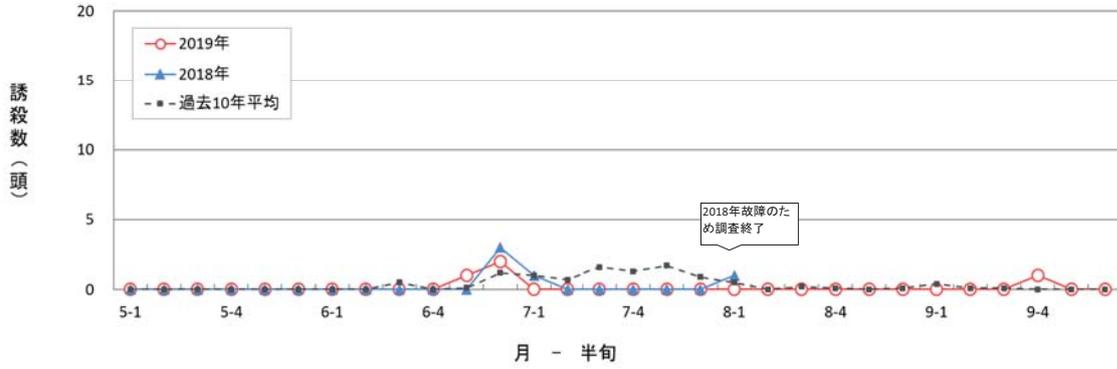
月一 半旬	大田原市			宇都宮市瓦谷町			小山市			栃木市大塚町		
	R元 (2019)年	過去 10年 平均	H30 (2018)年									
5-1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5-2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5-3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5-4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5-5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5-6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6-1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0
6-2	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
6-3	0	0	0	0	1	0	0	4	0	0	0	0
6-4	0	2	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0
6-5	0	2	0	1	0	0	0	2	0	2	1	0
6-6	5	3	10	2	1	3	0	1	0	2	1	2
7-1	0	2	1	0	1	1	0	1	0	1	1	0
7-2	0	5	2	0	1	0	0	0	0	0	0	1
7-3	1	5	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0
7-4	8	14	41	0	1	0	0	0	0	0	0	0
7-5	8	8	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0
7-6	30	8	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0
8-1	1	2	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0
8-2	0	0	0	0	0	-※	0	0	1	3	0	0
8-3	0	1	1	0	0	-	0	0	0	0	0	0
8-4	2	1	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0
8-5	0	1	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0
8-6	0	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	2
9-1	0	1	0	0	0	-	1	0	0	7	0	0
9-2	0	0	0	0	0	-	2	0	0	1	0	2
9-3	0	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0
9-4	0	0	0	1	0	-	1	0	0	0	0	0
9-5	0	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0
9-6	0	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0
5月計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6月計	5	7	10	3	2	3	0	10	1	5	2	2
7月計	47	41	47	0	7	1	0	1	0	1	1	1
8月計	3	5	1	0	1	1	0	0	1	3	0	2
9月計	0	1	0	1	1	0	4	0	0	8	0	2
合計	55	54	58	4	11	5	4	12	2	17	4	7

※) H30(2018)年宇都宮市瓦谷町予察灯は、故障の為8月第1半旬で調査終了とした。

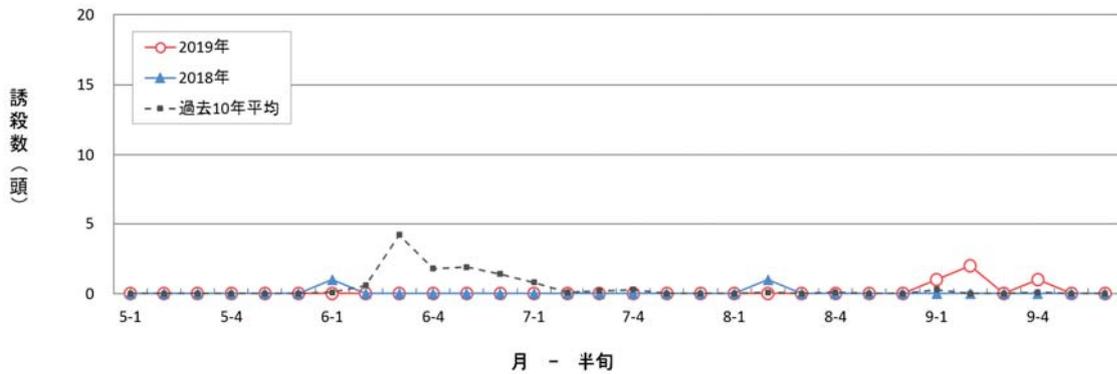
アカヒゲホソミドリカスミカメの60W予察灯による誘殺数 (大田原市)



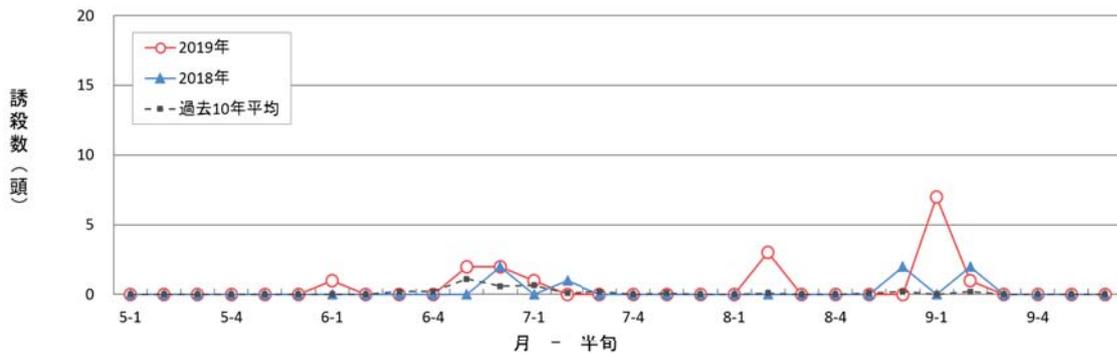
アカヒゲホソミドリカスミカメの60W予察灯による誘殺数 (宇都宮市瓦谷町)



アカヒゲホソミドリカスミカメの60W予察灯による誘殺数 (小山市)



アカヒゲホソミドリカスミカメの60W予察灯による誘殺数 (栃木市大塚町)



⑥ アカスジカスミカメの誘殺数
(60W予察灯)

月一 半旬	大田原市			宇都宮市瓦谷町			小山市			栃木市大塚町		
	R元 (2019)年	過去 10年 平均	H30 (2018)年									
5-1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5-2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5-3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5-4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5-5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5-6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6-1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6-2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6-3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6-4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6-5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6-6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7-1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7-2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7-3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7-4	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7-5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7-6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8-1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8-2	0	1	0	0	0	-※	0	0	0	0	0	0
8-3	0	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0
8-4	0	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0
8-5	0	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0
8-6	0	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0
9-1	0	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0
9-2	0	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0
9-3	0	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0
9-4	0	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0
9-5	0	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0
9-6	0	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0
5月計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6月計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7月計	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8月計	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9月計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0

※) H30(2018)年宇都宮市瓦谷町予察灯は、故障の為8月第1半旬で調査終了とした。

(13) 水稻害虫の60W予察灯による誘殺数

① セジロウシカ

月一 半旬	大田原市			宇都宮市瓦谷町			小山市			栃木市大塚町		
	R元 (2019)年	過去 10年 平均	H30 (2018)年									
5-1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5-2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5-3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5-4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5-5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5-6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6-1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6-2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6-3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6-4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6-5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6-6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7-1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7-2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7-3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7-4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7-5	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
7-6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8-1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8-2	0	0	0	0	0	-※	0	0	0	0	0	0
8-3	0	0	0	0	1	-	0	1	0	0	1	0
8-4	0	0	0	2	1	-	0	0	0	0	0	0
8-5	0	1	0	5	1	-	0	1	0	0	0	0
8-6	0	0	0	3	2	-	0	0	0	0	0	1
9-1	0	0	0	0	2	-	0	0	0	2	1	0
9-2	0	0	1	0	1	-	0	1	0	0	1	0
9-3	0	1	0	1	1	-	0	1	0	0	6	0
9-4	0	0	1	0	0	-	0	1	0	0	1	0
9-5	0	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0
9-6	0	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0
5月計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6月計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7月計	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
8月計	0	2	0	10	6	1	0	2	0	0	1	1
9月計	0	1	2	1	4	0	0	3	0	2	9	0
合計	0	3	2	11	11	1	0	6	0	2	10	1

※) H30(2018)年宇都宮市瓦谷町予察灯は、故障の為8月第1半旬で調査終了とした。

② トビロウシカ

月一 半旬	大田原市			宇都宮市瓦谷町			小山市			栃木市大塚町		
	R元 (2019)年	過去 10年 平均	H30 (2018)年									
5-1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5-2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5-3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5-4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5-5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5-6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6-1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6-2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6-3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6-4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6-5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6-6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7-1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7-2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7-3	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
7-4	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
7-5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7-6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8-1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8-2	0	0	0	0	0	-※	0	0	0	0	0	0
8-3	0	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0
8-4	0	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0
8-5	0	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0
8-6	0	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0
9-1	0	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0
9-2	0	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0
9-3	0	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0
9-4	0	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0
9-5	0	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0
9-6	0	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0
5月計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6月計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7月計	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0
8月計	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9月計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	0	1	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0

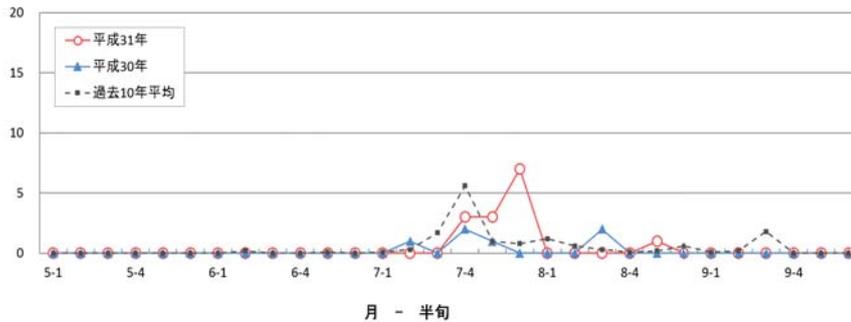
※) H30(2018)年宇都宮市瓦谷町予察灯は、故障の為8月第1半旬で調査終了とした。

③ ヒメトビウンカ

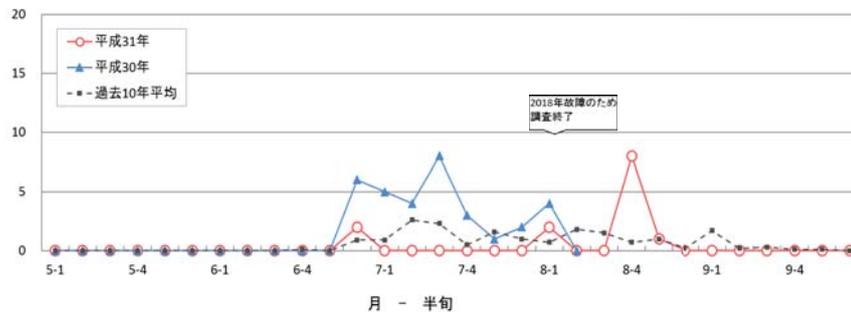
月一 半旬	大田原市			宇都宮市瓦谷町			小山市			栃木市大塚町		
	R元 (2019)年	過去 10年 平均	H30 (2018)年									
5-1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5-2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5-3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5-4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5-5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5-6	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
6-1	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0
6-2	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
6-3	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0
6-4	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
6-5	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
6-6	0	0	0	2	1	6	0	0	1	0	0	1
7-1	0	0	0	0	1	5	0	0	0	0	0	2
7-2	0	0	1	0	3	4	0	1	0	0	3	0
7-3	0	2	0	0	2	8	0	3	0	0	1	5
7-4	3	6	2	0	1	3	1	1	0	2	1	2
7-5	3	1	1	0	2	1	0	0	0	1	1	0
7-6	7	1	0	0	1	2	0	0	0	1	1	3
8-1	0	1	0	2	1	4	0	1	1	0	3	11
8-2	0	1	0	0	2	-※	0	6	27	16	1	0
8-3	0	0	2	0	2	-	0	3	0	7	2	2
8-4	0	0	0	8	1	-	0	2	0	13	1	8
8-5	1	0	0	1	1	-	0	2	0	4	1	6
8-6	0	1	0	0	0	-	0	3	0	0	3	0
9-1	0	0	0	0	2	-	0	11	0	1	16	1
9-2	0	0	0	0	0	-	1	6	0	0	43	25
9-3	0	2	0	0	0	-	0	12	0	1	32	0
9-4	0	0	0	0	0	-	0	6	0	0	12	0
9-5	0	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	1
9-6	0	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0
5月計	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
6月計	0	0	0	2	1	6	0	5	2	0	1	1
7月計	13	10	4	0	9	23	1	5	0	4	7	12
8月計	1	3	2	11	6	4	0	16	28	40	12	27
9月計	0	2	0	0	2	0	1	36	0	2	103	27
合計	14	15	6	13	18	33	2	63	30	46	122	67

※) H30(2018)年宇都宮市瓦谷町予察灯は、故障の為8月第1半旬で調査終了とした。

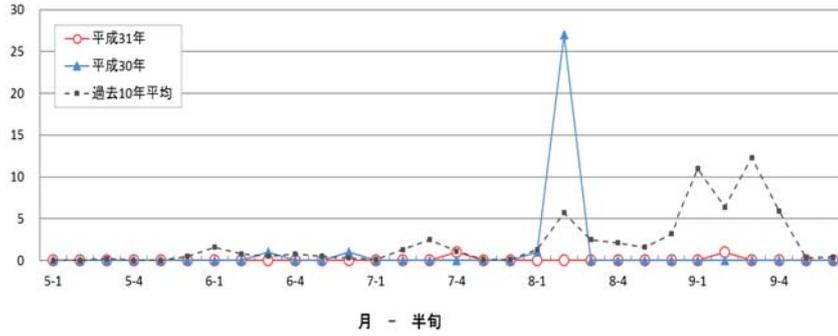
ヒメトビウンカの60W予察灯による誘殺数 (大田原市)



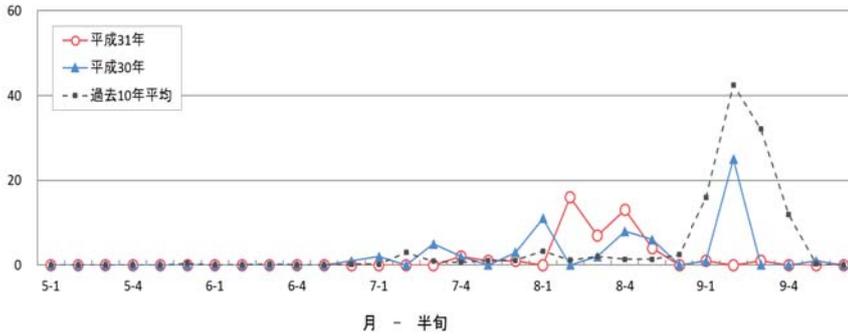
ヒメトビウンカの60W予察灯による誘殺数 (宇都宮市瓦谷町)



ヒメトビウカの60W予察灯による誘殺数 (小山市)



ヒメトビウカの60W予察灯による誘殺数 (栃木市大塚町)



④ ツマグロヨコバイ

月一 半旬	大田原市			宇都宮市瓦谷町			小山市			栃木市大塚町		
	R元 (2019)年	過去 10年 平均	H30 (2018)年									
5-1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5-2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5-3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5-4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5-5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5-6	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6-1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6-2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6-3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6-4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6-5	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1	0	0
6-6	0	1	0	13	7	0	0	0	0	0	0	0
7-1	0	7	2	1	23	9	0	0	1	0	0	0
7-2	0	7	0	0	25	13	0	0	0	0	1	0
7-3	0	13	2	0	14	19	0	0	0	0	0	0
7-4	13	21	10	4	16	46	1	1	0	0	1	0
7-5	16	12	6	1	25	76	0	0	0	0	3	0
7-6	17	38	0	5	30	17	0	0	0	0	1	6
8-1	2	56	0	2	77	24	0	0	0	3	1	7
8-2	1	10	0	42	120	-※	0	2	16	17	1	0
8-3	1	9	0	33	26	-	0	1	1	1	4	16
8-4	4	4	0	47	13	-	0	0	0	2	1	6
8-5	1	6	0	10	21	-	0	0	0	5	2	14
8-6	1	15	0	152	79	-	0	1	0	0	2	4
9-1	8	5	0	8	1,111	-	0	5	0	67	160	32
9-2	8	4	0	98	1,357	-	2	12	0	8	1,095	382
9-3	0	60	0	6	1,715	-	1	47	0	0	1,646	19
9-4	0	8	0	5	394	-	1	7	0	0	375	23
9-5	0	0	0	2	47	-	0	0	0	0	1	8
9-6	0	0	0	1	2	-	0	0	0	1	6	0
5月計	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6月計	0	2	0	14	8	0	0	1	0	1	1	0
7月計	46	99	20	11	131	180	1	2	0	1	6	6
8月計	10	99	0	286	336	24	0	4	17	28	11	47
9月計	16	78	0	120	4,626	0	4	72	0	76	3,283	464
合計	72	278	21	431	5,101	204	5	78	17	106	3,301	517

※) H30(2018)年宇都宮市瓦谷町予察灯は、故障の為8月第1半旬で調査終了とした。

⑤ イナズマヨコバイ

月一 半旬	大田原市			宇都宮市瓦谷町			小山市			栃木市大塚町		
	R元 (2019)年	過去 10年 平均	H30 (2018)年									
5-1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
5-2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5-3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
5-4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0
5-5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
5-6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
6-1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
6-2	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
6-3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6-4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6-5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6-6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7-1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7-2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7-3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7-4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7-5	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	1	0
7-6	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0
8-1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
8-2	0	0	0	2	0	-※	0	1	8	0	0	0
8-3	0	0	0	1	0	-	0	0	0	0	1	4
8-4	0	0	0	1	0	-	0	1	0	0	1	0
8-5	0	0	0	0	0	-	0	1	0	0	1	1
8-6	0	0	0	10	0	-	0	0	0	0	1	0
9-1	0	0	0	0	3	-	0	1	0	0	30	48
9-2	0	0	0	1	3	-	0	1	1	0	594	971
9-3	0	2	0	0	5	-	1	1	0	0	688	86
9-4	0	0	0	0	1	-	0	2	0	0	1,270	51
9-5	0	0	0	0	0	-	1	0	0	0	50	26
9-6	0	0	0	0	0	-	0	0	0	0	28	0
5月計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	1	2
6月計	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	1
7月計	0	0	1	2	1	1	0	0	0	0	1	0
8月計	0	1	0	15	1	0	0	3	8	0	4	5
9月計	0	2	0	1	12	0	2	5	1	0	2,659	1,182
合計	0	3	1	18	14	1	3	8	9	3	2,665	1,190

※) H30(2018)年宇都宮市瓦谷町予察灯は、故障の為8月第1半旬で調査終了とした。

⑥ コブノメイガ

月一 半旬	大田原市			宇都宮市瓦谷町			小山市			栃木市大塚町		
	R元 (2019)年	過去 10年 平均	H30 (2018)年									
5-1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5-2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5-3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5-4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5-5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5-6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6-1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6-2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6-3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6-4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6-5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6-6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7-1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7-2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7-3	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
7-4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7-5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7-6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8-1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8-2	0	0	0	0	0	-※	0	0	0	0	0	0
8-3	0	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0
8-4	0	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0
8-5	0	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0
8-6	0	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0
9-1	0	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0
9-2	0	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0
9-3	0	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0
9-4	0	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0
9-5	0	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0
9-6	0	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0
5月計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6月計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7月計	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
8月計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9月計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0

※) H30(2018)年宇都宮市瓦谷町予察灯は、故障の為8月第1半旬で調査終了とした。

⑦ フタオビコヤガ

月一 半旬	大田原市			宇都宮市瓦谷町			小山市			栃木市大塚町		
	R元 (2019)年	過去 10年 平均	H30 (2018)年									
5-1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5-2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5-3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5-4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5-5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5-6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6-1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6-2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6-3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6-4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6-5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
6-6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7-1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7-2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7-3	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0
7-4	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
7-5	0	2	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0
7-6	0	2	0	0	2	0	0	1	0	0	1	0
8-1	0	4	0	0	1	0	0	2	0	0	0	0
8-2	0	1	0	0	1	-※	0	1	0	0	1	0
8-3	0	0	0	0	0	-	0	1	0	0	0	0
8-4	0	0	0	0	0	-	0	1	0	0	0	1
8-5	0	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0
8-6	0	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0
9-1	0	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0
9-2	0	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	1
9-3	0	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0
9-4	0	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0
9-5	0	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0
9-6	0	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0
5月計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6月計	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0
7月計	0	6	0	0	3	0	0	2	0	0	5	0
8月計	0	6	0	0	3	0	0	6	0	0	1	1
9月計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
合計	0	12	0	0	5	0	0	9	0	0	7	2

※) H30(2018)年宇都宮市瓦谷町予察灯は、故障の為8月第1半旬で調査終了とした。

(14) ヒメトビウカの黄色粘着板による誘殺数

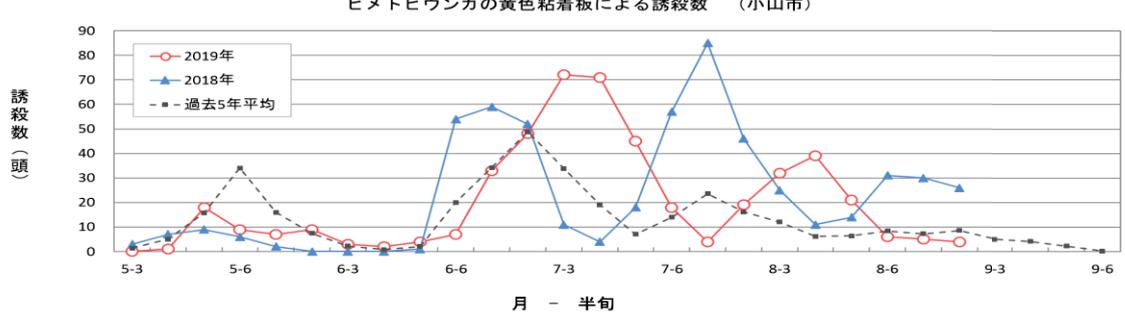
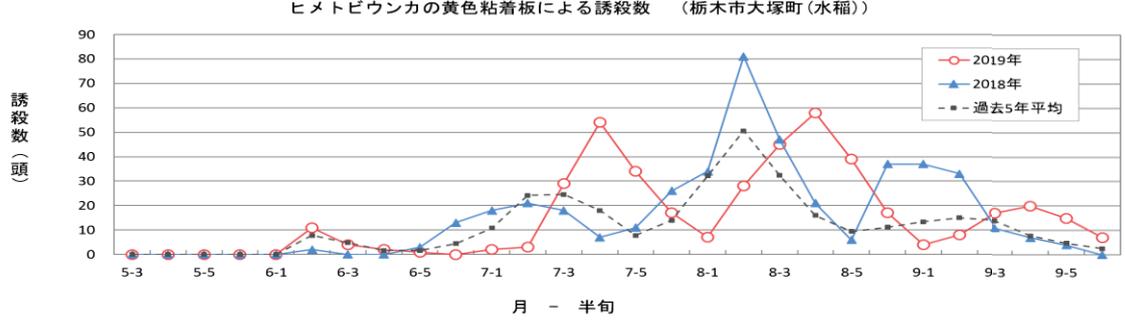
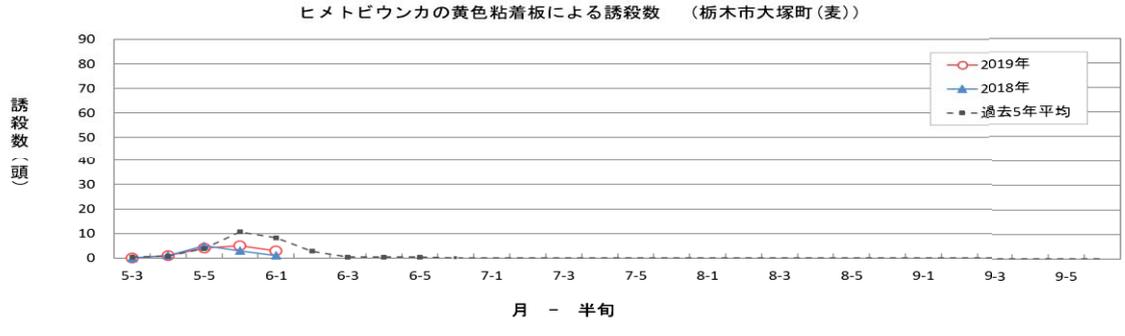
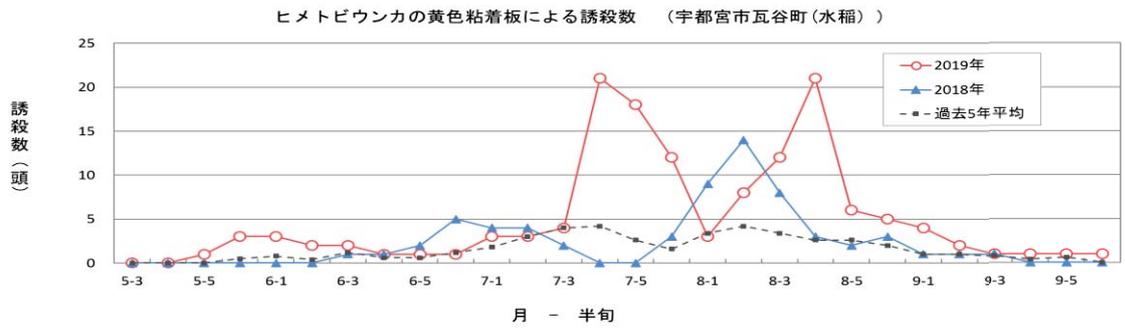
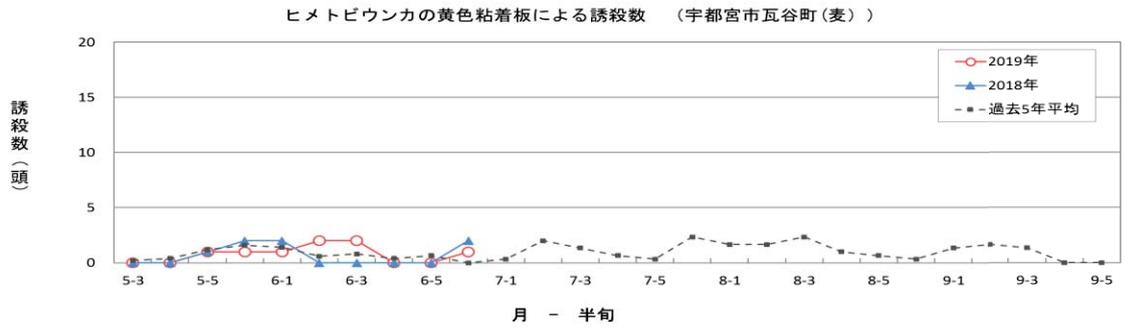
調査年	宇都宮市瓦谷町						栃木市大塚町						小山市小葉		
	麦			水稻			麦			水稻			水稻		
	R元 (2019)年	過去 5年 平均	H30 (2018)年												
5-1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
5-2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
5-3	0	0	0	-	-	-	0	0	0	-	-	-	0	1	3
5-4	0	0	0	0	0	0	1	1	1	-	-	-	1	5	7
5-5	1	0	1	1	0	0	4	4	5	-	-	-	18	16	9
5-6	1	1	2	3	1	0	5	11	3	-	-	-	9	34	6
6-1	1	2	2	3	1	0	3	8	1	-	-	-	7	16	2
6-2	2	1	0	2	0	0	-	4	-	11	8	2	9	7	0
6-3	2	1	0	2	1	1	-	4	-	4	5	0	3	2	0
6-4	0	1	0	1	1	1	-	0	-	2	2	0	2	1	0
6-5	0	0	0	1	1	2	-	0	-	1	2	3	4	2	1
6-6	1	1	2	1	1	5	-	-	-	0	4	13	7	20	54
7-1	-	0	-	3	2	4	-	-	-	2	11	18	33	34	59
7-2	-	0	-	3	3	4	-	-	-	3	24	21	48	49	52
7-3	-	2	-	4	4	2	-	-	-	29	25	18	72	34	11
7-4	-	1	-	21	4	0	-	-	-	54	18	7	71	19	4
7-5	-	1	-	18	3	0	-	-	-	34	8	11	45	7	18
7-6	-	0	-	12	2	3	-	-	-	17	14	26	18	14	57
8-1	-	2	-	3	3	9	-	-	-	7	32	34	4	24	85
8-2	-	2	-	8	4	14	-	-	-	28	51	81	19	16	46
8-3	-	2	-	12	3	8	-	-	-	45	32	47	32	12	25
8-4	-	2	-	21	3	3	-	-	-	58	16	21	39	6	11
8-5	-	1	-	6	3	2	-	-	-	39	9	6	21	6	14
8-6	-	1	-	5	2	3	-	-	-	17	11	37	6	8	31
9-1	-	0	-	4	1	1	-	-	-	4	13	37	5	7	30
9-2	-	1	-	2	1	1	-	-	-	8	15	33	4	9	26
9-3	-	2	-	1	1	1	-	-	-	17	14	11	0	5	0
9-4	-	1	-	1	0	0	-	-	-	20	8	7	0	4	0
9-5	-	0	-	1	1	0	-	-	-	15	5	4	0	2	0
9-6	-	0	-	1	0	0	-	-	-	7	3	0	0	0	0
5月計	2	2	3	4	1	0	10	16	9	-	-	-	28	56	25
6月計	6	5	4	10	5	9	3	16	1	18	20	18	32	48	57
7月計	-	5	0	61	17	13	0	0	0	139	99	101	287	157	201
8月計	-	10	0	55	18	39	0	0	0	194	152	226	121	73	212
9月計	-	5	0	10	4	3	0	0	0	71	58	92	9	27	56
合計	8	26	7	140	45	64	13	32	10	422	329	437	477	361	551

※四捨五入の関係で合計が合わない場合がある。

調査場所： 県中部：宇都宮市瓦谷町（農業試験場）の麦ほ場1か所、水稻ほ場1か所の計2か所
 県南部：栃木市大塚町（いちご研究所）の麦ほ場1か所、水稻ほ場1か所の計2か所
 小山市小葉（予察調査ほ定点）の水稻ほ場1か所
 合計5か所

調査方法：黄色粘着板（ホリバー：長辺26cm×短辺10cm、アリストライフサイエンスK. K.）を長辺が縦になるように支柱に固定した。設置高は粘着板中央部がほ場土面より1.5mとなのようにし、畦畔際に約3m間隔で5枚設置した。文字等の印刷面を南あるいは西向きとした。粘着板の回収間隔は概ね1週間毎とし、粘着板両面に付着したヒメトビウカ成虫数を計数した。

調査期間：2019年5月中旬～9月下旬



2) 麦類病害調査結果

(1) 病害発生予察ほ場における病害年次別発生状況

① 4月中旬 (発生ほ場率 %)

麦種・年	調査月日	ほ場数	うどんこ病	赤かび病	斑葉病	黒節病
小麦	4/8~10	8	0.0	0.0	-	0.0
二条		20	0.0	0.0	85.0	30.0
六条		12	0.0	0.0	0.0	33.3
R元(2019)	4/8~10	40	0.0	0.0	53.1	31.3
平年値		40	2.0	0.0	7.0	28.8
H30(2018)	4/9~11	40	0.0	0.0	33.3	10.0
H29(2017)	4/11~13	40	0.0	0.0	26.7	25.0
H28(2016)	4/11~13	40	12.5	0.0	10.0	52.5
H27(2015)	4/8~10	40	0.0	0.0	0.0	60.0
H26(2014)	4/9~11	40	0.0	0.0	0.0	2.5
H25(2013)	4/10, 12, 16	40	0.0	0.0	0.0	0.0
H24(2012)	4/9~11	40	0.0	0.0	0.0	30.0
H23(2011)	4/8, 11~13	40	0.0	0.0	0.0	50.0
H22(2010)	4/15, 16	40	5.0	0.0	0.0	-
H21(2009)	4/13, 14, 15	40	2.5	0.0	0.0	-

* 調査茎数：ほ場あたり50茎 斑葉病の発生ほ場率は大麦（二条十六条）のみで算出

② 5月上旬 (発生ほ場率 %)

麦種・年	調査月日	ほ場数	うどんこ病	赤かび病	斑葉病	黒節病
小麦	5/1, 2	8	0.0	0.0	-	0.0
二条		20	0.0	0.0	55.0	30.0
六条		12	0.0	0.0	0.0	0.0
R元(2019)	5/1, 2	40	0.0	0.0	34.4	15.0
平年値		41	7.7	0.4	10.8	12.8
H30(2018)	5/1, 2	40	10.0	0.0	46.7	0.0
H29(2017)	5/1, 2	40	0.0	0.0	30.0	5.0
H28(2016)	5/6	40	15.0	0.0	13.3	10.0
H27(2015)	5/7, 8	40	0.0	0.0	17.9	15.0
H26(2014)	5/7, 8	40	0.0	0.0	0.0	30.0
H25(2013)	5/7, 8	40	12.5	0.0	0.0	0.0
H24(2012)	5/6, 7, 9, 10	40	5.0	0.0	0.0	5.0
H23(2011)	5/6, 9, 10	40	2.5	0.0	0.0	37.5
H22(2010)	5/6, 7	46	21.7	4.3	0.0	-
H21(2009)	5/7, 8	40	10.0	0.0	0.0	-

* 調査茎数：ほ場あたり50茎 斑葉病の発生ほ場率は大麦（二条十六条）のみで算出

(2) 麦類縮萎縮病発生状況

① 大麦縮萎縮病（車上調査）

年	調査月日	調査圃場数	発生ほ場率(%)
H31(2019)	3/11, 12	1,120	1.7
平年値		1,482	0.8
H30(2018)	3/8	1,310	1.6
H29(2017)	3/1, 2	1,340	2.8
H28(2016)	3/8, 9	1,388	0.9
H27(2015)	3/9	1,302	0.7
H26(2014)	3/10	1,314	0.8
H25(2013)	3/8, 11	1,176	0.4
H24(2012)	3/7, 12	1,406	0.4
H23(2011)	3/9, 10, 11	1,302	0.0
H22(2010)	3/8, 9	2,348	0.0
H21(2009)	3/6, 11, 16	1,932	0.7

② 小麦縮萎縮病（車上調査）

年	調査月日	調査圃場数	発生ほ場率(%)
H31(2019)	4/8~10	326	0.0
平年値		436	8.9
H30(2018)	4/9~11	345	0.3
H29(2017)	4/10, 11	397	11.1
H28(2016)	4/11~13	420	11.0
H27(2015)	4/9~11	425	6.4
H26(2014)	4/9~11	461	5.0
H25(2013)	4/10~12	589	0.8
H24(2012)	4/9~11	392	13.3
H23(2011)	4/8, 11~13	459	23.3

(3) 赤かび病発生状況

麦種 年	5月上旬				5月中旬				5月下旬			
	調査月日	ほ場数	発生ほ場率(%)	発生茎率(%)	調査月日	ほ場数	発生ほ場率(%)	発生茎率(%)	調査月日	ほ場数	発生ほ場率(%)	発生茎率(%)
小麦	5/1, 2	8	0.0	0.0	5/10	8	0.0	0.0	5/20~27	38	0.0	0.0
二条		20	0.0	0.0		20	0.0	0.0		未調査	未調査	未調査
六条		12	0.0	0.0		12	0.0	0.0		16	6.3	0.0
R元(2019)	5/1, 2	40	0.0	0.0	5/10	40	0.0	0.0	5/20~27	54	1.9	0.0
平年値		42	0.4	0.0		44	9.4	0.0		42	25.8	0.1
H30(2018)	5/1, 2	40	0.0	0.0	5/10	40	5.0	0.0	5/22~25	55	45.5	0.2
H29(2017)	5/1, 2	40	0.0	0.0	5/11	40	0.0	0.0	5/23, 24, 29, 30	43	16.3	0.0
H28(2016)	5/6	40	0.0	0.0	5/14	40	12.5	0.0	5/24~30	40	22.5	0.0
H27(2015)	5/6	40	0.0	0.0	5/12	40	2.5	0.0	5/26~28	26	7.7	0.0
H26(2014)	5/7, 8	40	0.0	0.0	5/13, 14	34	0.0	0.0	5/26~28	26	15.4	0.0
H25(2013)	5/7, 8	40	0.0	0.0	5/14, 15	40	0.0	0.0	5/29, 31	45	6.7	0.0
H24(2012)	5/6, 7, 9, 10	40	0.0	0.0	5/17, 18, 21	38	63.2	0.1	5/28~30	64	82.8	0.5
H23(2011)	5/6, 9, 10	40	0.0	0.0	5/16, 17	45	0.0	0.0	5/23, 24	39	5.1	0.1
H22(2010)	5/6, 7	46	4.3	0.2	5/17, 18	55	0.0	0.0	5/25, 26	43	39.5	0.3
H21(2009)	5/7, 8	55	0.0	0.0	5/13, 14	72	11.1	0.03	5/25, 26, 27	43	16.3	0.2

* 調査数 5月上旬：ほ場あたり50茎 5月中・下旬：100穂

3) 大豆病害虫調査結果

(1) 病害虫発生予察ほ場における病害虫発生状況

① 8月

	べと病 (発生株数)	カメムシ類 成虫 (頭数)	カメムシ類 幼虫 (頭数)	ハスモン ヨトウ (発生の有無)	その他 チョウ目幼虫 (頭数)	フタスジヒメ ハムシ (頭数)	アブラムシ類 (発生株数)	備考
発生ほ場数(か所)	16	3	1	4	13	5	0	令和元(2019)年8月14・15日調査 総調査ほ場数: 30か所 総調査株数: 750株 (調査株数: 1ほ場25株) 平年値はH21(2009)~30(2018)年の平均
ほ場率	本年平均値	53.3	10.0	0.0	13.3	43.3	16.7	
	平年値	75.0	18.7	2.0	29.0	65.7	11.3	
頭数又は株数合計(頭、株)	184	3	1	-	30	12	0	
頭率 株率	本年平均値	6.1	0.1	0.0	-	1.0	0.4	
	平年値	12.7	0.3	0.1	-	2.2	0.2	
概 評	平年並	やや少	少	やや少	平年並	やや多	少	

※ハスモンヨトウは卵塊、幼虫のいる白変葉、幼虫の有無を調査
※べと病の平年値は、平成27(2015)年~30(2018)年の4ヶ年平均
発生地点率の推移

	べと病 (発生株数)	カメムシ類 成虫 (頭数)	カメムシ類 幼虫 (頭数)	ハスモン ヨトウ (発生の有無)	その他 チョウ目幼虫 (頭数)	フタスジヒメ ハムシ (頭数)	アブラムシ類 (発生株数)	備考 (調査日の平均・総調査地点数 ・その他)
H30(2018) . 8	50.0	23.3	0.0	20.0	60.0	0.0	16.7	8/13・30--里のほほえみ: 30ほ場
H29(2017) . 8	93.3	40.0	0.0	26.7	76.7	6.7	40.0	8/15・30--里のほほえみ: 30ほ場
H28(2016) . 8	86.7	16.7	0.0	43.3	63.3	3.3	56.7	8/15・30--里のほほえみ: 30ほ場
H27(2015) . 8	70.0	3.3	0.0	23.3	53.3	16.7	33.3	8/12・30--里のほほえみ: 30ほ場
H26(2014) . 8	30.0	10.0	0.0	26.7	60.0	10.0	26.7	8/12・30--里のほほえみ: 22ほ場
H25(2013) . 8	13.3	23.3	3.3	10.0	60.0	20.0	63.3	8/15・30--里のほほえみ: 6ほ場
H24(2012) . 8	3.3	43.3	10.0	36.7	83.3	26.7	63.3	8/15・30--里のほほえみ: 2ほ場
H23(2011) . 8	0.0	10.0	6.7	46.7	80.0	6.7	100.0	8/15・30--
H22(2010) . 8	10.0	6.7	0.0	33.3	80.0	16.7	80.0	8/16・30--
H21(2009) . 8	0.0	10.0	0.0	23.3	40.0	6.7	76.7	8/17・30--

発生頭数の推移

	べと病 (発生株数)	カメムシ類 成虫 (頭数)	カメムシ類 幼虫 (頭数)	ハスモン ヨトウ (発生の有無)	その他 チョウ目幼虫 (頭数)	フタスジヒメ ハムシ (頭数)	アブラムシ類 (発生株数)	備考(調査日の平均)
H30(2018) . 8	8.1	0.4	0.0	-	2.1	0.0	0.4	8/13・
H29(2017) . 8	14.9	0.5	0.0	-	2.4	0.2	1.0	8/15・
H28(2016) . 8	16.3	0.1	0.0	-	1.7	0.0	1.8	8/15・
H27(2015) . 8	11.6	0.1	0.0	-	1.6	0.4	0.4	8/12・
H26(2014) . 8	2.6	0.1	0.0	-	0.7	0.2	0.7	8/12・
H25(2013) . 8	0.9	0.1	0.0	-	1.7	0.2	2.3	8/15・
H24(2012) . 8	0.0	1.0	0.5	-	1.1	0.6	4.1	8/15・
H23(2011) . 8	0.0	0.1	0.4	-	4.2	0.1	14.4	8/15・
H22(2010) . 8	0.0	0.1	0.0	-	5.7	0.2	6.7	8/16・
H21(2009) . 8	0.0	0.1	0.0	-	0.7	0.1	3.8	8/17・

② 9月

	べと病 (発生株数)	葉焼病 (株)	カメムシ類 成虫 (頭数)	カメムシ類 幼虫 (頭数)	ハスモン ヨトウ (発生の有無)	その他 チョウ目幼虫 (頭数)	フタスジヒメ ハムシ (頭数)	アブラムシ類 (発生株数)	備考
発生ほ場数(か所)	30	12	8	1	7	11	4	7	令和元(2019)年9月2・3日調査 総調査ほ場数: 30か所 総調査株数: 750株 (調査株数: 1ほ場25株) 平年値はH21(2009)~30(2018)年の平均
ほ場率	本年平均値	100.0	40.0	26.7	3.3	23.3	36.7	13.3	
	平年値	82.5	47.8	27.7	8.2	52.5	39.2	26.7	
頭数又は株数合計(頭、株)	691	66	7	1	-	20	23	77	
頭率 株率	本年平均値	23.0	2.2	0.2	0.0	-	0.7	0.8	
	平年値	15.8	3.5	0.3	0.3	-	1.4	1.4	
概 評	平年並	(平年並)	平年並	やや少	やや少	平年並	やや少	やや少	

※ハスモンヨトウは卵塊、幼虫のいる白変葉、幼虫の有無を調査
※べと病の平年値は、平成27(2015)年~30(2018)年の4ヶ年平均
発生地点率の推移

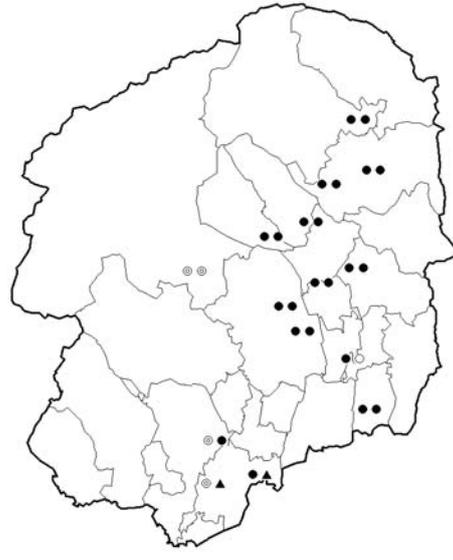
	べと病 (発生株数)	葉焼病 (株)	カメムシ類 成虫 (頭数)	カメムシ類 幼虫 (頭数)	ハスモン ヨトウ (発生の有無)	その他 チョウ目幼虫 (頭数)	フタスジヒメ ハムシ (頭数)	アブラムシ類 (発生株数)	備考 (調査日の平均・総調査地点数 ・その他)
H30(2018) . 9	93.3	46.7	36.7	6.7	46.7	26.7	16.7	70.0	9/4・30--里のほほえみ: 30ほ場
H29(2017) . 9	43.3	26.7	13.3	6.7	50.0	16.7	10.0	73.3	9/4・30--里のほほえみ: 30ほ場
H28(2016) . 9	93.3	33.3	36.7	3.3	26.7	16.7	26.7	73.3	9/5・30--里のほほえみ: 30ほ場
H27(2015) . 9	100.0	0.0	33.3	0.0	36.7	50.0	26.7	76.7	8/31・30--里のほほえみ: 30ほ場
H26(2014) . 9	73.3	20.0	23.3	3.3	43.3	40.0	13.3	96.7	9/1・30--里のほほえみ: 22ほ場
H25(2013) . 9	13.3	36.7	36.7	3.3	40.0	36.7	33.3	76.7	9/3・30--里のほほえみ: 6ほ場
H24(2012) . 9	6.7	66.7	40.0	23.3	66.7	56.7	46.7	63.3	9/4・30--里のほほえみ: 2ほ場
H23(2011) . 9	13.3	100.0	26.7	6.7	83.3	56.7	23.3	53.3	9/5・30--
H22(2010) . 9	26.7	-	30.0	16.7	83.3	80.0	40.0	26.7	9/13・30--
H21(2009) . 9	0.0	100.0	0.0	12.1	48.5	12.1	30.3	69.7	9/14・33--

発生頭数の推移

	べと病 (発生株数)	葉焼病 (株)	カメムシ類 成虫 (頭数)	カメムシ類 幼虫 (頭数)	ハスモン ヨトウ (発生の有無)	その他 チョウ目幼虫 (頭数)	フタスジヒメ ハムシ (頭数)	アブラムシ類 (発生株数)	備考(調査日の平均)
H30(2018) . 9	15.7	4.5	0.5	0.0	-	3.6	0.4	5.2	9/4・
H29(2017) . 9	10.0	4.9	0.0	0.4	-	0.3	0.7	7.0	9/4・
H28(2016) . 9	12.7	1.7	0.1	0.7	-	0.2	0.6	5.7	9/5・
H27(2015) . 9	24.9	0.0	0.4	0.0	-	1.5	1.4	6.7	8/31・
H26(2014) . 9	18.3	1.9	0.1	0.0	-	0.6	0.4	11.3	9/1・
H25(2013) . 9	1.6	3.8	0.1	0.0	-	0.5	4.2	11.1	9/3・
H24(2012) . 9	1.7	7.4	0.6	0.4	-	1.2	2.3	5.1	9/4・
H23(2011) . 9	0.7	6.9	0.2	0.0	-	1.1	1.3	3.0	9/5・
H22(2010) . 9	3.7	-	0.5	0.8	-	4.5	1.3	1.8	9/13・
H21(2009) . 9	0.0	0.0	0.0	0.5	-	0.2	1.7	3.3	9/14・



べと病の発生状況（8月調査）



べと病の発生状況（9月調査）

程度	無	やや少	少	平年並	やや多	多
平年比(%)	0	1~19	20~59	60~140	141~180	181~
記号	x	△	○	◎	▲	●

③ 8月（ハスモンヨトウ）

	ハスモンヨトウ				備考	
	白変葉 (株数)	卵塊数	若齢幼虫コロ ニー数	中老齢幼虫数		
発生ほ場数(か所)	3	0	2	1	令和元(2019)年8月14・15日調査 総調査ほ場数: 30か所 総調査株数: 750株 (調査株数: 1ほ場25株)	
ほ場率	本年平均値	10.0	0.0	6.7		3.3
	平年値	12.3	1.3	10.7		21.7
頭数又は株数合計(頭、株)	3	0	2	1		
頭率 株率	本年平均値	0.1	0.0	0.1		0.0
	平年値	0.1	0.0	0.1	1.2	
概 評	平年並	少	平年並	少		

発生地点率の推移

	ハスモンヨトウ				備考 (調査日の平均・総調査地点数)
	白変葉 (株数)	卵塊数	若齢幼虫コロ ニー数	中老齢幼虫数	
H30(2018) . 8	6.7	0.0	0.0	20.0	8/13・30
H29(2017) . 8	10.0	0.0	6.7	20.0	8/15・30
H28(2016) . 8	13.3	3.3	13.3	40.0	8/15・30
H27(2015) . 8	6.7	3.3	3.3	20.0	8/12・30
H26(2014) . 8	26.7	3.3	6.7	26.7	8/12・30
H25(2013) . 8	0.0	0.0	0.0	10.0	8/15・30
H24(2012) . 8	6.7	0.0	13.3	26.7	8/15・30
H23(2011) . 8	26.7	3.3	33.3	26.7	8/15・30
H22(2010) . 8	20.0	0.0	13.3	23.3	8/16・30
H21(2009) . 8	6.7	0.0	16.7	3.3	8/17・30

発生頭数・株数の推移

単位: 25株当たり頭数・株数

	ハスモンヨトウ				備考
	白変葉 (株数)	卵塊数	若齢幼虫コロ ニー数	中老齢幼虫数	
H30(2018) . 8	0.2	0.0	0.0	0.4	
H29(2017) . 8	0.0	0.0	0.0	0.6	
H28(2016) . 8	0.1	0.0	0.1	1.4	
H27(2015) . 8	0.0	0.0	0.0	0.9	
H26(2014) . 8	0.3	0.0	0.1	2.0	
H25(2013) . 8	0.0	0.0	0.0	0.4	
H24(2012) . 8	0.1	0.0	0.2	2.2	
H23(2011) . 8	0.1	0.0	0.2	1.0	
H22(2010) . 8	0.2	0.0	0.1	3.1	
H21(2009) . 8	0.0	0.0	0.0	0.1	

④ 9月（ハスモンヨトウ）

	ハスモンヨトウ				備考	
	白変葉 (株数)	卵塊数	若齢幼虫コロ ニー数	中老齢幼虫数		
発生ほ場数(か所)	0	0	1	6	令和元(2019)年9月2・3日調査 総調査ほ場数: 30か所 総調査株数: 750株 (調査株数: 1ほ場25株)	
ほ場率	本年平均値	0.0	0.0	3.3		20.0
	平年値	25.5	2.0	23.4		37.8
頭数又は株数合計(頭、株)	0	0	1	7		
頭率 株率	本年平均値	0.0	0.0	0.0		0.2
	平年値	0.2	0.0	0.2	2.9	
概 評	少	少	少	やや少		

発生地点率の推移

	ハスモンヨトウ				備考 (調査日の平均・総調査地点数)
	白変葉 (株数)	卵塊数	若齢幼虫コロ ニー数	中老齢幼虫数	
H30(2018) . 9	16.7	0.0	3.3	40.0	9/4・30
H29(2017) . 9	33.3	6.7	13.3	23.3	9/4・30
H28(2016) . 9	3.3	0.0	0.0	26.7	9/5・30
H27(2015) . 9	13.3	0.0	6.7	33.3	8/31・30
H26(2014) . 9	26.7	3.3	26.7	23.3	9/1・30
H25(2013) . 9	13.3	0.0	13.3	30.0	9/3・30
H24(2012) . 9	36.7	3.3	46.7	56.7	9/4・30
H23(2011) . 9	50.0	3.3	53.3	53.3	9/5・30
H22(2010) . 9	46.7	3.3	43.3	70.0	9/13・30
H21(2009) . 9	15.2	0.0	27.3	21.2	9/14・33

発生頭数・株数の推移

単位: 25株当たり頭数・株数

	ハスモンヨトウ				備考
	白変葉 (株数)	卵塊数	若齢幼虫コロ ニー数	中老齢幼虫数	
H30(2018) . 9	0.0	0.0	0.0	3.2	
H29(2017) . 9	0.5	0.1	0.1	1.2	
H28(2016) . 9	0.2	0.0	0.0	2.8	
H27(2015) . 9	0.1	0.0	0.1	0.6	
H26(2014) . 9	0.2	0.1	0.2	0.3	
H25(2013) . 9	0.0	0.0	0.0	1.8	
H24(2012) . 9	0.2	0.0	0.4	5.9	
H23(2011) . 9	0.3	0.0	0.9	2.5	
H22(2010) . 9	0.7	0.1	0.4	10.6	
H21(2009) . 9	0.1	0.0	0.0	0.6	

(2) 病害虫発生予察ほ場における被害粒発生状況

	健全粒	紫斑病	べと病	モザイク病		カメムシ類	マメシ ンクイ ガ	シロイ チモジ マダラ メイガ	サヤム シガ類	その他 チョウ 目害虫	フタス ジヒメ ハムシ	腐敗粒 (フザ リウム 属菌 等)	備考
				SMV	SSV								
発生ほ場数(か所)	15	12	15	1	0	15	13	5	3	0	13	14	令和元(2019)年10月7日~23日採取
ほ場率	本年平均値	80.0	100.0	6.7	0.0	100.0	86.7	33.3	20.0	0.0	86.7	93.3	総調査ほ場数:15か所 総調査株数:150株 総調査粒数:16,019粒 調査株数:10株
	平年値	60.7	98.3	4.7	0.0	95.3	67.3	14.7	16.0	16.7	84.0	76.7	
粒率	発生粒数(粒)	8,266	57	1,788	1	0	1,012	297	13	5	0	252	155
	本年平均値	66.6	0.5	14.4	0.0	0.0	8.2	2.4	0.1	0.0	0.0	2.0	1.2
	平年値	78.5	1.1	10.6	0.1	0.0	4.4	1.3	0.1	0.1	2.0	1.0	
概 評	-	平年並	平年並	平年並	少	やや多	やや多	やや多	やや少	少	平年並	平年並	平年値はH21(2009)~30(2018)年の平均

※SMV:ダイズモザイクウイルス、SSV:ダイズ萎縮ウイルス

調査方法:1地点(1ほ場)から10株無作為に採取し室内で乾燥後、粒径5.5mm未満を除く全粒を調査した。

発生粒率は全粒(病害虫以外の被害粒等も含む)に対する比率。

発生地点率の推移

	健全粒	紫斑病	べと病	モザイク病		カメムシ類	マメシ ンクイ ガ	シロイ チモジ マダラ メイガ	サヤム シガ類	その他 チョウ 目害虫	フタス ジヒメ ハムシ	腐敗粒 (フザ リウム 属菌 等)	備考 (総調査地点数)
				SMV	SSV								
H30(2018) . 10	-	46.7	100.0	0.0	0.0	100.0	66.7	0.0	6.7	20.0	73.3	80.0	15か所-里のほほえみ:15ほ場
H29(2017) . 10	-	93.3	100.0	6.7	0.0	100.0	73.3	0.0	0.0	20.0	80.0	100.0	15か所-里のほほえみ:15ほ場
H28(2016) . 10	-	40.0	100.0	13.3	0.0	86.7	80.0	13.3	6.7	13.3	86.7	93.3	15か所-里のほほえみ:15ほ場
H27(2015) . 10	-	13.3	93.3	0.0	0.0	100.0	80.0	0.0	0.0	6.7	86.7	66.7	15か所-里のほほえみ:15ほ場
H26(2014) . 10	-	33.3	66.7	0.0	0.0	93.3	60.0	0.0	20.0	20.0	73.3	80.0	15か所-里のほほえみ:11ほ場
H25(2013) . 10	-	66.7	26.7	0.0	0.0	86.7	66.7	13.3	26.7	0.0	73.3	53.3	15か所-里のほほえみ:3ほ場
H24(2012) . 10	-	66.7	6.7	13.3	0.0	100.0	73.3	20.0	0.0	53.3	93.3	86.7	15か所-里のほほえみ:1ほ場
H23(2011) . 10	-	73.3	0.0	0.0	0.0	93.3	46.7	20.0	13.3	0.0	86.7	40.0	15か所
H22(2010) . 10	-	73.3	0.0	6.7	0.0	100.0	53.3	26.7	26.7	20.0	93.3	86.7	15か所
H21(2009) . 10	-	100.0	13.3	6.7	0.0	93.3	73.3	53.3	60.0	13.3	93.3	80.0	15か所

単位: %

発生粒率の推移

	健全粒	紫斑病	べと病	モザイク病		カメムシ類	マメシ ンクイ ガ	シロイ チモジ マダラ メイガ	サヤム シガ類	その他 チョウ 目害虫	フタス ジヒメ ハムシ	腐敗粒 (フザ リウム 属菌 等)	備考 (採取日の平均)
				SMV	SSV								
H30(2018) . 10	71.6	0.1	5.5	0.0	0.0	7.9	0.8	0.0	0.1	0.0	0.7	0.7	10/23
H29(2017) . 10	55.7	3.1	17.6	0.0	0.0	8.0	1.3	0.0	0.0	0.1	0.9	2.0	10/25
H28(2016) . 10	69.9	0.1	13.1	0.2	0.0	2.2	2.4	0.0	0.0	0.1	2.2	2.1	10/21
H27(2015) . 10	84.0	0.0	6.3	0.0	0.0	1.7	2.1	0.0	0.0	0.0	1.4	0.5	10/16
H26(2014) . 10	90.2	0.1	4.8	0.0	0.0	1.8	0.5	0.0	0.1	0.1	1.0	0.4	10/20
H25(2013) . 10	89.3	0.1	2.1	0.0	0.0	1.8	0.6	0.0	0.1	0.0	3.3	0.5	10/18
H24(2012) . 10	78.0	0.2	0.3	0.2	0.0	9.8	1.0	0.1	0.0	0.3	2.5	0.4	10/15
H23(2011) . 10	88.2	0.4	0.0	0.0	0.0	3.9	1.3	0.1	0.0	0.0	2.2	0.2	10/18
H22(2010) . 10	72.8	1.6	0.0	0.0	0.0	4.8	1.8	0.3	0.2	0.0	3.0	2.8	10/19
H21(2009) . 10	85.3	5.4	0.0	0.3	0.0	2.2	0.7	0.6	0.2	0.0	2.4	0.7	10/19

単位: %

(3) 吸実性カメムシ類のフェロモントラップによる誘殺数
 ホソヘリカメムシ
 (フェロモントラップ)

月一 半旬	芳賀町稲毛田			宇都宮市瓦谷町			栃木市大塚町		
	R元 (2019)年	過去 6年 平均	H30 (2018)年	R元 (2019)年	過去 10年 平均	H30 (2018)年	R元 (2019)年	過去 10年 平均	H30 (2018)年
5-1	4	4	4	1	3	0	5	2	1
5-2	4	2	2	0	2	0	6	1	0
5-3	2	1	3	3	2	2	5	1	1
5-4	0	1	5	4	2	4	3	1	4
5-5	0	1	7	1	1	2	1	1	0
5-6	1	1	5	0	3	3	2	1	0
6-1	1	1	3	0	3	2	1	1	0
6-2	1	1	0	0	1	1	1	1	0
6-3	0	2	4	1	2	1	1	0	1
6-4	0	2	3	0	2	7	0	1	2
6-5	2	2	5	0	2	10	3	1	3
6-6	4	5	18	0	3	5	6	1	6
7-1	2	2	5	1	4	18	3	1	5
7-2	3	2	2	1	6	22	2	2	4
7-3	10	9	27	1	4	9	1	2	2
7-4	14	7	15	7	4	2	6	2	4
7-5	14	6	14	17	5	2	5	2	3
7-6	8	5	18	18	6	2	5	3	5
8-1	4	2	0	1	4	0	4	4	7
8-2	4	2	7	1	3	3	2	4	1
8-3	3	2	5	0	2	3	4	7	6
8-4	0	1	3	0	4	3	8	10	9
8-5	0	2	6	0	5	0	8	8	3
8-6	2	2	3	11	5	3	25	6	1
9-1	1	2	2	6	7	7	14	6	2
9-2	6	4	6	7	4	10	10	5	3
9-3	13	7	10	11	3	11	7	4	5
9-4	7	6	8	6	2	7	6	3	3
9-5	12	4	6	3	2	4	7	2	2
9-6	21	7	12	0	1	6	9	3	1
5月計	11	12	26	9	13	11	22	6	6
6月計	8	13	33	1	14	26	12	4	12
7月計	51	30	81	45	28	55	22	12	23
8月計	13	10	24	13	23	12	51	40	27
9月計	60	29	44	33	18	45	53	22	16
合計	143	95	208	101	96	149	160	85	84

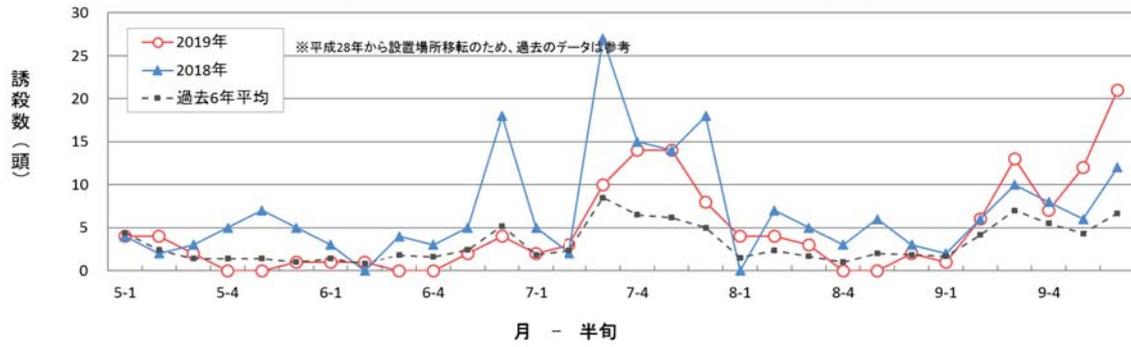
※四捨五入の関係で合計が合わない場合がある。

(フェロモントラップ ※)

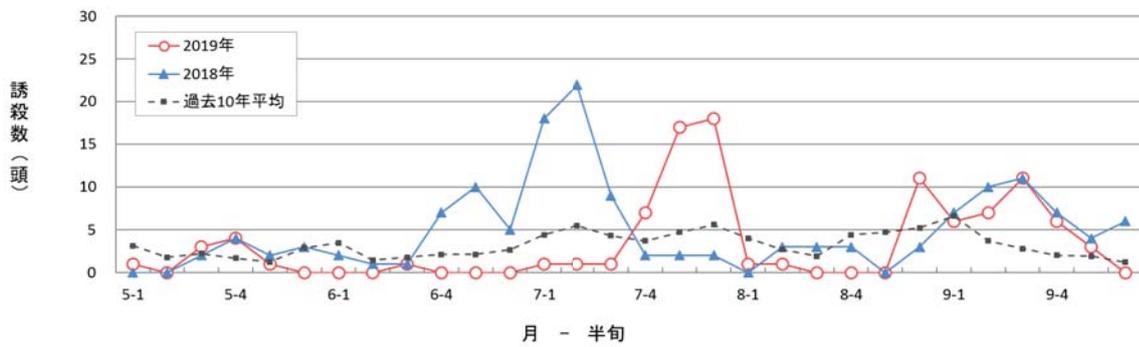
月一 半旬	日光市			益子町			さくら市			那須塩原市		
	R元 (2019)年	過去 5年 平均	H30 (2018)年									
5-1	0	1	0	0	0	0	1	0	1	0	4	0
5-2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0
5-3	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0
5-4	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0
5-5	1	1	0	1	0	0	0	0	0	2	0	0
5-6	1	1	1	1	0	0	1	1	0	2	1	0
6-1	1	1	2	1	0	0	1	0	0	1	0	1
6-2	1	1	3	0	0	0	1	1	1	0	0	0
6-3	1	1	1	2	0	0	0	1	0	1	1	1
6-4	0	2	1	1	0	0	0	0	0	2	1	0
6-5	1	3	1	0	0	0	0	0	0	2	0	0
6-6	3	4	6	2	0	0	0	0	1	2	0	1
7-1	4	2	3	1	0	0	0	1	0	0	1	1
7-2	2	3	3	2	0	0	0	0	0	0	1	1
7-3	3	5	4	2	0	0	0	0	0	0	0	1
7-4	9	9	10	1	0	0	1	0	0	1	1	3
7-5	9	9	7	4	0	0	0	0	0	1	1	2
7-6	14	12	6	6	0	0	0	1	1	2	1	1
8-1	15	9	9	3	0	0	0	1	0	2	2	1
8-2	4	11	13	1	0	0	1	1	0	2	2	1
8-3	4	11	12	1	0	0	1	1	0	2	2	1
8-4	4	6	9	0	0	0	1	1	0	1	3	3
8-5	7	4	4	0	0	0	0	1	2	1	3	1
8-6	4	3	5	3	0	0	0	0	0	0	1	1
9-1	4	2	4	1	0	0	0	0	0	0	2	3
9-2	4	3	4	0	0	0	0	0	0	1	3	4
9-3	4	2	3	0	0	0	0	0	0	0	3	3
9-4	2	2	3	0	0	0	0	0	0	0	2	3
9-5	3	1	2	0	0	0	0	0	0	0	1	2
9-6	5	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3
5月計	2	4	3	2	0	0	2	2	1	5	9	0
6月計	7	12	14	6	0	0	2	2	2	8	2	3
7月計	41	41	33	16	0	0	1	2	1	4	4	9
8月計	38	45	52	8	0	0	3	5	2	8	13	8
9月計	22	11	16	1	0	0	0	0	0	1	13	18
合計	110	112	118	33	1	0	8	10	6	26	41	38

※病害虫防除員による調査

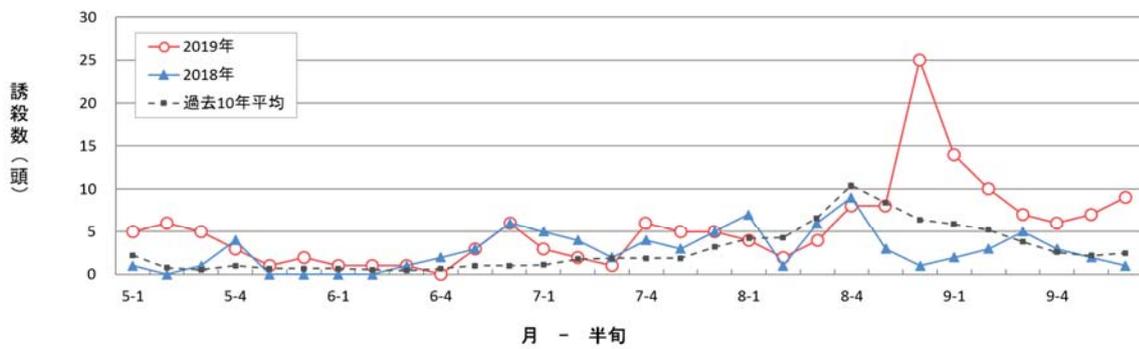
ホソヘリカメムシのフェロモントラップによる誘殺数 (芳賀町稲毛田)

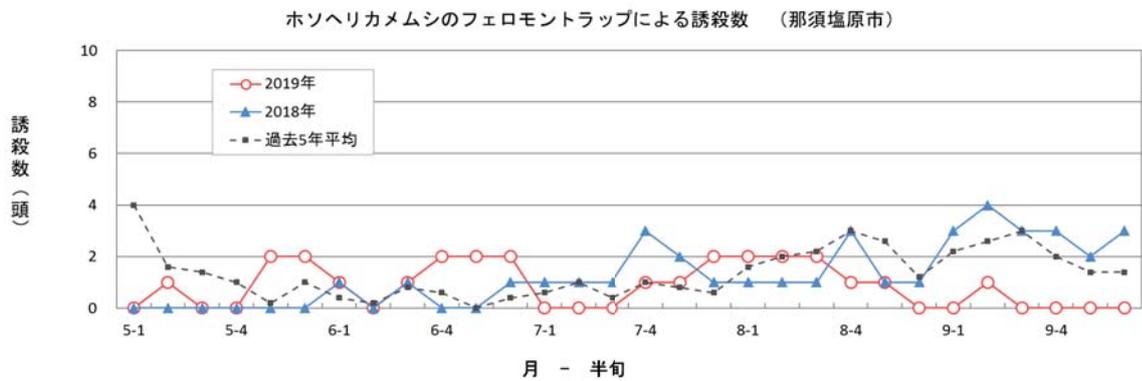
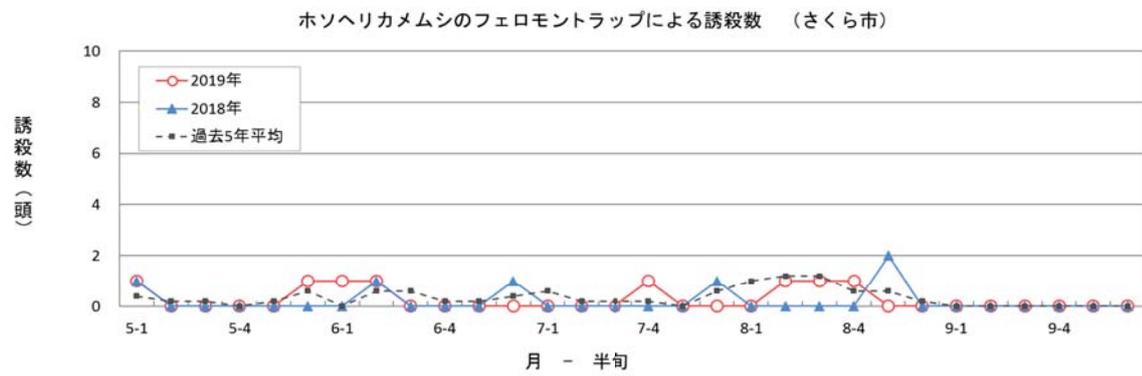
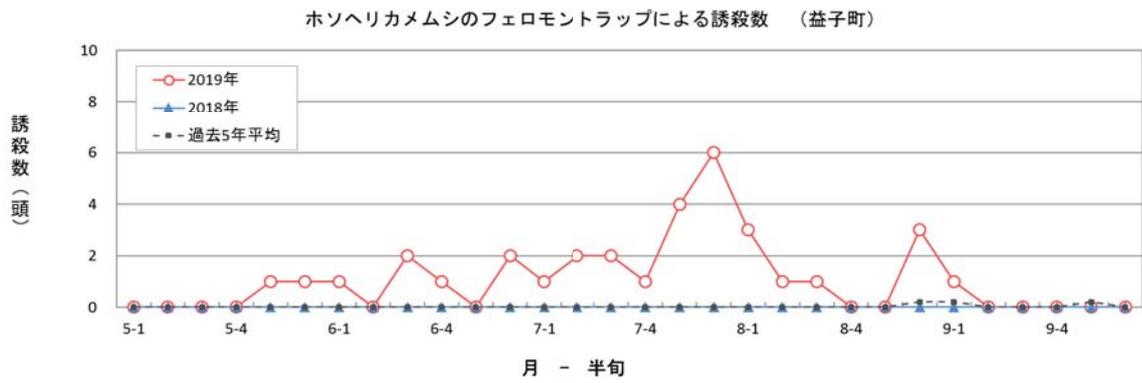
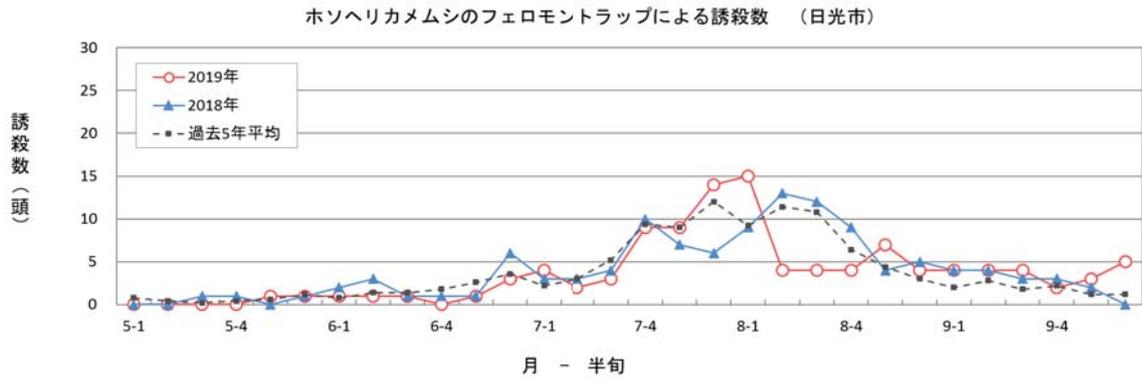


ホソヘリカメムシのフェロモントラップによる誘殺数 (宇都宮市瓦谷町)



ホソヘリカメムシのフェロモントラップによる誘殺数 (栃木市大塚町)





(4) コガネムシ類の予察灯による誘殺数

① オオクロコガネ

(60W予察灯)

月一 半旬	大田原市			宇都宮市瓦谷町			小山市			栃木市大塚町		
	R元 (2019)年	過去 10年 平均	H30 (2018)年									
5-1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5-2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5-3	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1
5-4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
5-5	1	1	2	0	0	1	0	0	0	1	0	0
5-6	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1
6-1	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
6-2	4	1	1	0	1	3	1	0	0	1	0	0
6-3	3	2	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0
6-4	11	6	3	1	1	0	1	0	0	1	1	0
6-5	44	12	11	0	2	3	0	1	0	3	1	1
6-6	21	14	84	3	3	3	0	0	1	1	1	0
7-1	20	6	13	0	2	3	0	1	3	2	1	1
7-2	9	6	17	0	2	6	0	0	0	1	0	1
7-3	10	4	14	0	4	7	0	1	0	0	0	1
7-4	29	4	4	3	2	5	0	1	5	0	1	0
7-5	22	2	0	1	2	2	0	0	0	0	1	1
7-6	37	6	3	2	2	3	0	1	1	1	0	1
8-1	10	6	4	1	1	3	1	0	0	0	0	0
8-2	7	4	12	1	1	-※	0	1	0	0	0	0
8-3	0	2	3	1	1	-	0	1	1	0	0	1
8-4	5	2	0	2	2	-	1	0	0	0	0	0
8-5	2	1	1	0	1	-	0	0	0	0	0	0
8-6	1	1	1	1	2	-	0	0	0	0	0	0
9-1	2	1	2	1	0	-	0	0	0	1	0	0
9-2	0	0	0	0	0	-	1	0	0	0	0	0
9-3	0	0	0	0	0	-	0	0	2	0	0	0
9-4	0	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0
9-5	0	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0
9-6	0	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0
5月計	1	2	4	1	1	1	0	1	0	1	2	3
6月計	84	35	100	5	7	9	2	2	1	6	3	2
7月計	127	28	51	6	14	26	0	4	9	4	3	5
8月計	25	16	21	6	7	3	2	2	1	0	1	1
9月計	2	2	2	1	0	0	1	1	2	1	0	0
合計	239	82	178	19	30	39	5	9	13	12	9	11

※四捨五入の関係で合計が合わない場合がある。

※) 2018年宇都宮市瓦谷町予察灯は、故障の為8月第1半旬で調査終了とした。

② ヒメコガネ

(60W予察灯)

月一 半旬	大田原市			宇都宮市瓦谷町			小山市			栃木市大塚町		
	R元 (2019)年	過去 10年 平均	H30 (2018)年									
5-1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5-2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5-3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5-4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5-5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5-6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6-1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6-2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6-3	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6-4	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6-5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6-6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7-1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7-2	0	0	0	0	0	0	0	1	5	0	0	0
7-3	0	0	1	0	0	2	0	2	4	0	1	9
7-4	0	0	2	0	0	0	0	5	2	0	0	0
7-5	0	1	2	0	0	1	0	7	11	0	2	5
7-6	0	1	2	0	2	4	0	8	0	0	5	12
8-1	0	1	4	0	1	2	0	4	2	0	6	11
8-2	0	1	5	0	1	-※	0	3	3	0	4	1
8-3	0	1	3	0	1	-	0	2	2	0	3	7
8-4	0	1	0	0	1	-	0	1	0	0	1	1
8-5	0	0	0	0	1	-	0	1	0	0	2	3
8-6	0	0	0	0	0	-	0	0	0	0	1	1
9-1	0	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	1
9-2	0	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0
9-3	0	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0
9-4	0	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0
9-5	0	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0
9-6	0	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0
5月計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6月計	0	4	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
7月計	0	3	7	0	3	7	0	22	22	0	9	26
8月計	0	4	12	0	5	2	0	12	7	0	17	24
9月計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
合計	0	11	19	0	9	9	0	34	29	0	26	51

※) 2018年宇都宮市瓦谷町予察灯は、故障の為8月第1半旬で調査終了とした。

③ ドウガネブイブイ
(60W予察灯)

月一 半旬	大田原市			宇都宮市瓦谷町			小山市			栃木市大塚町		
	R元 (2019)年	過去 10年 平均	H30 (2018)年									
5-1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5-2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5-3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5-4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
5-5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5-6	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
6-1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6-2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6-3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
6-4	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	0	0
6-5	1	0	0	0	0	1	0	1	3	4	1	1
6-6	0	1	0	0	1	1	0	2	7	4	1	4
7-1	0	1	0	0	1	4	0	3	12	3	1	1
7-2	0	1	1	0	2	6	0	2	5	2	2	4
7-3	0	1	2	0	2	1	1	3	7	0	1	6
7-4	0	1	1	0	1	2	3	3	22	2	2	14
7-5	2	1	3	1	1	2	1	3	8	2	2	7
7-6	2	1	0	3	1	1	5	2	2	3	1	2
8-1	1	1	0	3	1	0	14	3	4	15	3	11
8-2	1	1	1	3	1	-※	4	1	4	14	2	2
8-3	0	1	1	0	1	-	3	1	3	6	2	7
8-4	0	0	0	0	0	-	4	1	1	1	1	1
8-5	1	1	0	0	0	-	0	1	4	2	2	2
8-6	0	0	0	2	1	-	1	0	0	0	1	3
9-1	1	0	0	0	0	-	1	0	0	2	0	0
9-2	1	0	0	0	0	-	2	0	1	0	0	0
9-3	0	0	0	1	0	-	0	0	0	2	0	0
9-4	0	0	0	0	0	-	0	0	0	1	0	1
9-5	0	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0
9-6	0	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0
5月計	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
6月計	1	1	0	0	1	2	1	4	11	9	4	5
7月計	4	5	7	4	7	16	10	17	56	12	9	34
8月計	3	4	2	8	4	0	26	8	16	38	10	26
9月計	2	0	0	1	1	0	3	1	1	5	0	1
合計	11	10	9	13	12	18	41	29	84	64	23	67

※) 2018年宇都宮市瓦谷町予察灯は、故障の為8月第1半旬で調査終了とした。